

**子ども発達支援に関するアンケート調査
結果報告書
(支援者・関係機関調査)**

目 次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査の設計・回収結果等	1
3	報告書の見方	2
II	保健師アンケート	3
1	回答者について	3
2	発達支援に関する現状について	6
3	乳幼児健康診査や相談対応など日々の業務について	10
4	関係機関との連携について	16
5	発達支援の充実に向けて	22
III	幼稚園アンケート	28
1	園および在園児について	28
2	発達支援の現状や必要な支援などについて	30
3	「気になる子」の現状と対応の課題について	37
4	関係機関との連携について	41
IV	保育所アンケート	43
1	園および在園児について	43
2	発達支援の現状や必要な支援について	46
3	「気になる子」の現状と対応の課題について	58
4	関係機関との連携について	64
5	エリア支援保育所について	68
V	子育て支援拠点アンケート	70
1	拠点について	70
2	拠点の利用者について	72
3	発達支援に関する取組状況について	75
4	地域療育センターについて	85
VI	医療機関アンケート	88
1	発達に遅れや不安のある子どもや障害児等の診療の状況について	88
2	リハビリテーションについて	96
3	地域療育センター・関連機関との連携について	98
VII	児童発達支援指定事業所利用者アンケート	102

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、本市の子ども発達支援施策に関する将来的な方針を検討する上での基礎資料の収集を目的とする。

2 調査の設計・回収結果等

・保健師アンケート

調査対象	名古屋市の保健センターの職員
標本数	244 人
抽出方法	全数
調査方法	保健センターから職員へ配布、郵送もしくは Web 回収
調査時期	令和 5 年 10 月～11 月
回収結果	有効回収数 161 人、回収率 66.0%

・幼稚園アンケート

調査対象	名古屋市立幼稚園
標本数	20 園
抽出方法	全数
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	令和 5 年 11 月～12 月
回収結果	有効回収数 19 園、回収率 95.0%

・保育所アンケート

調査対象	名古屋市立保育所
標本数	87 園
抽出方法	全数
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	令和 5 年 11 月～12 月
回収結果	有効回収数 65 園、回収率 74.7%

・子育て支援拠点アンケート

調査対象	子育て応援拠点・地域子育て支援拠点
標本数	62 拠点
抽出方法	全数

調査方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	令和5年12月
回収結果	有効回収数 53 拠点、回収率 85.5%

・医療機関アンケート

調査対象	名古屋市子ども発達支援サイトすてっぷサポートに掲載の就学前児童を対象年齢としている医療機関
標本数	27 医療機関
抽出方法	全数
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査時期	令和5年11月～12月
回収結果	有効回収数 14 医療機関、回収率 51.9%

* 28 医療機関に送付し、1 医療機関から対象外との回答有

・児童発達支援指定事業所利用者アンケート

調査対象	名古屋市子ども発達支援サイトすてっぷサポートに掲載の指定事業所（児童支援給付）
標本数	指定事業所を利用する子どもの保護者
抽出方法	全数
調査方法	サイトに掲載された自己評価結果を集計
調査時期	令和5年7月
集計対象	有効回答数 2,045 人*

* 各指定事業所で独自に設問や選択肢を改変しているケース、質問していないケースがあり、本集計からは除外したため、評価項目ごとに回答者数が異なる。2,045 人はもっとも回答が多かった質問の回答者数

3 報告書の見方

- ・ 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため単数回答の場合であっても、パーセントの合計が 100 にならないことがある。
- ・ 回答の比率は、その設問に該当する回答者数を基数（n）として算出した。そのため、複数回答の各項目の比率の合計は通常 100%を超える。
- ・ クロス集計の図表で表側となる設問に「無回答」がある場合は、これを表示していない。ただし、全体の件数に含めているため、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- ・ 本報告書中の表、グラフ等の見出しでの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。

Ⅱ 保健師アンケート

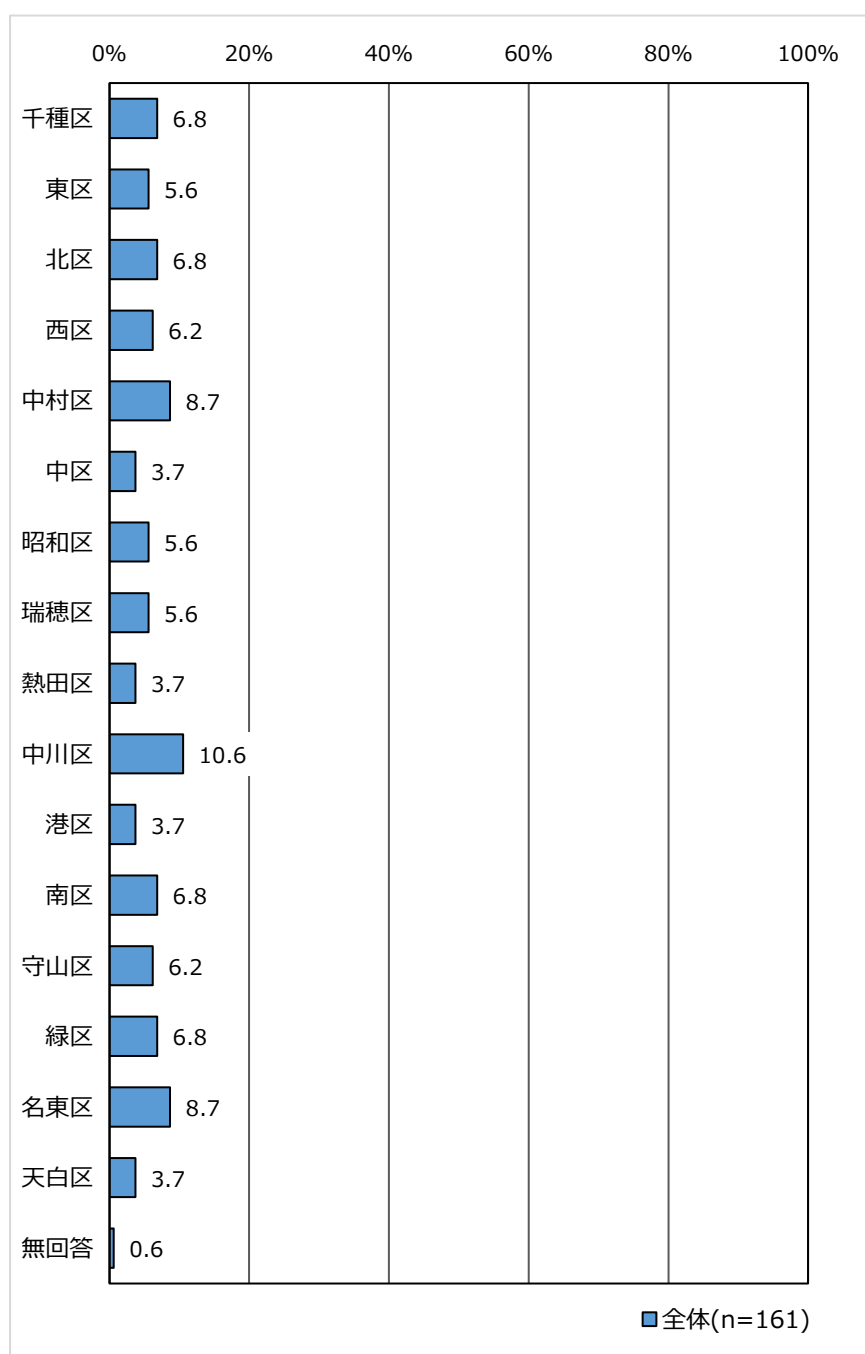
1 回答者について

現在所属している保健センターの所在地

問 1 現在所属している保健センターの所在地（1つに○）

「中川区」が10.6%、「中村区」「名東区」が8.7%、「千種区」「北区」「南区」「緑区」が6.8%となっている。

図表 1 現在所属している保健センターの所在地:単数回答（問 1）

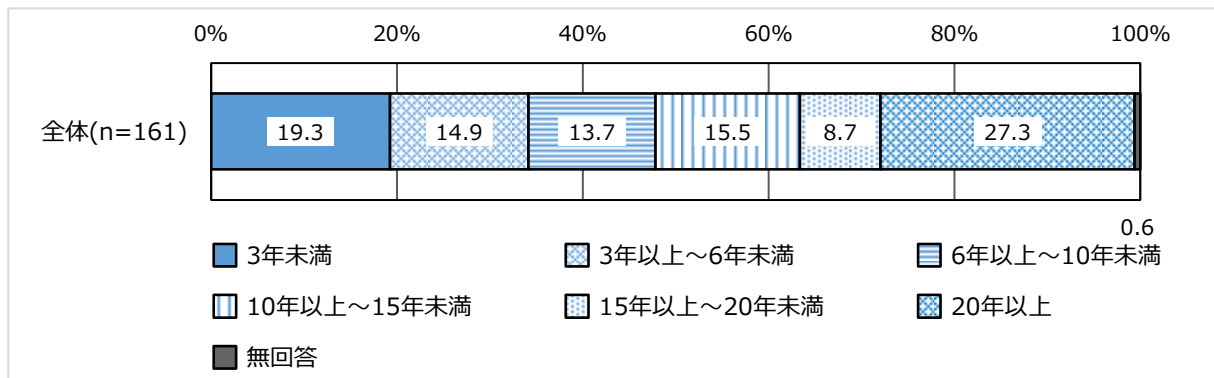


保健師としての通算経験年数

問2 保健師としての通算経験年数（市役所以外の職務経験年数も含む）

保健師としての通算経験年数について、「3年未満」から「20年以上」まで分散している。

図表2 保健師としての通算経験年数：単数回答（問2）



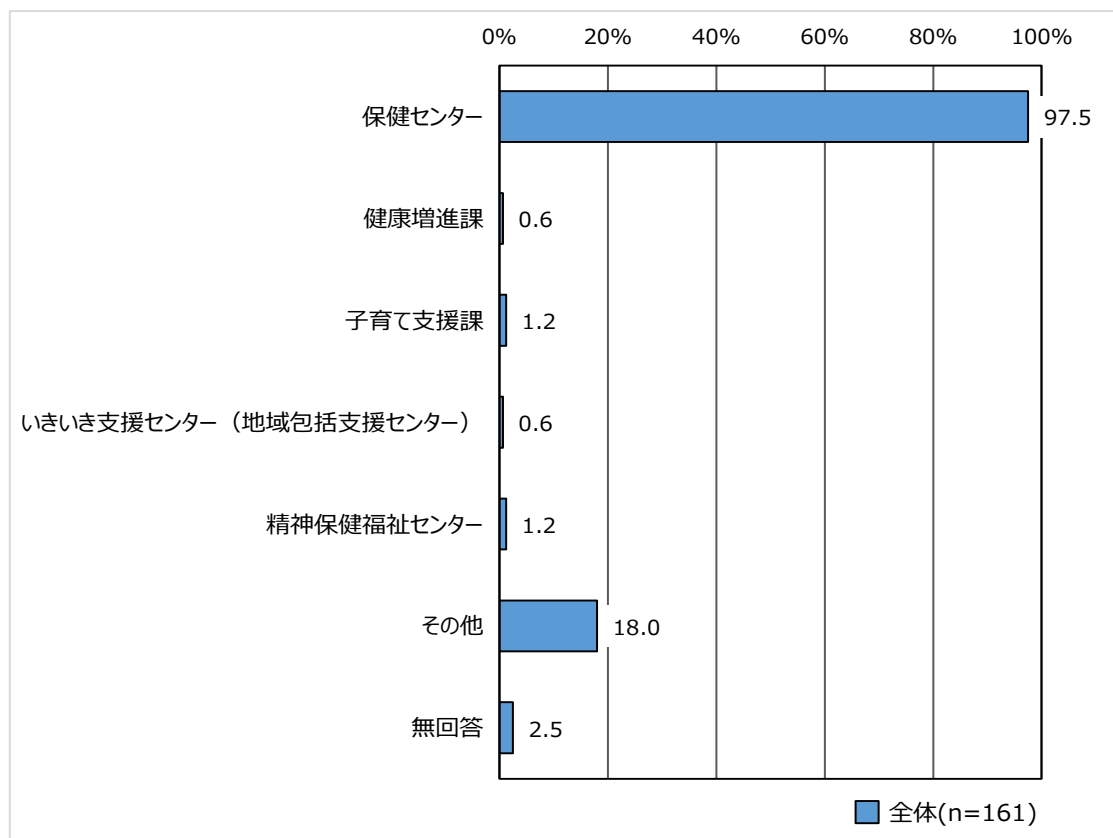
これまでの名古屋市での配属部署

問3 これまでの名古屋市での配属部署と年数（4つ以上ある場合は、年数の長いもの3つをご記入ください）

「保健センター」が97.5%となっている。

「その他」としては、「福祉課」、「保育園」、「介護保険課」などの回答がみられた。

図表3 これまでの名古屋市での配属部署：複数回答（問3）



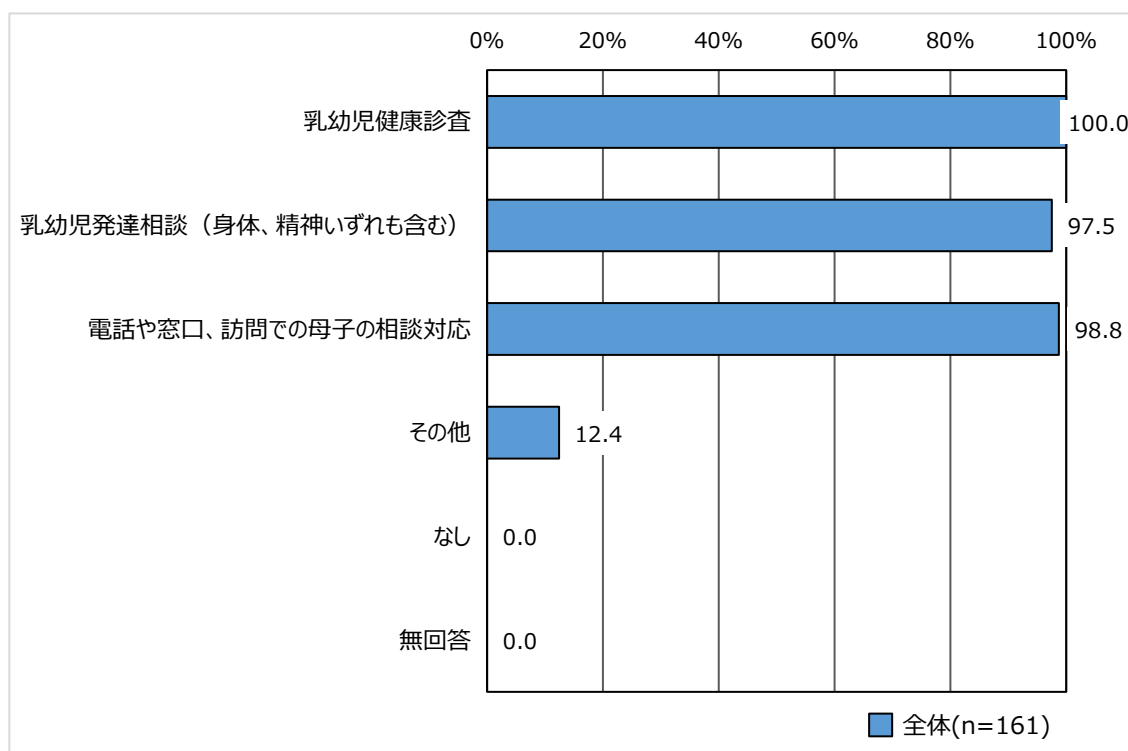
担当した発達支援に関する業務経験

問4 これまで担当したことのある、発達支援に関する業務経験についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

「乳幼児健康診査」は100.0%となっており、「電話や窓口、訪問での母子の相談対応」が98.8%、「乳幼児発達相談（身体、精神いずれも含む）」が97.5%となっている。

「その他」としては、「家庭訪問」、「保育園での相談対応」、「受診同行」、「発達支援に関する連携会議」などの回答がみられた。

図表 4 担当した発達支援に関する業務経験:複数回答(問4)



2 発達支援に関する現状について

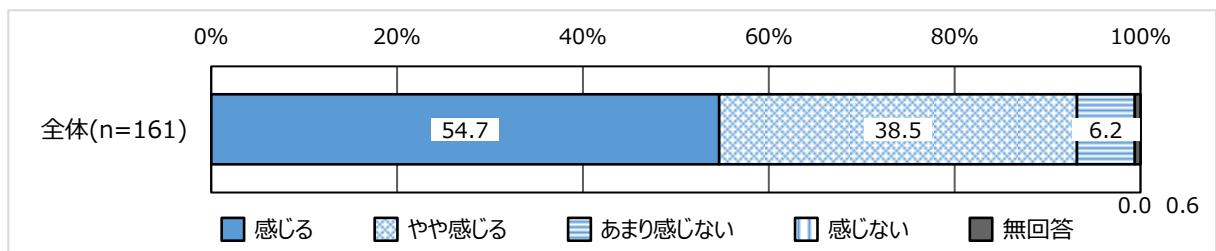
障害診断はないが発達支援が必要な子どもが増えていると感じるか

問5 日々の業務を行う中で、障害の診断は受けていないが、発達支援が必要な子ども※が増えていると感じますか。（1つに○）

※未診断で療育機関につながっているケースも含みます（以下、同様）。発達障害の疑いがあるケースを中心に考え下さい。

「感じる」が54.7%でもっとも割合が高く、次いで「やや感じる」が38.5%となっている。

図表 5 障害診断はないが発達支援が必要な子どもが増えていると感じるか:単数回答（問5）



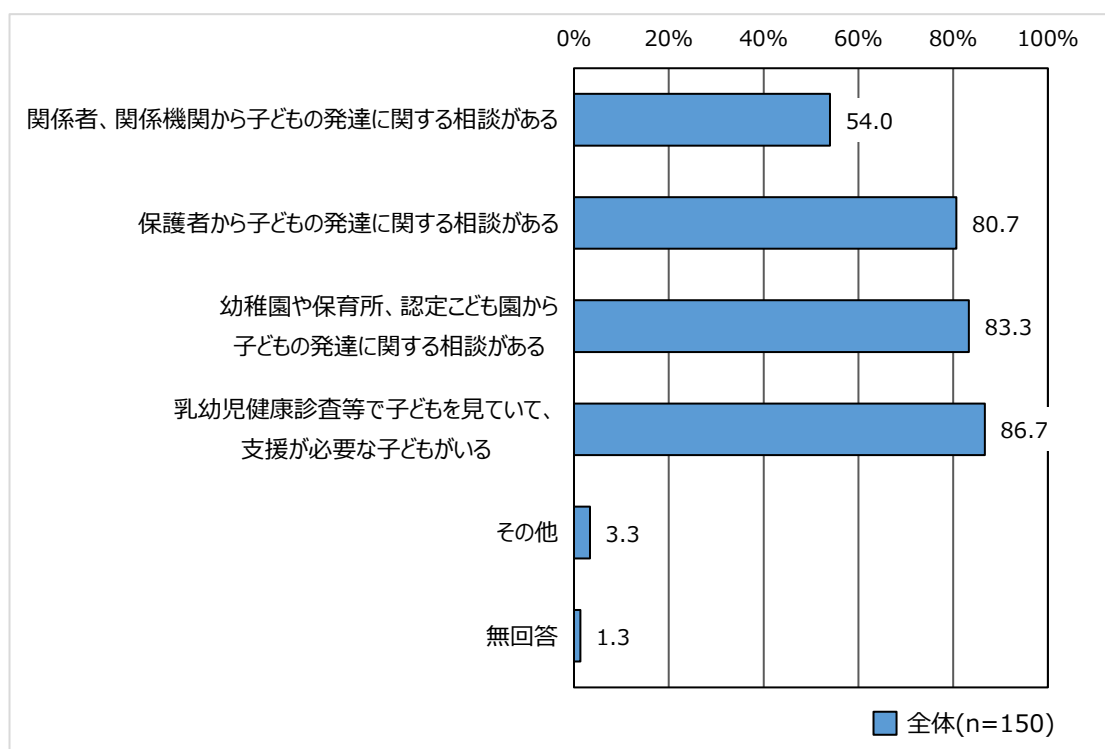
発達支援が必要な子どもが増えていると感じる状況

※問5で「1. 感じる」もしくは「2. やや感じる」とお答えの方（その他の方は問8へ）

問6 どのような状況から、発達支援が必要な子どもが増えていると感じますか。（あてはまる番号すべてに○）※発達障害の疑いがあるケースを中心にお考え下さい。

「乳幼児健康診査等で子どもを見ていて、支援が必要な子どもがいる」（86.7%）、「幼稚園や保育所、認定こども園から子どもの発達に関する相談がある」（83.3%）、「保護者から子どもの発達に関する相談がある」（80.7%）の割合がとくに高い。

図表 6 発達支援が必要な子どもが増えていると感じる状況：複数回答（問6）

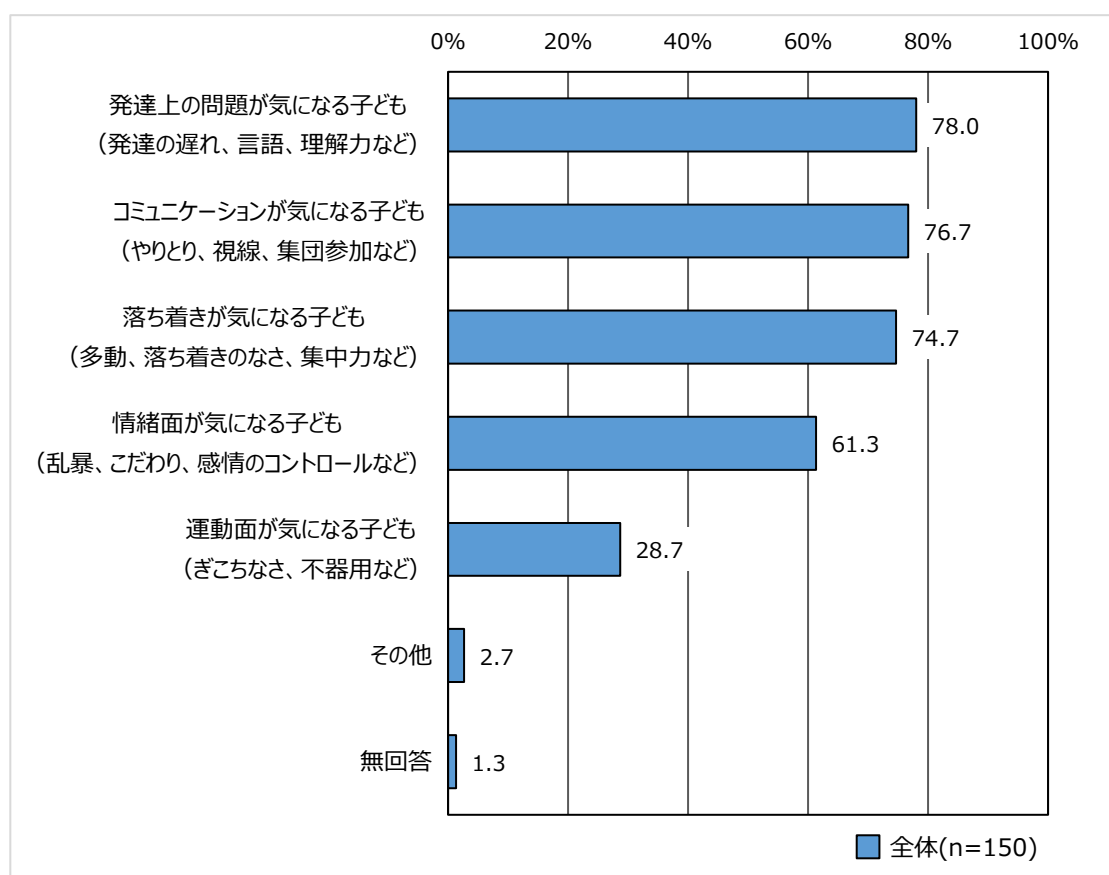


障害の診断はないが発達支援が必要な子どもの特性

問7 障害の診断は受けていないが、発達支援が必要な子どもについて、特にどのような子どもが多いと感じますか。(あてはまる番号すべてに○) ※発達障害の疑いがあるケースを中心に考え下さい。

「発達上の問題が気になる子ども（発達の遅れ、言語、理解力など）」(78.0%)、「コミュニケーションが気になる子ども（やりとり、視線、集団参加など）」(76.7%)、「落ち着きが気になる子ども（多動、落ち着きのなさ、集中力など）」(74.7%) の割合が高い。

図表 7 障害の診断はないが発達支援が必要な子どもの特性:複数回答（問7）

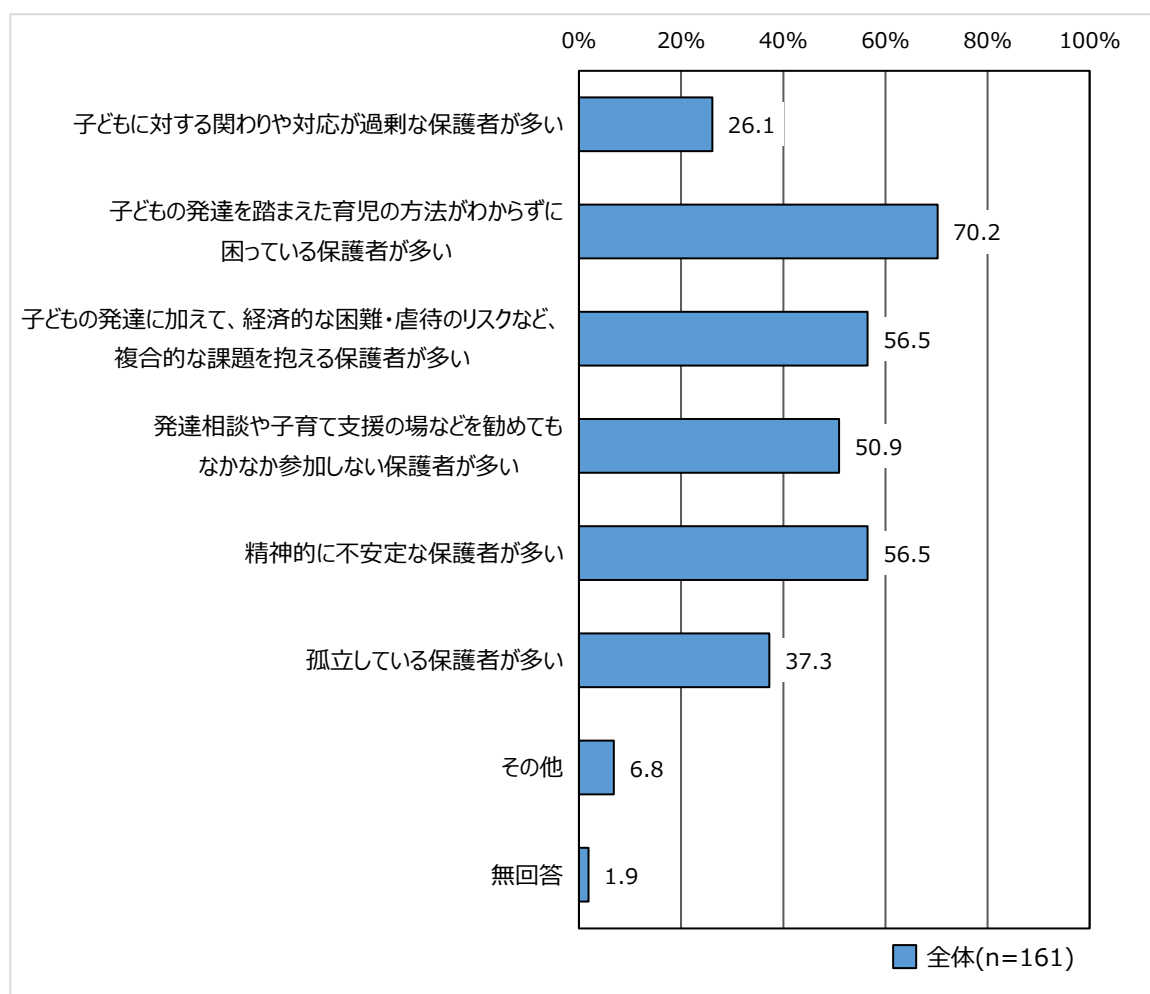


子どもの発達支援の中で保護者の気になること

問8 子どもの発達支援をする中で、保護者について気になることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

「子どもの発達を踏まえた育児の方法がわからずに困っている保護者が多い」(70.2%)、「子どもの発達に加えて、経済的な困難・虐待のリスクなど、複合的な課題を抱える保護者が多い」(56.5%)、「精神的に不安定な保護者が多い」(56.5%)、「発達相談や子育て支援の場などを勧めてもなかなか参加しない保護者が多い」(50.9%)の割合が高い。

図表 8 子どもの発達支援の中で保護者の気になること：複数回答（問8）



3 乳幼児健康診査や相談対応など日々の業務について

乳幼児健康診査で現在感じる課題

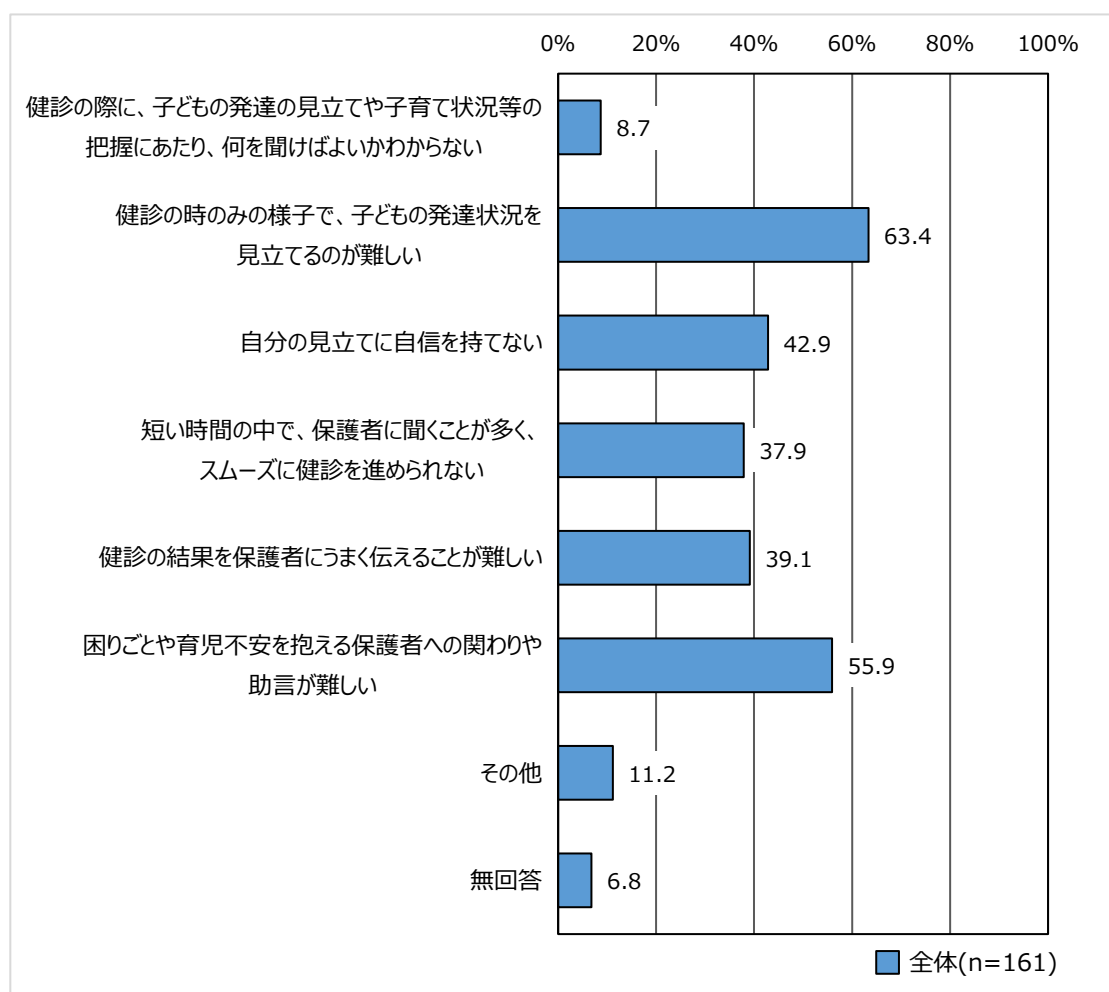
問10 乳幼児健康診査（以下、健診）において、あなたは現在どのような課題を感じていますか。（あてはまる番号すべてに○）

「健診の時のみの様子で、子どもの発達状況を見立てるのが難しい」（63.4%）、「困りごとや育児不安を抱える保護者への関わりや助言が難しい」（55.9%）の割合が高い。

「その他」としては、「明らかに発達の遅れが見られ、保健師として療育センター受診が必要と感じているが、保護者が療育センター受診に対して拒否感を示される」、「療育センターへの受診が必要な子（親が認めていない）の親へ療育の必要性を伝えることが難しい」、「発達に問題があっても、親の意識がないと提案したことを受け止めていただけない」、「保健所職員の経験値のアンバランス、若手が急増し、判断力及び母らへの指導力が低下している」などの回答がみられた。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満では、すべての項目の割合が6年以上に比べて高くなっているが、特に「健診の際に、子どもの発達の見立てや子育て状況等の把握にあたり、何を聞けばよいかわからない」、「自分の見立てに自信を持ってない」、「困りごとや育児不安を抱える保護者への関わりや助言が難しい」の割合が高くなっている。

図表 9 乳幼児健康診査で現在感じる課題：複数回答（問10）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	健診の際に、子どもの発達の見立てや子育て状況等の把握にあたり、何を聞けばよいかわからない	健診の時のみの様子で、子どもの発達状況を見立てるのが難しい	自分の見立てに自信を持ってない	短い時間の中で、保護者に聞くことが多く、スムーズに健診を進められない	健診の結果を保護者にうまく伝えることが難しい	困りごとや育児不安を抱える保護者への関わりや助言が難しい	その他	無回答
全体		161 100.0	14 8.7	102 63.4	69 42.9	61 37.9	63 39.1	90 55.9	18 11.2	11 6.8
保健師としての 通算経験年数	6年未満	55 100.0	12 21.8	41 74.5	42 76.4	24 43.6	29 52.7	41 74.5	4 7.3	0 0.0
	6年以上～15年未満	47 100.0	1 2.1	29 61.7	17 36.2	17 36.2	18 38.3	23 48.9	1 2.1	6 12.8
	15年以上	58 100.0	1 1.7	31 53.4	9 15.5	19 32.8	16 27.6	25 43.1	13 22.4	5 8.6

個別相談支援の場で現在感じる課題

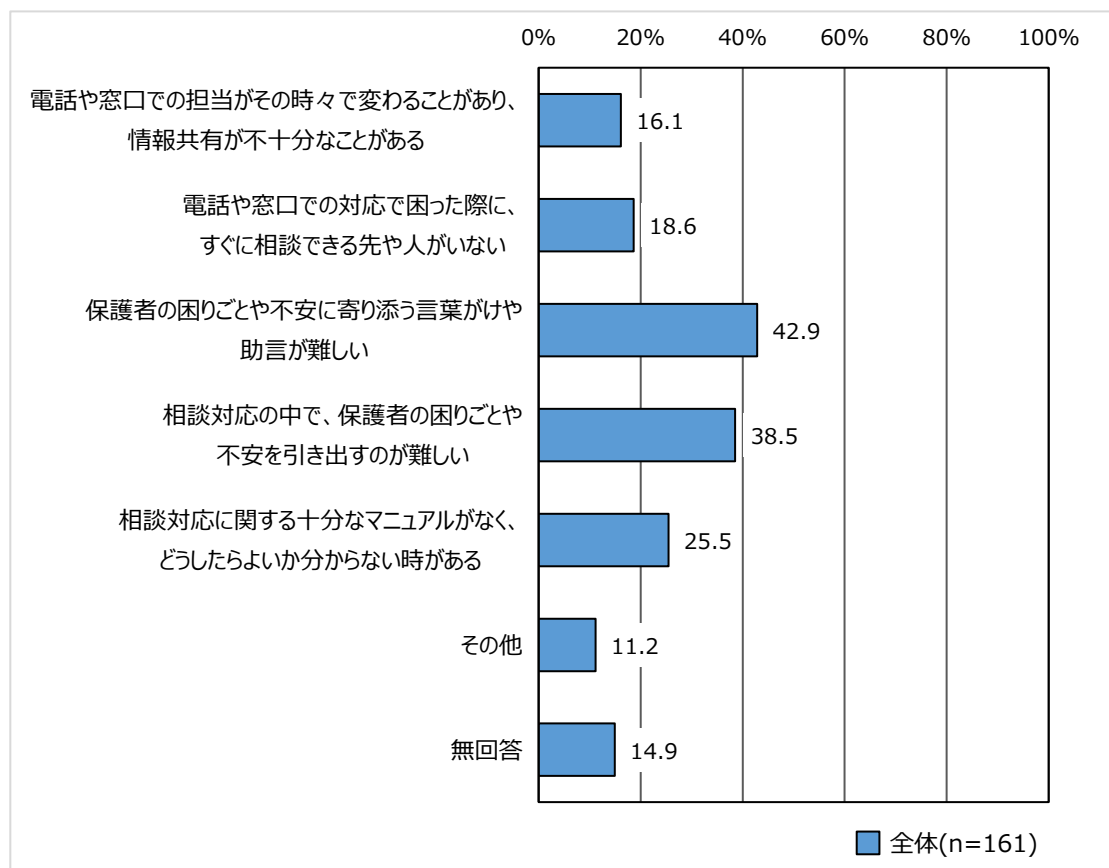
問 1 2 電話や窓口、家庭訪問などの個別相談支援の場において、あなたは現在どのような課題を感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「保護者の困りごとや不安に寄り添う言葉がけや助言が難しい」(42.9%)、「相談対応の中で、保護者の困りごとや不安を引き出すのが難しい」(38.5%)、「相談対応に関する十分なマニュアルがなく、どうしてもよいか分からない時がある」(25.5%)の割合が高い。

「その他」としては、「社会資源の情報不足」、「自身が経験が浅いので自分が対応した際と経験のある方が対応した際に対象が得られる情報の質が異なってしまう」、「療育センターより一旦保健センター事業につなげたい場合、予約が数ヶ月先まで埋まってしまっておりタイムリーにつなげないことがある」などの回答がみられた。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満では、「保護者の困りごとや不安に寄り添う言葉がけや助言が難しい」、「相談対応の中で、保護者の困りごとや不安を引き出すのが難しい」、「相談対応に関する十分なマニュアルがなく、どうしてもよいか分からない時がある」の割合が6年以上に比べて高くなっている。

図表 10 個別相談支援の場で現在感じる課題:複数回答(問 12)



(クロス集計)

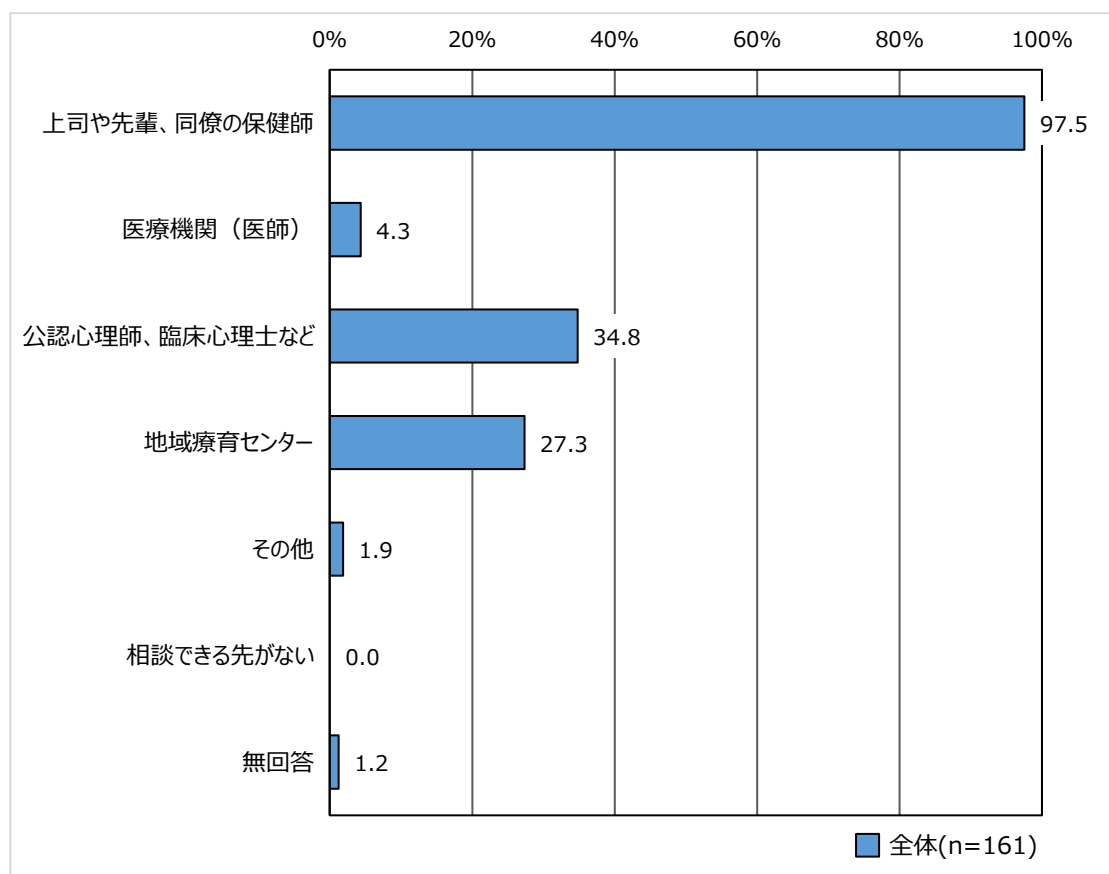
上段：実数 下段：%		合計	電話や窓口での担当がその時々で変わる とがあり、情報共有が不十分なことがある	電話や窓口での対応で困った際に、すぐに 相談できる先や人がいない	保護者の困りごとや不安に寄り添う言葉が けや助言が難しい	相談対応の中で、保護者の困りごとや不安 を引き出すのが難しい	相談対応に関する十分なマニュアルがな く、どうしたらよいか分からない時がある	その他	無回答
全体		161 100.0	26 16.1	30 18.6	69 42.9	62 38.5	41 25.5	18 11.2	24 14.9
保健師としての 通算経験年数	6年未満	55 100.0	9 16.4	11 20.0	34 61.8	31 56.4	24 43.6	1 1.8	1 1.8
	6年以上～15年未満	47 100.0	6 12.8	8 17.0	14 29.8	15 31.9	9 19.1	6 12.8	9 19.1
	15年以上	58 100.0	11 19.0	11 19.0	21 36.2	16 27.6	7 12.1	11 19.0	14 24.1

子どもの発達の見立てや支援についての相談相手

問 14 あなたは、子どもの発達の見立てや支援について、困った際や悩んだ際に、誰に相談していますか。（あてはまる番号すべてに○）

ほとんどの保健師が「上司や先輩、同僚の保健師」（97.5%）と回答しており、「公認心理師、臨床心理士など」（34.8%）、「地域療育センター」（27.3%）との回答もみられる。

図表 11 子どもの発達の見立てや支援についての相談相手：複数回答（問 14）

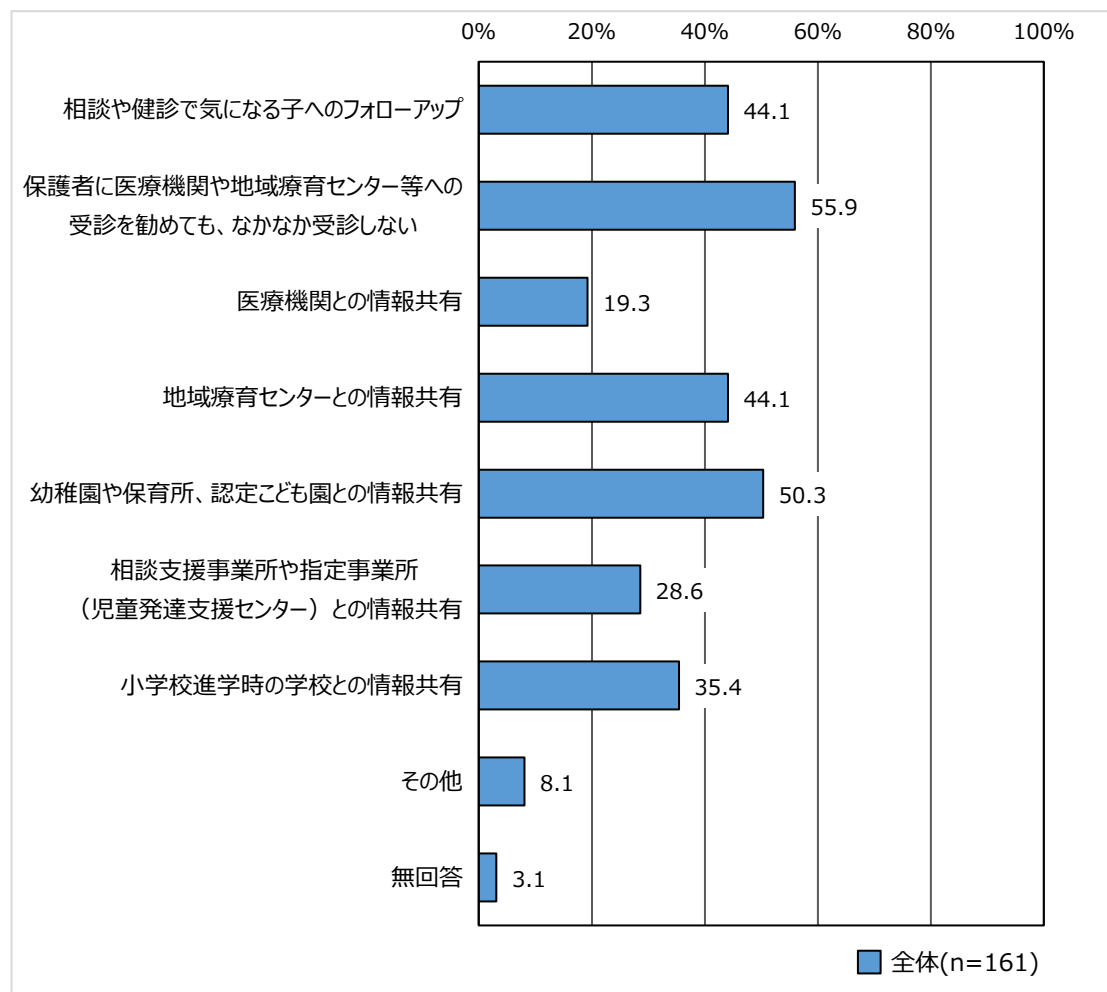


切れ目なく継続的な支援をするにあたり、特に感じている課題

問 15 切れ目なく継続的な支援をするにあたり、あなたは、特にどのような点に課題を感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「保護者に医療機関や地域療育センター等への受診を勧めても、なかなか受診しない」(55.9%)、「幼稚園や保育所、認定こども園との情報共有」(50.3%)、「相談や健診で気になる子へのフォローアップ」(44.1%)、「地域療育センターとの情報共有」(44.1%)の順に割合が高い。

図表 12 切れ目なく継続的な支援をするにあたり、特に感じている課題:複数回答(問 15)



4 関係機関との連携について

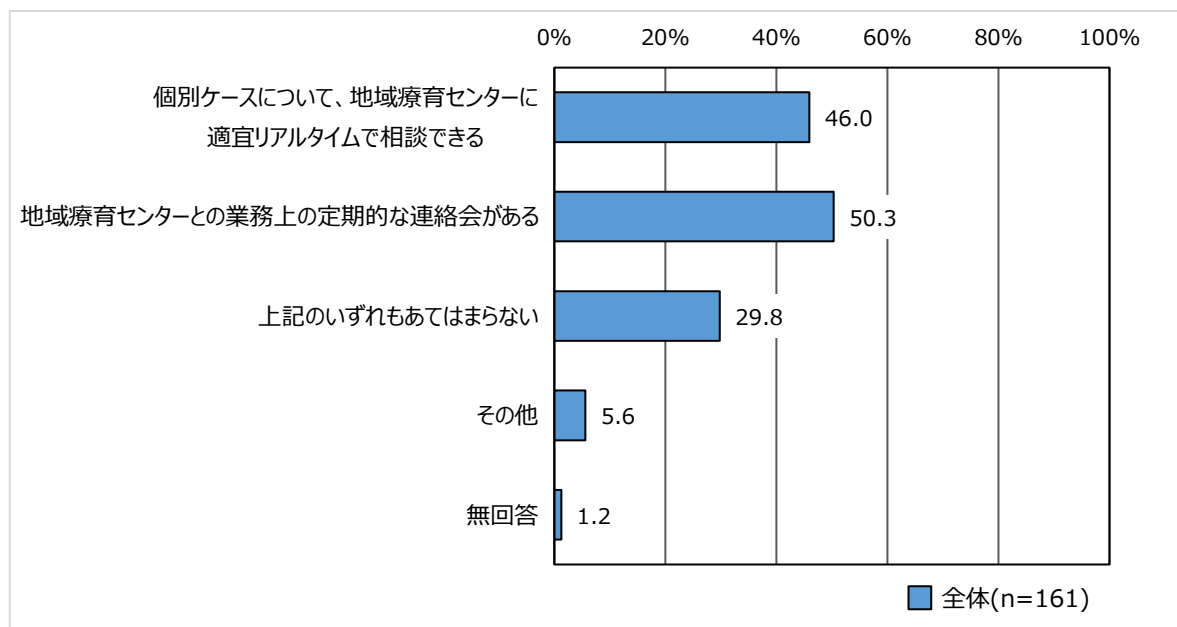
地域療育センターとの連携状況

問16 地域療育センターとの連携状況について、教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

「地域療育センターとの業務上の定期的な連絡会がある」が50.3%、「個別ケースについて、地域療育センターに適宜リアルタイムで相談できる」が46.0%、「上記のいずれもあてはまらない」が29.8%となっている。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満では、6年以上に比べて、「個別ケースについて、地域療育センターに適宜リアルタイムで相談できる」の割合が低く、「上記のいずれもあてはまらない」の割合が高くなっている。

図表 13 地域療育センターとの連携状況：複数回答（問16）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	個別ケースについて、地域療育センターに適宜リアルタイムで相談できる	地域療育センターとの業務上の定期的な連絡会がある	上記のいずれもあてはまらない	その他	無回答
全体		161 100.0	74 46.0	81 50.3	48 29.8	9 5.6	2 1.2
通算経験年数 保健師としての	6年未満	55 100.0	19 34.5	29 52.7	20 36.4	3 5.5	0 0.0
	6年以上～15年未満	47 100.0	25 53.2	23 48.9	12 25.5	3 6.4	1 2.1
	15年以上	58 100.0	30 51.7	28 48.3	16 27.6	3 5.2	1 1.7

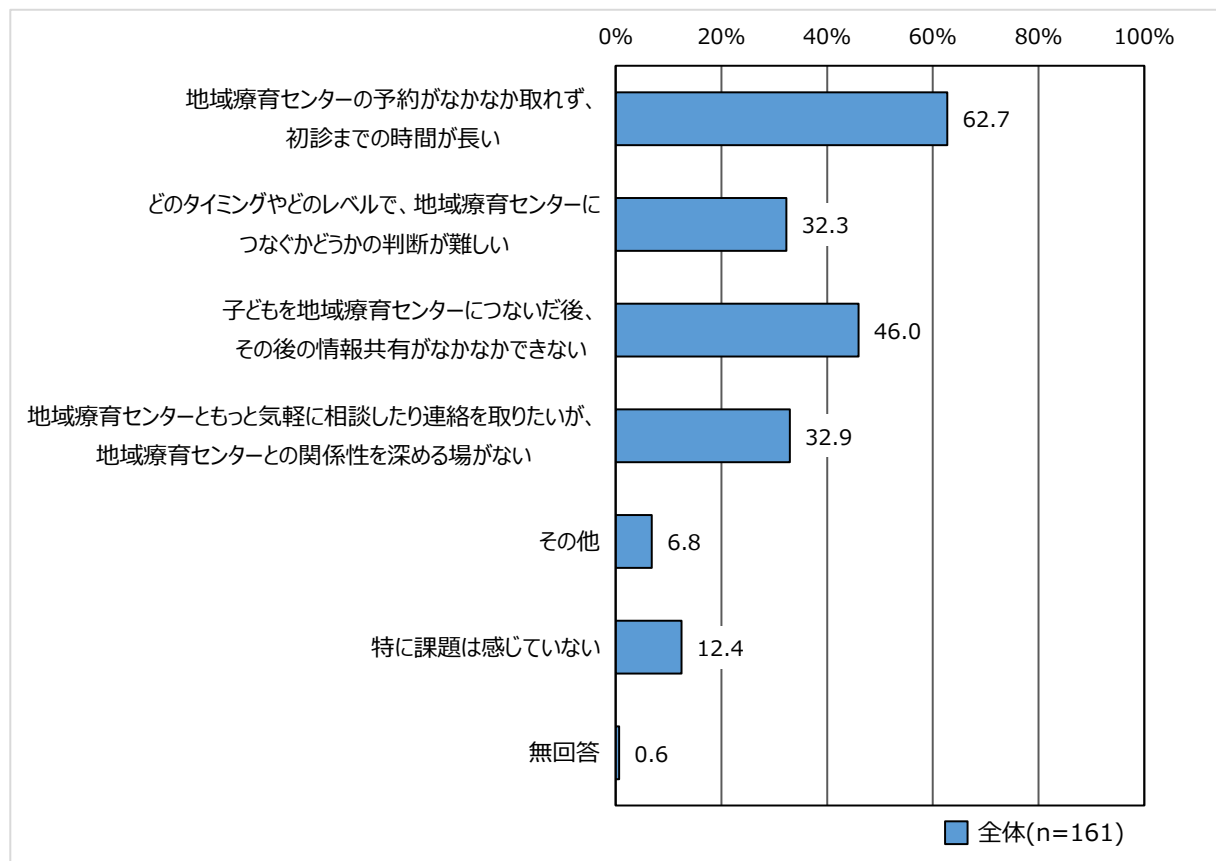
保健師と地域療育センターとの連携で感じる課題

問 17 あなたが日々の業務を行う中で、保健師と地域療育センターとの連携について、どのような課題を感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「地域療育センターの予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い」が 62.7%でもっとも割合が高く、次いで「子どもを地域療育センターにつないだ後、その後の情報共有がなかなかできない」が 46.0%で、「地域療育センターともっと気軽に相談したり連絡を取りたいが、地域療育センターとの関係性を深める場がない」(32.9%)、「どのタイミングやどのレベルで、地域療育センターにつなぐかどうかの判断が難しい」(32.3%)の順に割合が高い。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満では、「どのタイミングやどのレベルで、地域療育センターにつなぐかどうかの判断が難しい」、「地域療育センターともっと気軽に相談したり連絡を取りたいが、地域療育センターとの関係性を深める場がない」の割合が6年以上に比べて高くなっている。

図表 14 保健師と地域療育センターとの連携で感じる課題:複数回答(問17)



(クロス集計)

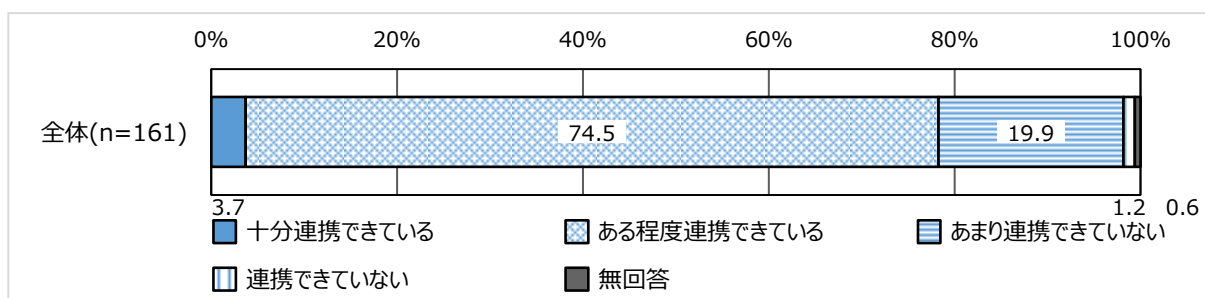
上段：実数 下段：%		合計	地域療育センターの予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い	どのタイミングやどのレベルで、地域療育センターにつながるかどうかの判断が難しい	子どもを地域療育センターにつないだ後、その後の情報共有がなかなかできない	地域療育センターともつと気軽に相談したり連絡を取りたいが、地域療育センターとの関係性を深める場がない	その他	特に課題は感じていない	無回答
全体		161 100.0	101 62.7	52 32.3	74 46.0	53 32.9	11 6.8	20 12.4	1 0.6
保健師としての 通算経験年数	6年未満	55 100.0	31 56.4	28 50.9	27 49.1	23 41.8	1 1.8	5 9.1	0 0.0
	6年以上～15年未満	47 100.0	35 74.5	12 25.5	24 51.1	15 31.9	3 6.4	4 8.5	0 0.0
	15年以上	58 100.0	35 60.3	12 20.7	23 39.7	15 25.9	7 12.1	10 17.2	1 1.7

個別ケース支援における関係機関との連携状況

問 19 あなたは、個別ケースの支援をするなかで、関係機関（地域療育センターだけでなく、幼稚園・保育所・認定こども園、地域子育て支援拠点や児童委員、民生委員等地域の関係者等）とどの程度連携できていますか。（1 つに○）

「ある程度連携できている」が 74.5%となっている。

図表 15 個別ケース支援における関係機関との連携状況：単数回答（問 19）



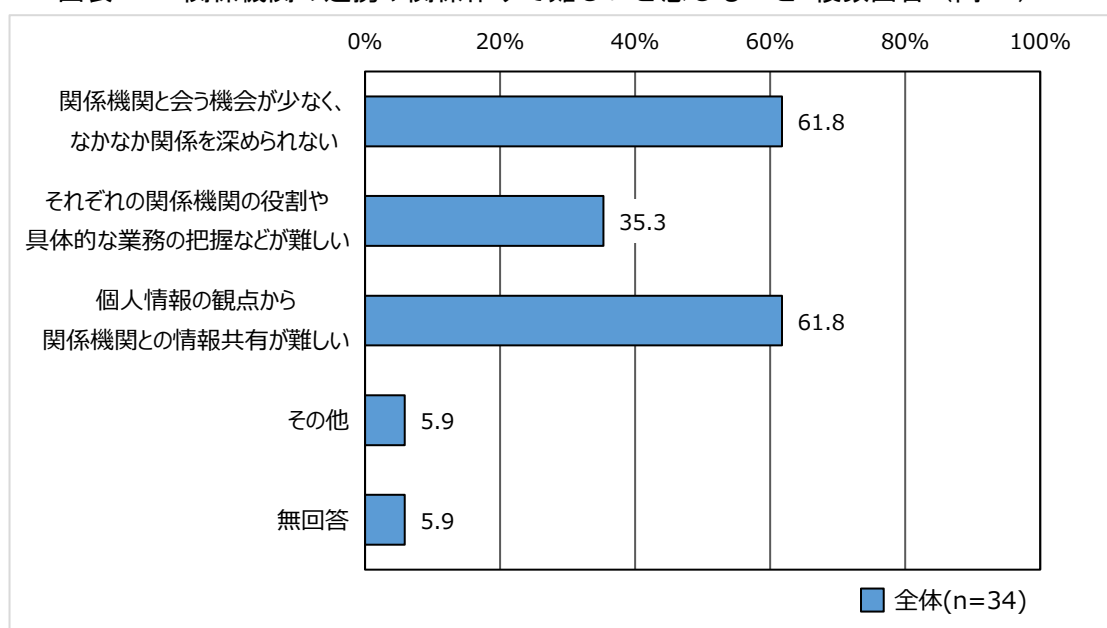
関係機関の連携や関係作りで難しいと感じること

※問 19 で「3. あまり連携できていない」「4. 連携できていない」とお答えの方(その他の方は問 21 へ)

問 20 関係機関(地域療育センターだけでなく、幼稚園・保育所・認定こども園、地域子育て支援拠点や児童委員、民生委員等地域の関係者等)との連携や関係作りについて、難しいと感じているのはどのようなことですか。(あてはまる番号すべてに○)

「関係機関と会う機会が少なく、なかなか関係を深められない」「個人情報の観点から関係機関との情報共有が難しい」がともに 61.8%、「それぞれの関係機関の役割や具体的な業務の把握などが難しい」が 35.3%となっている。

図表 16 関係機関の連携や関係作りで難しいと感じること:複数回答(問 20)



5 発達支援の充実に向けて

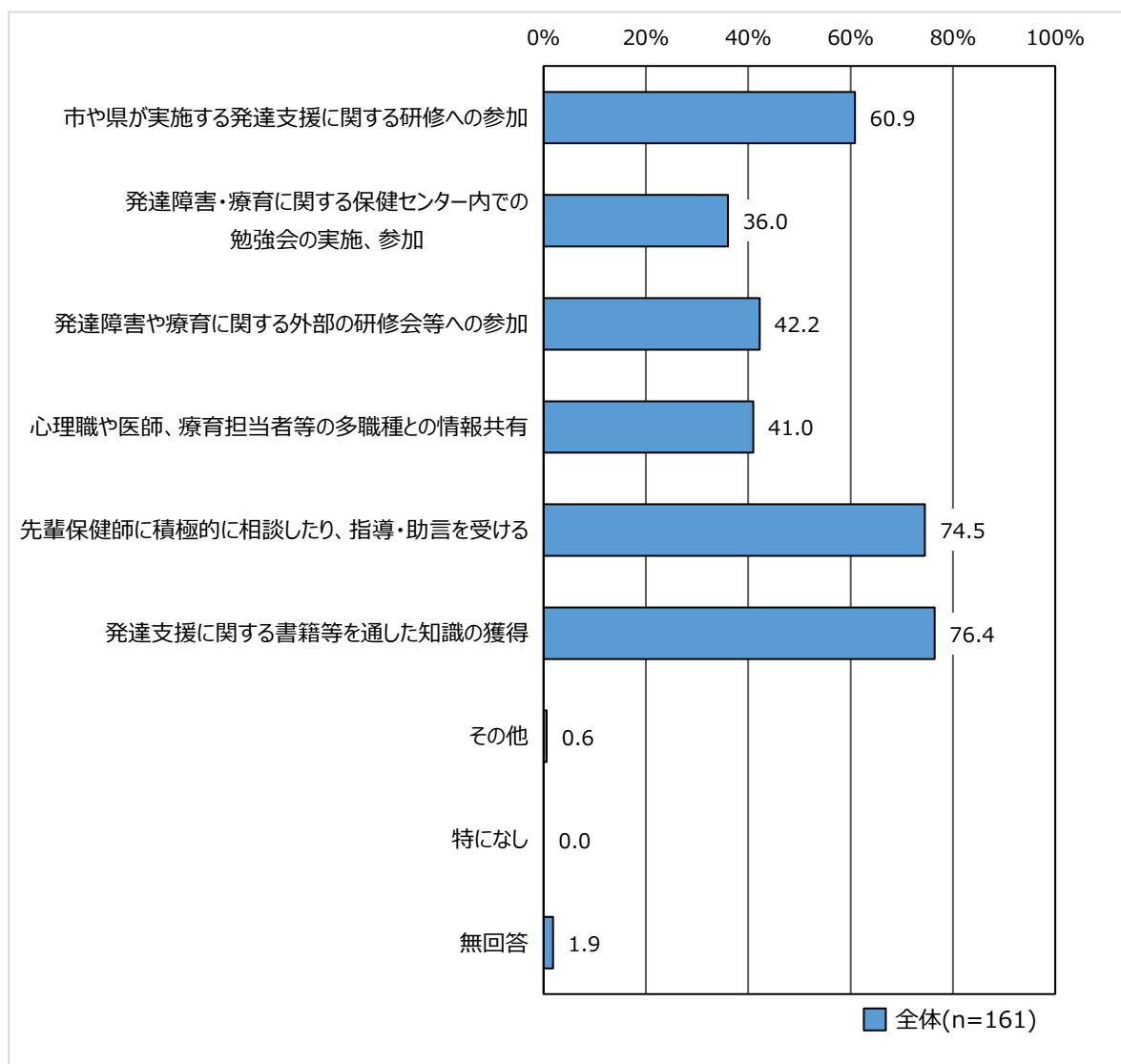
発達支援の知識や技能向上のために現在取り組んでいること

問21 発達支援に関する知識や技能向上のために、あなたが現在取り組んでいることは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）※発達障害を中心に考え下さい。

「発達支援に関する書籍等を通じた知識の獲得」（76.4%）、「先輩保健師に積極的に相談したり、指導・助言を受ける」（74.5%）、「市や県が実施する発達支援に関する研修への参加」（60.9%）の割合が特に高い。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満では、「市や県が実施する発達支援に関する研修への参加」、「発達障害・療育に関する保健センター内での勉強会の実施、参加」の割合が6年以上に比べて高くなっている。一方で、「心理職や医師、療育担当者等の多職種との情報共有」の割合は、6年以上に比べ低くなっている。

図表 17 発達支援の知識や技能向上のために現在取り組んでいること：複数回答（問21）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	市や県が実施する発達支援に関する研修への参加	発達障害・療育に関する保健センター内の勉強会の実施、参加	発達障害や療育に関する外部の研修会等への参加	心理職や医師、療育担当者等の多職種との情報共有	先輩保健師に積極的に相談したり、指導・助言を受ける	発達支援に関する書籍等を通じた知識の獲得	その他	特になし	無回答
全体		161 100.0	98 60.9	58 36.0	68 42.2	66 41.0	120 74.5	123 76.4	1 0.6	0 0.0	3 1.9
保健師としての 通算経験年数	6年未満	55 100.0	36 65.5	24 43.6	20 36.4	15 27.3	49 89.1	43 78.2	0 0.0	0 0.0	1 1.8
	6年以上～15年未満	47 100.0	27 57.4	15 31.9	19 40.4	20 42.6	39 83.0	37 78.7	0 0.0	0 0.0	1 2.1
	15年以上	58 100.0	34 58.6	18 31.0	29 50.0	31 53.4	31 53.4	42 72.4	1 1.7	0 0.0	1 1.7

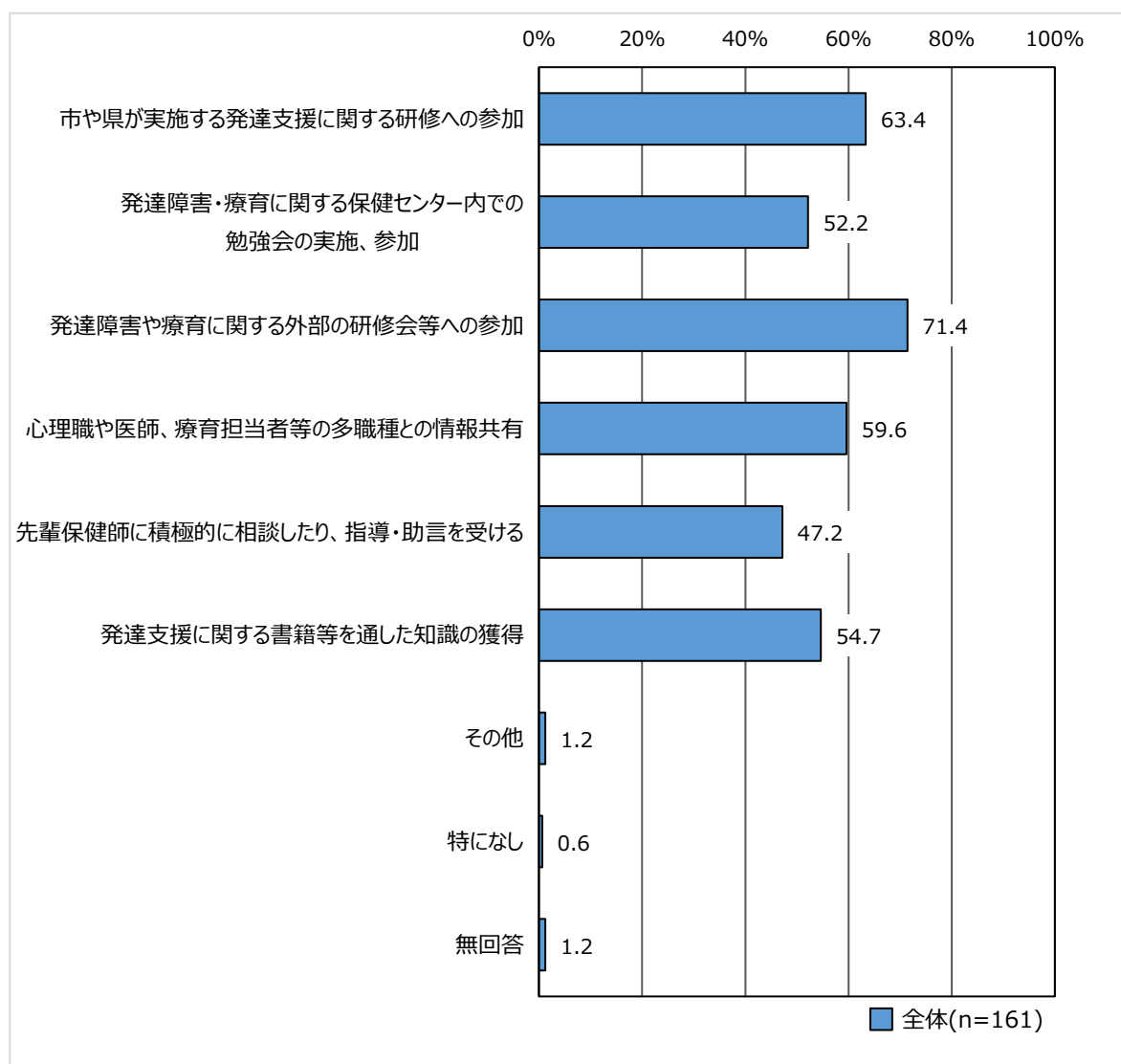
発達支援の知識や技能向上のために今後取り組みたいこと

問 2 2 発達支援に関する知識や技能向上のために、あなたが今後取り組みたいことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）※発達障害を中心にお考え下さい。

「発達障害や療育に関する外部の研修会等への参加」（71.4%）、「市や県が実施する発達支援に関する研修への参加」（63.4%）、「心理職や医師、療育担当者等の多職種との情報共有」（59.6%）の順に割合が高い。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満、6年以上15年未満では、「市や県が実施する発達支援に関する研修への参加」、「発達障害や療育に関する外部の研修会等への参加」、「心理職や医師、療育担当者等の多職種との情報共有」、「先輩保健師に積極的に相談したり、指導・助言を受ける」の割合が15年以上に比べて高くなっている。

図表 18 発達支援の知識や技能向上のために今後取り組みたいこと：複数回答（問 22）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	市や県が実施する発達支援に関する研修への参加	発達障害・療育に関する保健センター内での勉強会の実施、参加	発達障害や療育に関する外部の研修会等への参加	心理職や医師、療育担当者等の多職種との情報共有	先輩保健師に積極的に相談したり、指導・助言を受ける	発達支援に関する書籍等を通じた知識の獲得	その他	特になし	無回答
全体		161 100.0	102 63.4	84 52.2	115 71.4	96 59.6	76 47.2	88 54.7	2 1.2	1 0.6	2 1.2
保健師としての 通算経験年数	6年未満	55 100.0	40 72.7	35 63.6	42 76.4	37 67.3	35 63.6	33 60.0	0 0.0	0 0.0	1 1.8
	6年以上～15年未満	47 100.0	34 72.3	24 51.1	36 76.6	28 59.6	24 51.1	26 55.3	0 0.0	1 2.1	0 0.0
	15年以上	58 100.0	27 46.6	24 41.4	36 62.1	30 51.7	16 27.6	28 48.3	2 3.4	0 0.0	1 1.7

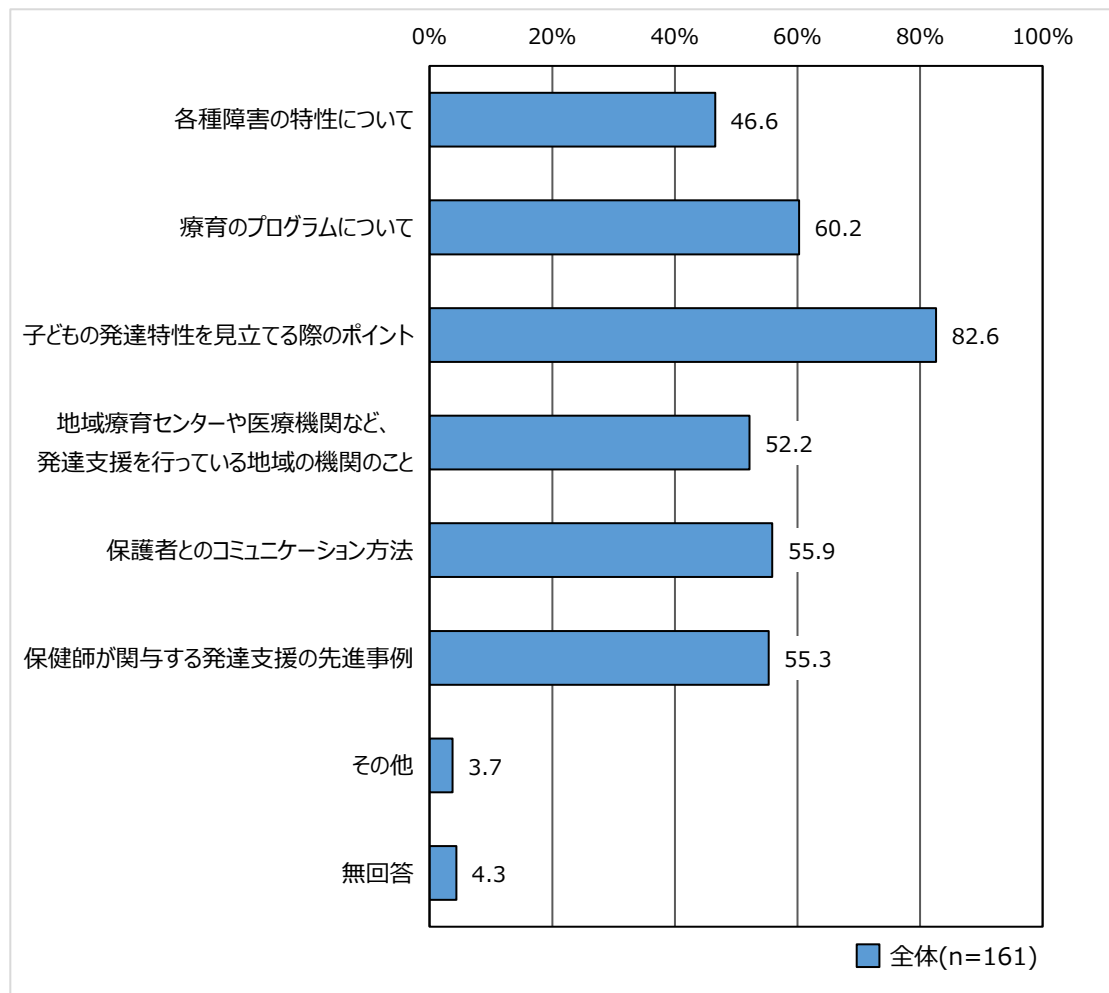
発達支援に関して今後知りたいこと、学びたいこと

問23 発達支援に関して、今後さらに知りたいこと、学びたいことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）※発達障害を中心に考え下さい。

「子どもの発達特性を見立てる際のポイント」が82.6%でもっとも割合が高く、次いで「療育のプログラムについて」が60.2%、「保護者とのコミュニケーション方法」が55.9%「保健師が関与する発達支援の先進事例」が55.3%、「地域療育センターや医療機関など、発達支援を行っている地域の機関のこと」が52.2%となっている。

保健師としての通算経験年数別にみると、6年未満では、「保護者とのコミュニケーション方法」の割合が6年以上に比べて特に高く、6年未満、6年以上15年未満では、「子どもの発達特性を見立てる際のポイント」、「保健師が関与する発達支援の先進事例」の割合が高くなっている。また6年以上15年未満では、「療育のプログラムについて」の割合が6年未満、15年以上に比べて高くなっている。

図表 19 発達支援に関して今後知りたいこと、学びたいこと：複数回答（問23）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	各種障害の特性について	療育のプログラムについて	子どもの発達特性を見立てる際のポイント	地域療育センターや医療機関など、発達支援を行っている地域の機関のこと	保護者とのコミュニケーション方法	保健師が関与する発達支援の先進事例	その他	無回答
全体		161 100.0	75 46.6	97 60.2	133 82.6	84 52.2	90 55.9	89 55.3	6 3.7	7 4.3
保健師としての 通算経験年数	6年未満	55 100.0	28 50.9	32 58.2	53 96.4	32 58.2	41 74.5	37 67.3	1 1.8	0 0.0
	6年以上～15年未満	47 100.0	23 48.9	32 68.1	38 80.9	29 61.7	23 48.9	29 61.7	1 2.1	3 6.4
	15年以上	58 100.0	24 41.4	32 55.2	41 70.7	23 39.7	25 43.1	22 37.9	4 6.9	4 6.9

Ⅲ 幼稚園アンケート

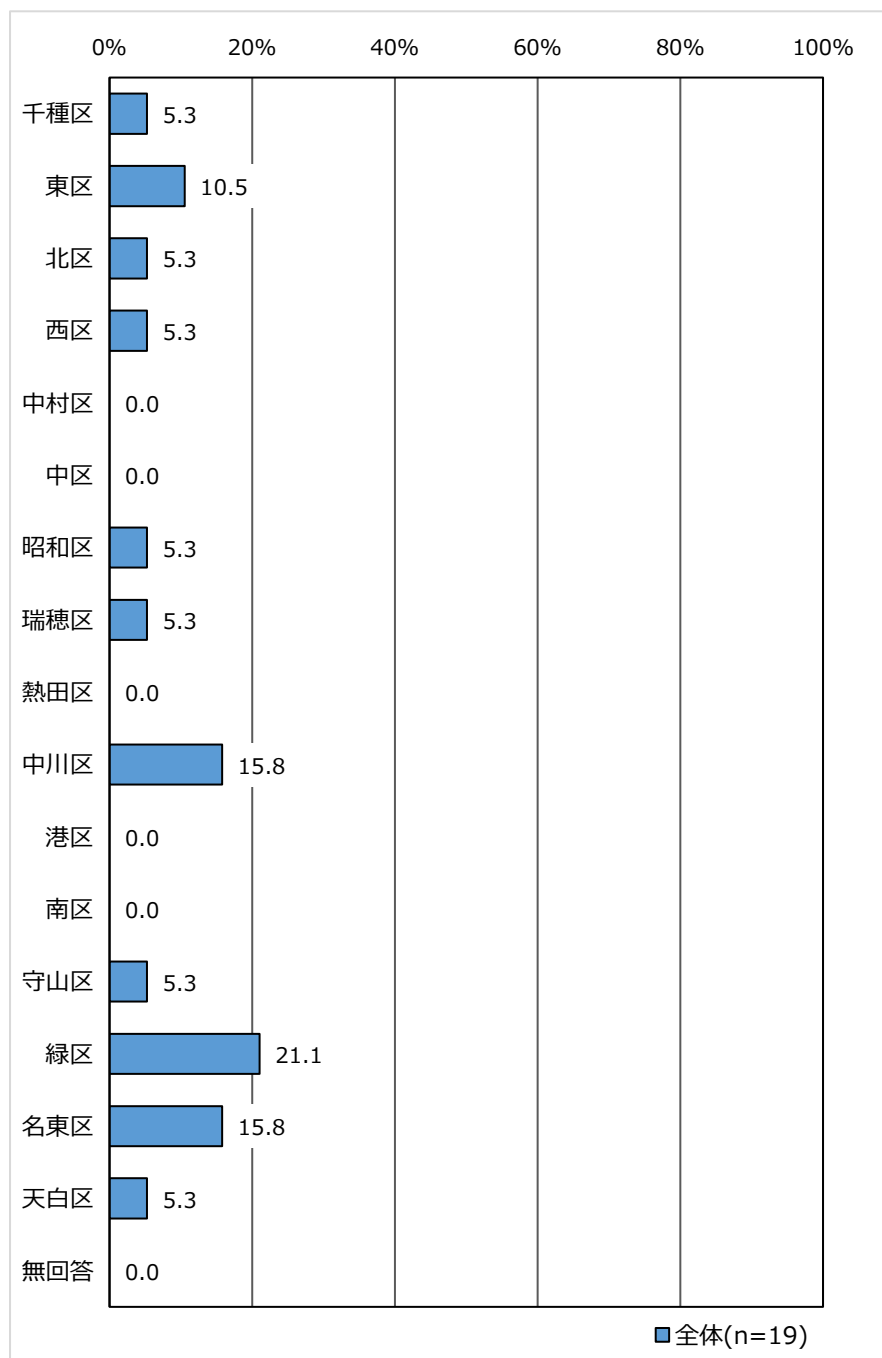
1 園および在園児について

所在地

問 1 貴園の所在地（１つに○）

「緑区」が 21.1%、「中川区」「名東区」が 15.8%、「東区」が 10.5%となっている。

図表 20 所在地:単数回答（問 1）

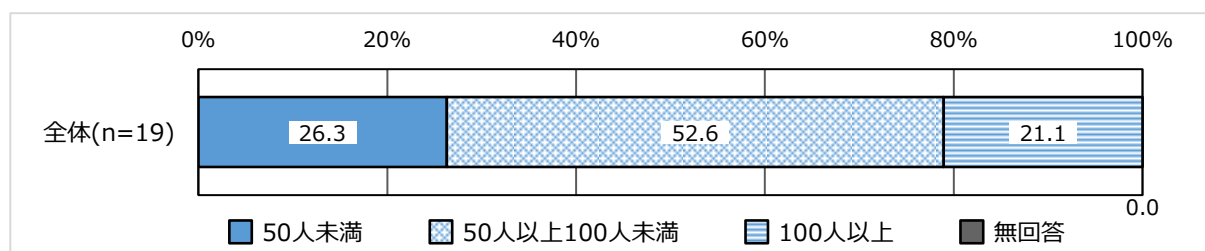


在園児数（令和5年11月1日現在）

問2 貴園の在園児数（令和5年11月1日現在）

「50人以上100人未満」が52.6%でもっとも割合が高く、次いで「50人未満」が26.3%、「100人以上」が21.1%となっている。

図表 21 在園児数（令和5年11月1日現在）：単数回答（問2）

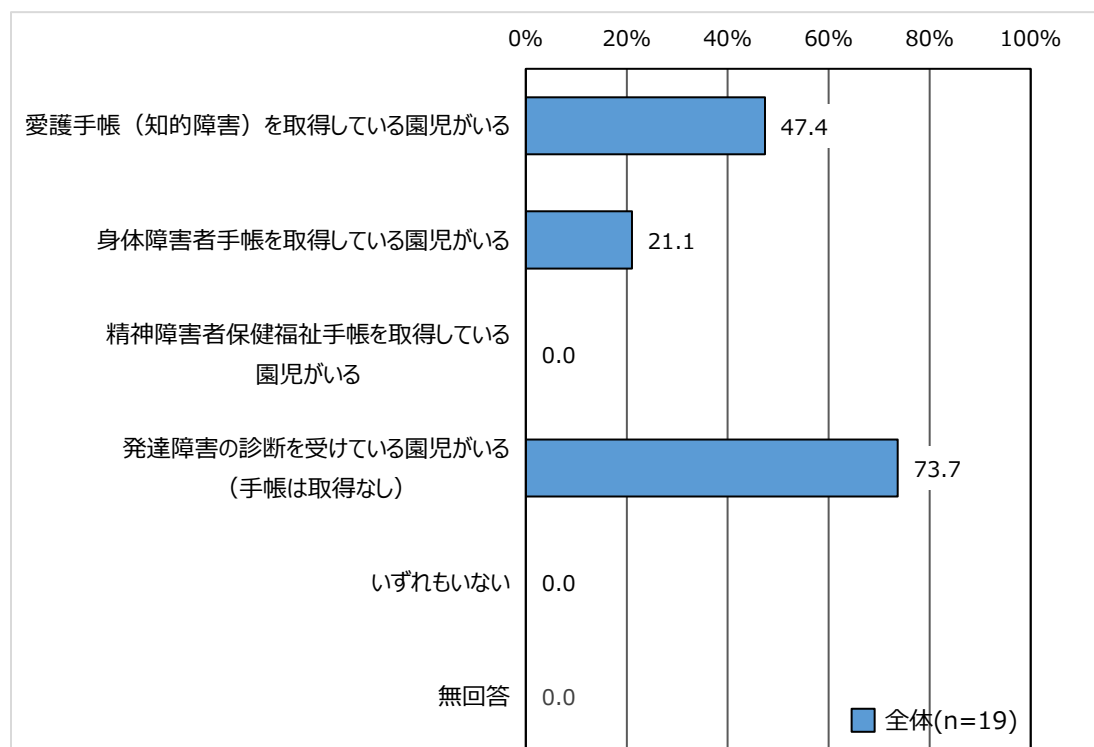


障害に関する手帳保持者等の在園状況

問3 貴園における、障害に関する手帳保持者等の在園状況をお教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

「発達障害の診断を受けている園児がいる（手帳は取得なし）」が73.7%、「愛護手帳（知的障害）を取得している園児がいる」が47.4%、「身体障害者手帳を取得している園児がいる」が21.1%となっている。

図表 22 障害に関する手帳保持者等の在園状況：複数回答（問3）



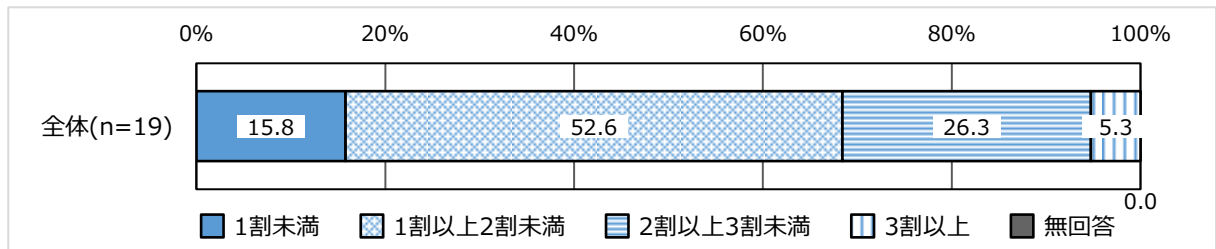
2 発達支援の現状や必要な支援などについて

発達支援が必要な子どもの在園状況

問4 貴園において、発達支援が必要な子どもは、現在おおよそ何割くらい在園していますか。

「1割以上2割未満」が52.6%でもっとも割合が高く、次いで「2割以上3割未満」が26.3%、「1割未満」が15.8%となっている。

図表 23 発達支援が必要な子どもの割合：単数回答（問4）

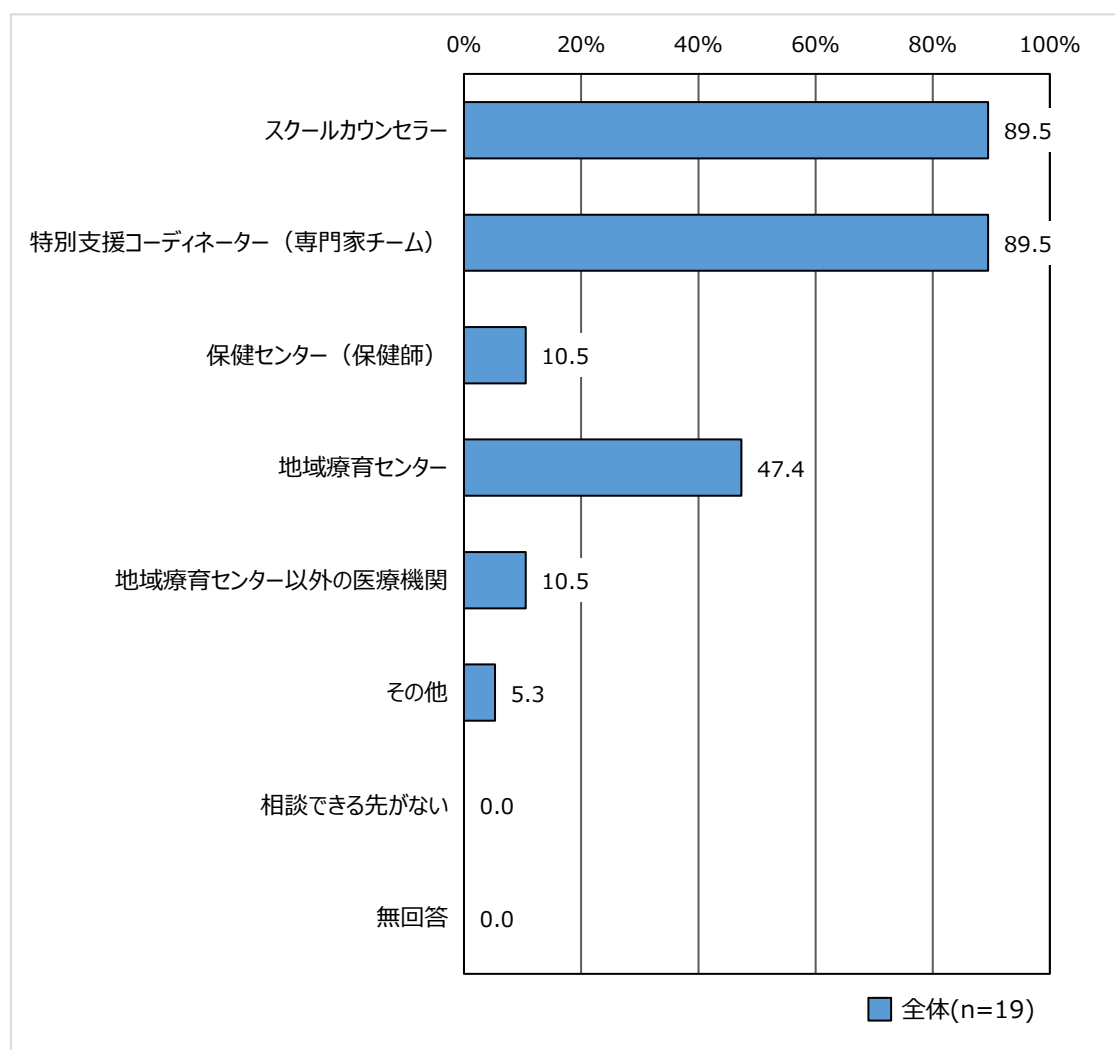


困った際や悩んだ際の相談先

問5 貴園では、発達支援が必要な子どもについて、教育する上で困った際や悩んだ際に誰に相談していますか。(あてはまる番号すべてに○)

「スクールカウンセラー」「特別支援コーディネーター（専門家チーム）」が89.5%でもっとも割合が高く、次いで「地域療育センター」が47.4%となっている。

図表 24 困った際や悩んだ際の相談先：複数回答（問5）



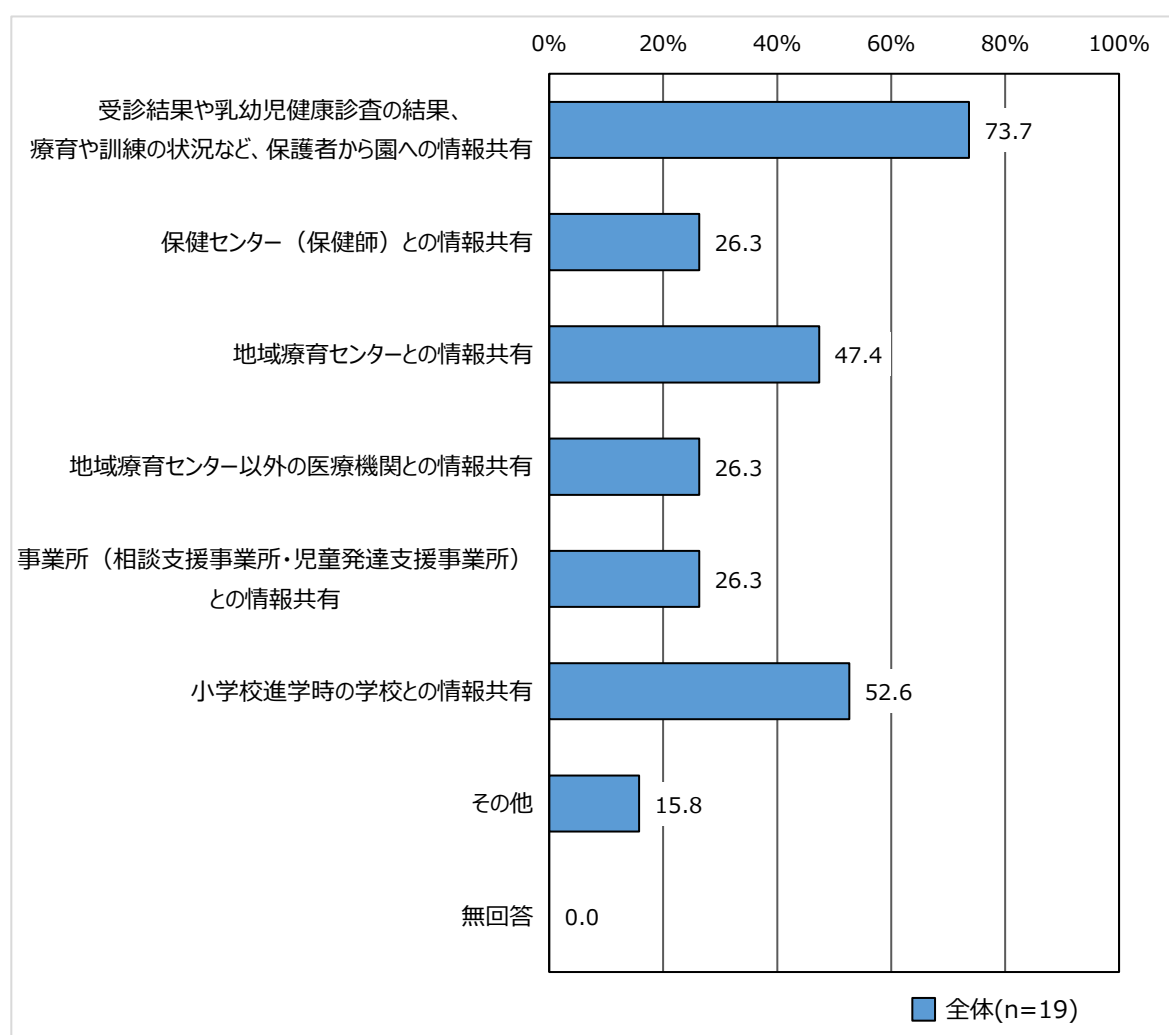
切れ目なく継続的な支援をするにあたり感じている課題

問6 発達支援が必要な子どもに対して、切れ目なく継続的な支援をするにあたり、貴園ではどのような点に課題を感じていますか。（あてはまる番号すべてに○）

「受診結果や乳幼児健康診査の結果、療育や訓練の状況など、保護者から園への情報共有」が73.7%でもっとも割合が高く、次いで「小学校進学時の学校との情報共有」が52.6%、「地域療育センターとの情報共有」が47.4%となっている。

「その他」としては、「支援する人員の確保」、「園児の保護者から小学校への進学が心配な場合、園長が小学校へ電話して面談や就学相談をしてもらうよう依頼する」などの回答がみられた。

図表 25 切れ目なく継続的な支援をするにあたり感じている課題：複数回答（問6）

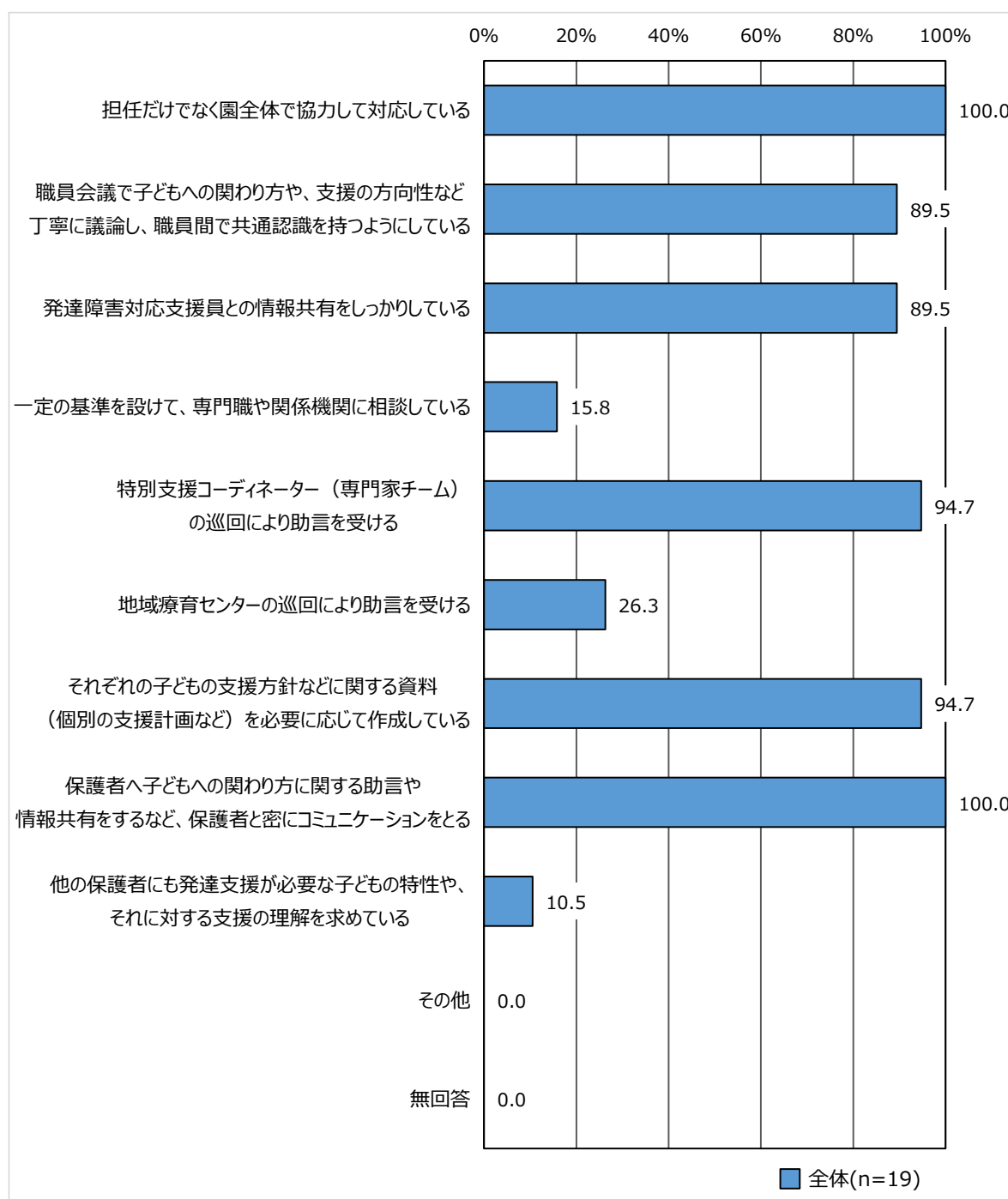


発達支援が必要な子どもへの対応方針や対応で工夫していること

問7 貴園において、発達支援が必要な子どもへの対応方針や、対応において工夫していることについて教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

「担任だけでなく園全体で協力して対応している」「保護者へ子どもへの関わり方に関する助言や情報共有をするなど、保護者と密にコミュニケーションをとる」（100.0%）など各園で様々な対応が行われている。ただし、「一定の基準を設けて、専門職や関係機関に相談している」は15.8%、「地域療育センターの巡回により助言を受ける」は26.3%となっている。

図表 26 発達支援が必要な子どもへの対応方針や対応で工夫していること：複数回答（問7）

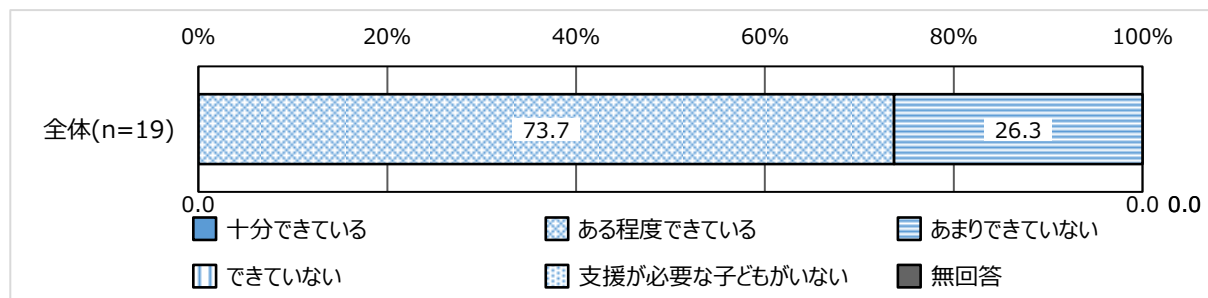


発達支援が必要な子どもへの発達支援の状況

問8 貴園において、発達支援が必要な子どもへの発達支援は、十分にできていると思いますか。(1つに○)

「ある程度できている」が73.7%、「あまりできていない」が26.3%となっている。

図表 27 発達支援が必要な子どもへの発達支援の状況:単数回答(問8)

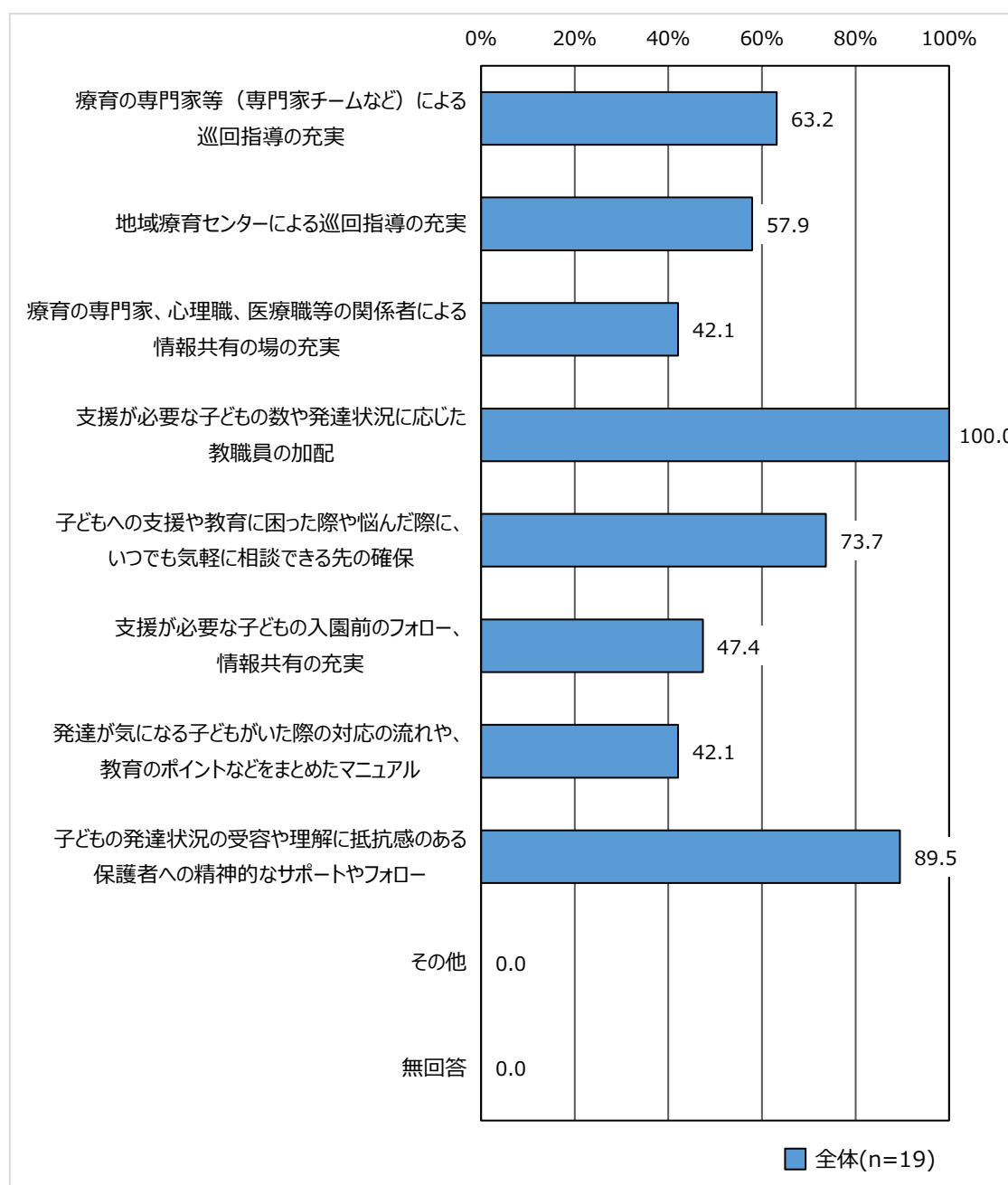


現場の負担軽減になる支援や取組

問 10 発達支援が必要な子どもを教育するにあたり、どのような支援や取組があれば現場の負担軽減になると思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

「支援が必要な子どもの数や発達状況に応じた教職員の加配」(100.0%)、「子どもの発達状況の受容や理解に抵抗感のある保護者への精神的なサポートやフォロー」(89.5%)、「子どもへの支援や教育に困った際や悩んだ際に、いつでも気軽に相談できる先の確保」(73.7%)の割合が特に高い。

図表 28 現場の負担軽減になる支援や取組：複数回答（問 10）

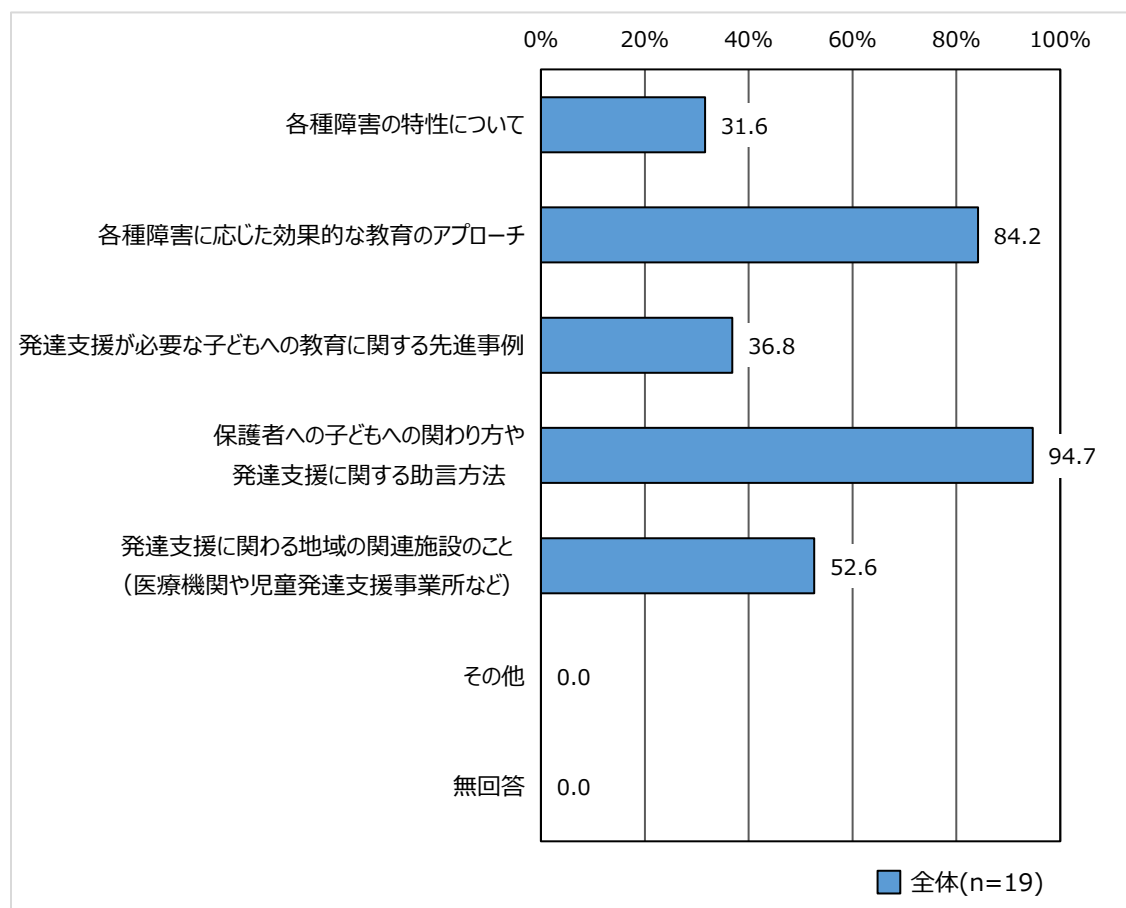


発達支援に関して、今後さらに知りたいこと、学びたいこと

問 1 1 発達支援が必要な子どもの発達支援に関して、貴園として、今後さらに知りたいこと、学びたいことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「保護者への子どもへの関わり方や発達支援に関する助言方法」（94.7%）、「各種障害に応じた効果的な教育のアプローチ」（84.2%）の割合が特に高い。

図表 29 発達支援に関して、今後さらに知りたいこと、学びたいこと：複数回答（問 11）



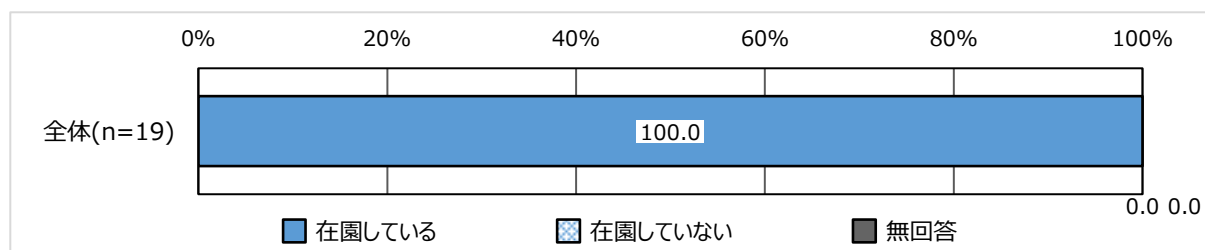
3 「気になる子」の現状と対応の課題について

「気になる子」の在園状況

問 1 2 貴園において、「気になる子」の在園状況をお教えてください。(1つに○)

「在園している」が 100%となっている。

図表 30 「気になる子」の在園状況:単数回答 (問 12)



「気になる子」の現在の在園人数

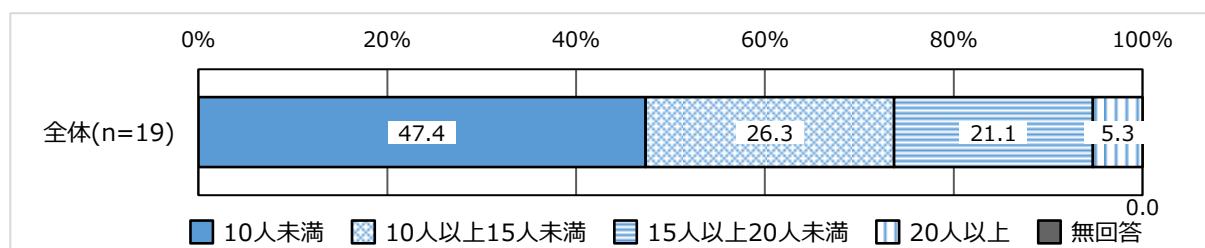
※問 12 で「1. 在園している」とお答えの方 (その他の方は問 1 5 へ)

問 1 3 「気になる子」は、現在何人くらい在園していますか。正確な人数でなくても、おおよそでも構いません。

※手帳保持者や障害の診断を受けている子どもは除外してお答えください。

「10 人未満」が 47.4%でもっとも割合が高く、次いで「10 人以上 15 人未満」が 26.3%、「15 人以上 20 人未満」が 21.1%となっている。

図表 31 「気になる子」の現在の在園人数:単数回答 (問 13)

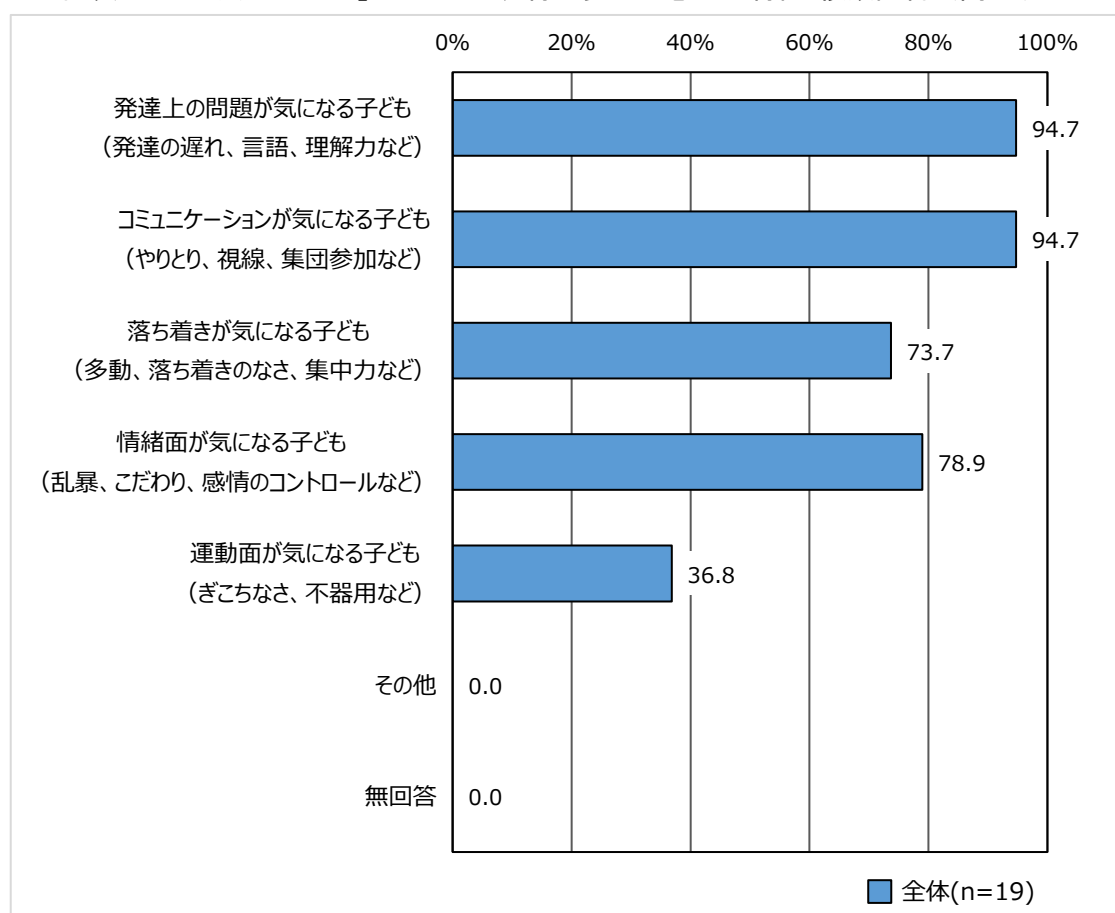


「気になる子」について、特に多いと感じる特性

問14 「気になる子」について、特にどのような子どもが多いと感じますか。(あてはまる番号すべてに○)

「発達上の問題が気になる子ども（発達の遅れ、言語、理解力など）」「コミュニケーションが気になる子ども（やりとり、視線、集団参加など）」が94.7%でもっとも割合が高く、次いで「情緒面が気になる子ども（乱暴、こだわり、感情のコントロールなど）」が78.9%、「落ち着きが気になる子ども（多動、落ち着きのなさ、集中力など）」が73.7%となっている。

図表 32 「気になる子」について、特に多いと感じる特性：複数回答（問14）

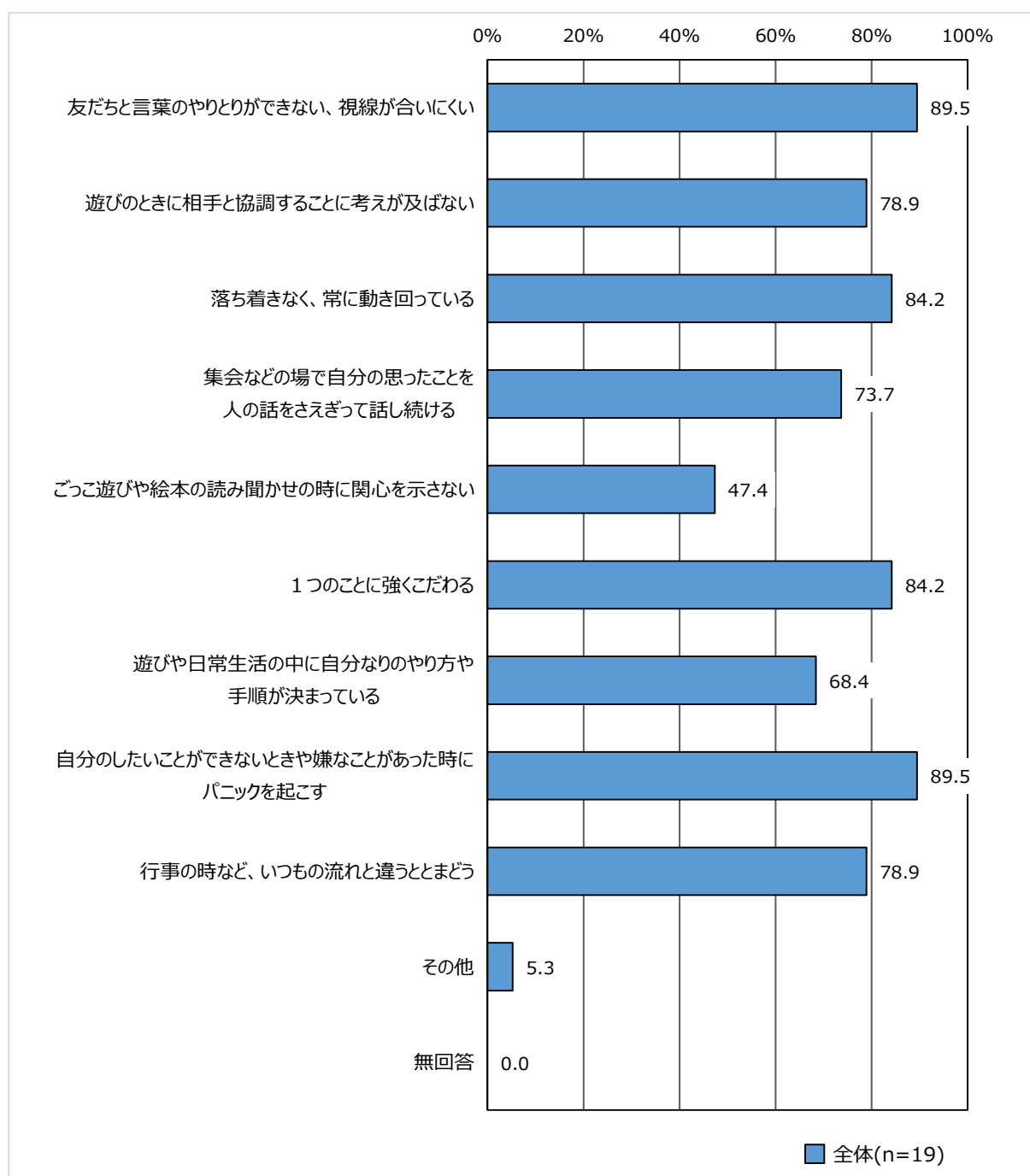


「気になる子」の発達特性に気づく場面やきっかけ

問 15 貴園において、どのようなきっかけ・場面で、「気になる子」の発達特性に気づくことが多いですか。（あてはまる番号すべてに○）

「友だちと言葉のやりとりができない、視線が合いにくい」「自分のしたいことができないときや嫌なことがあった時にパニックを起こす」が 89.5%でもっとも割合が高く、次いで「落ち着きなく、常に動き回っている」「1つのことに強くこだわる」が 84.2%、「遊びのときに相手と協調することに考えが及ばない」「行事の時など、いつもの流れと違うととまどう」が 78.9%となっている。

図表 33 「気になる子」の発達特性に気づく場面やきっかけ:複数回答（問 15）



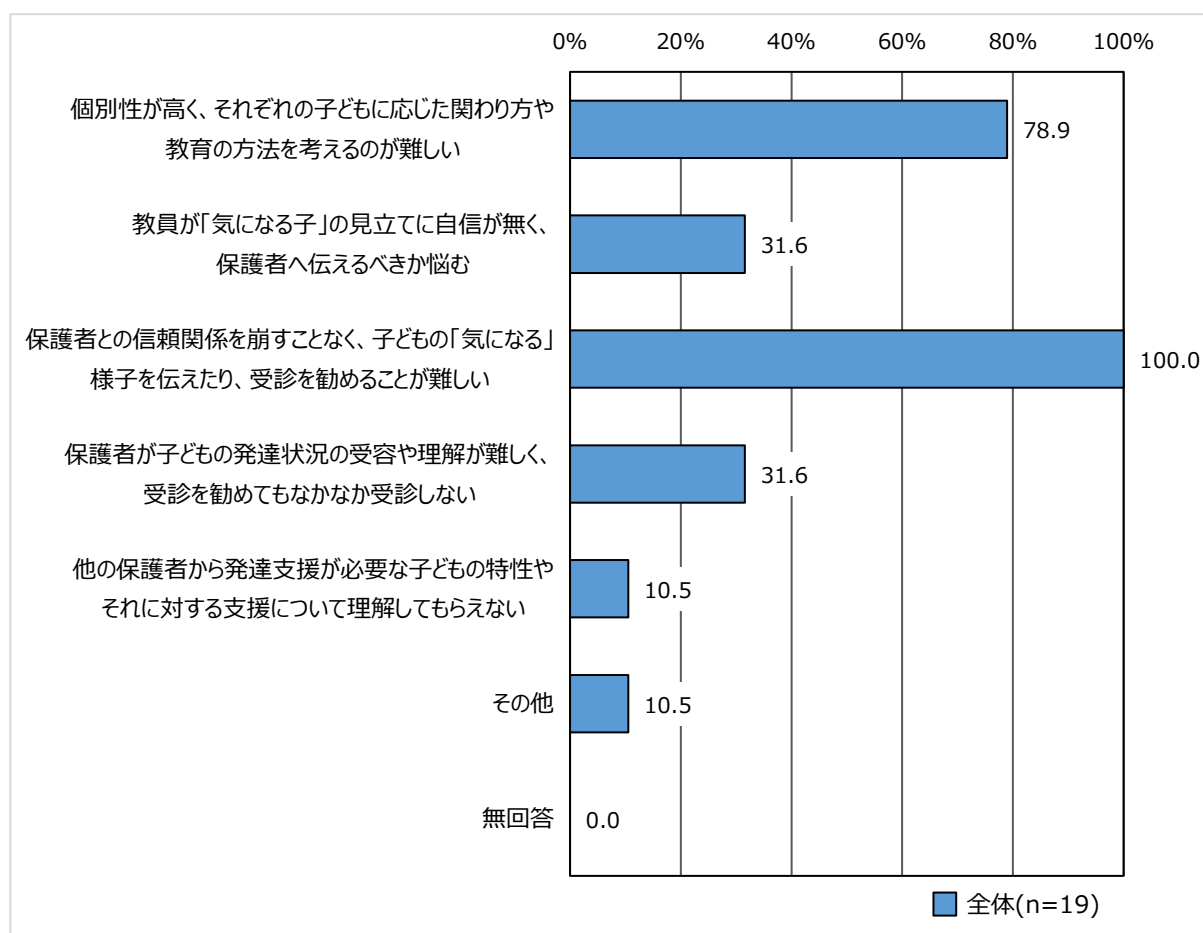
「気になる子」への支援や対応において感じる課題や難しさ

問 16 「気になる子」への支援や対応において、貴園では、どのような課題や難しさを感じられていますか。（あてはまる番号すべてに○）

「保護者との信頼関係を崩すことなく、子どもの「気になる」様子を伝えたり、受診を勧めることが難しい」（100.0%）、「個性が高く、それぞれの子どもに応じた関わり方や教育の方法を考えるのが難しい」（78.9%）の割合が特に高い。

「その他」としては、「人手不足」、「個別に関わりたいが職員数に余裕がなく十分に対応できないことがある」などの回答がみられた。

図表 34 「気になる子」への支援や対応において感じる課題や難しさ：複数回答（問 16）



4 関係機関との連携について

これまでの地域療育センターとの関わり

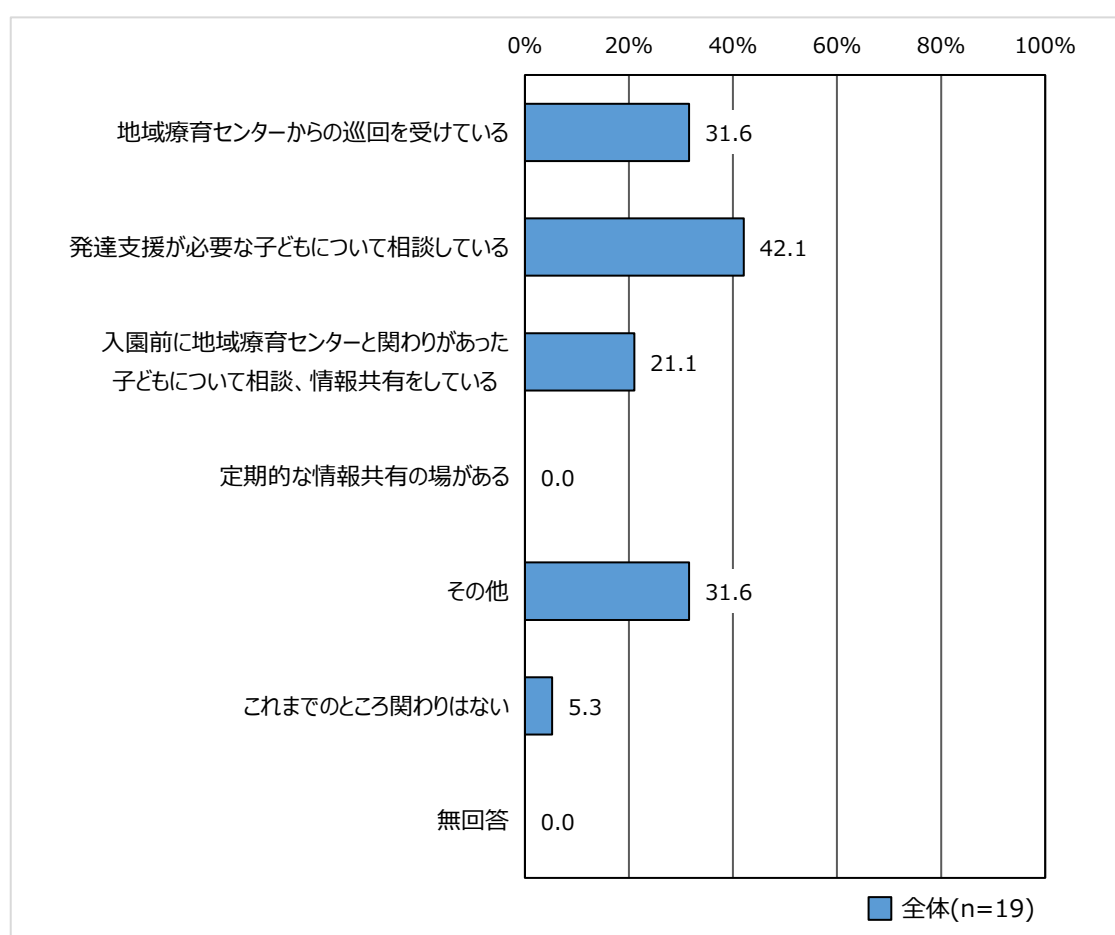
問 17 これまでの地域療育センターと貴園との関わりについて、お教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

「発達支援が必要な子どもについて相談している」(42.1%)、「地域療育センターからの巡回を受けている」(31.6%) など、19 園中 18 園で何らかの関わりがある。

地域療育センターとの関わりについて「これまでのところ関わりはない」との回答は 1 件であり、関わりがない理由は「個人情報の観点から、保護者の了解を得ずに、子どものことを相談してよいのかわからない」となっている。

「その他」としては、「来園してもらったり訪問したりし、交流する機会を設けている」、「保護者が受診するときに園での様子を文書で伝えている」、「個別な情報共有ではなく、全体での情報共有は行っている」などの回答がみられた。

図表 35 これまでの地域療育センターとの関わり:複数回答(問 17)



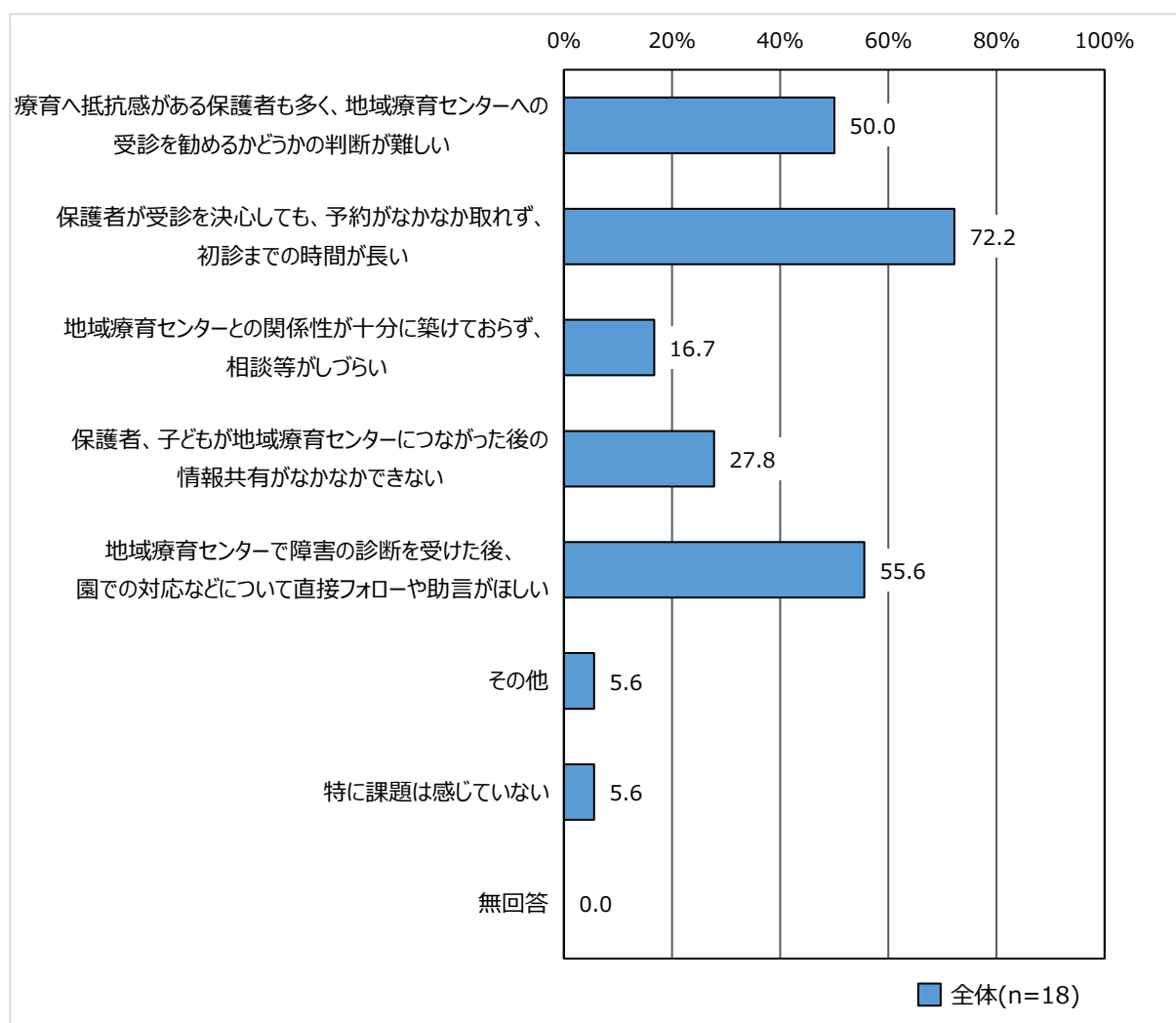
地域療育センターと連携する上での課題

※問１７で地域療育センターと関わりがあるとお答えの方（１～５とお答えの方）

問１８ 地域療育センターと連携する上で、どのような課題を感じていますか。（あてはまる番号すべてに○）

「保護者が受診を決心しても、予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い」が72.2%でもっとも割合が高く、次いで「地域療育センターで障害の診断を受けた後、園での対応などについて直接フォローや助言がほしい」が55.6%、「療育へ抵抗感がある保護者も多く、地域療育センターへの受診を勧めるかどうかの判断が難しい」が50.0%となっている。

図表 36 地域療育センターと連携する上での課題：複数回答（問18）



IV 保育所アンケート

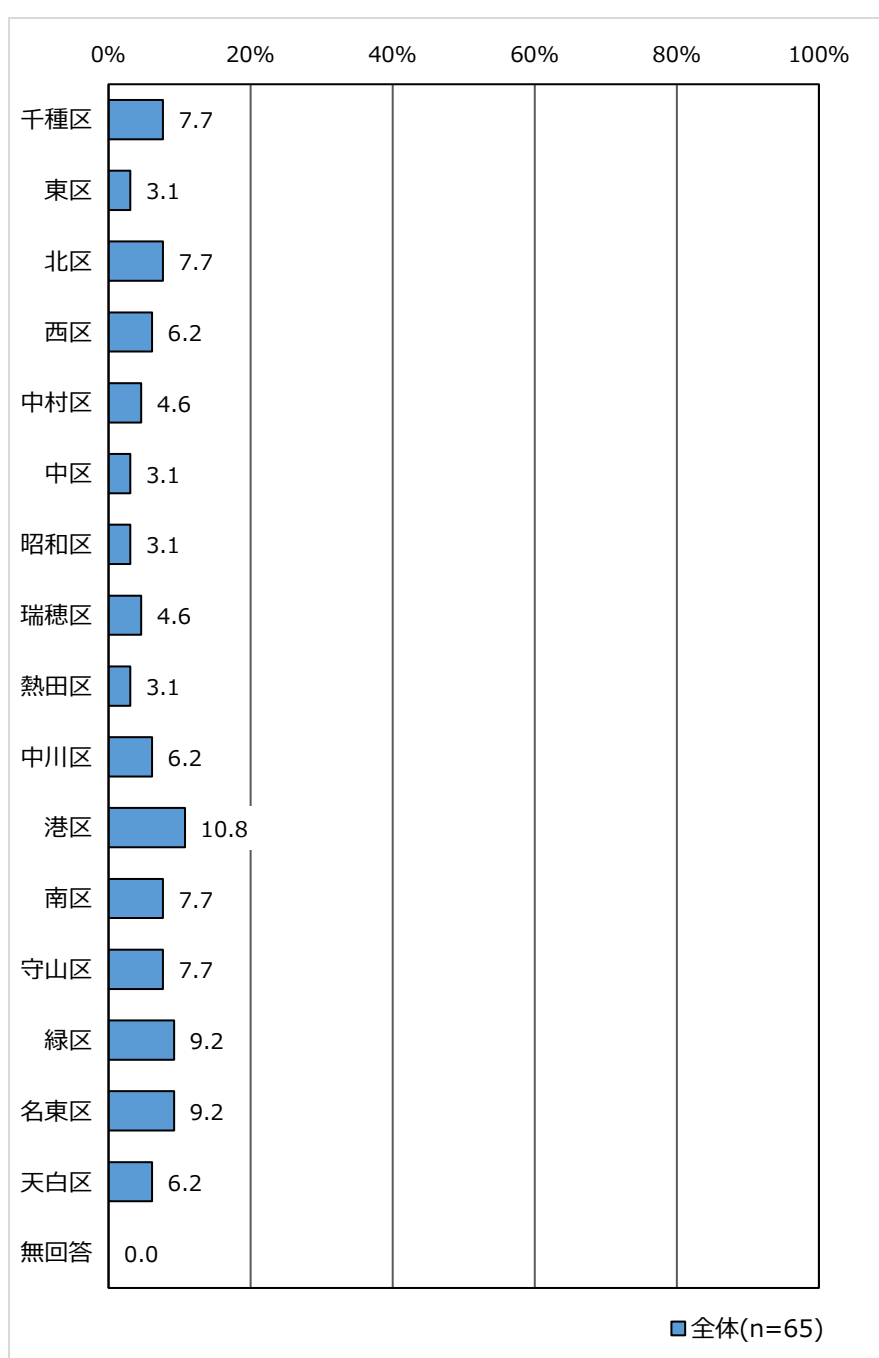
1 園および在園児について

所在地

問 1 貴園の所在地（1つに○）

「港区」が10.8%、「緑区」「名東区」が9.2%、「千種区」「北区」「南区」「守山区」が7.7%となっている。

図表 37 所在地:単数回答（問1）



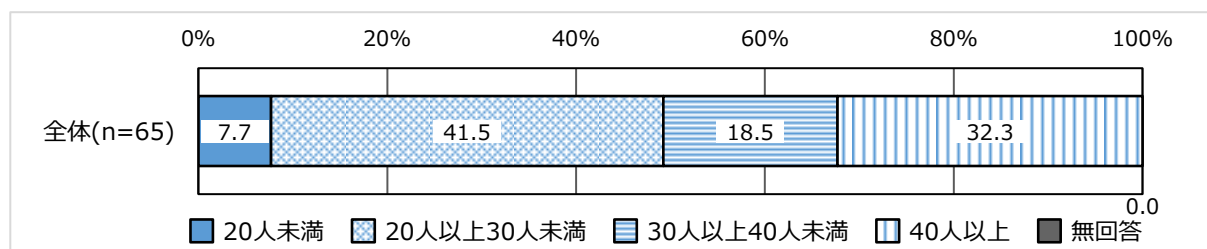
在園児数（令和 5 年 11 月 1 日現在）

問 2 貴園の在園児数（令和 5 年 11 月 1 日現在）

< 乳児（0～2 歳児） >

「20 人以上 30 人未満」が 41.5%でもっとも割合が高く、次いで「40 人以上」が 32.3%、「30 人以上 40 人未満」が 18.5%となっている。

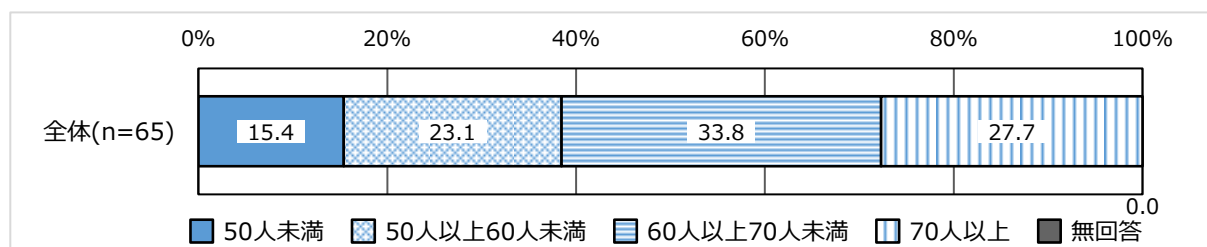
図表 38 在園児数<乳児（0～2 歳児）>（令和 5 年 11 月 1 日現在）：単数回答（問 2）



< 幼児（3～5 歳児） >

「60 人以上 70 人未満」が 33.8%でもっとも割合が高く、次いで「70 人以上」が 27.7%、「50 人以上 60 人未満」が 23.1%となっている。

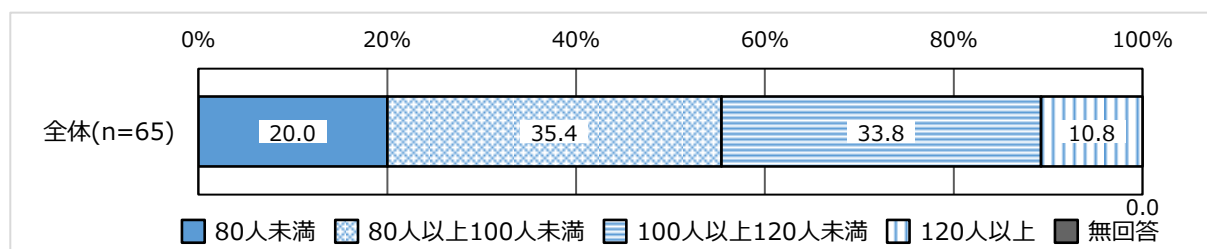
図表 39 在園児数<幼児（3～5 歳児）>（令和 5 年 11 月 1 日現在）：単数回答（問 2）



< 在園児数合計 >

「80 人以上 100 人未満」が 35.4%でもっとも割合が高く、次いで「100 人以上 120 人未満」が 33.8%、「80 人未満」が 20.0%となっている。

図表 40 在園児数合計（令和 5 年 11 月 1 日現在）：単数回答（問 2）

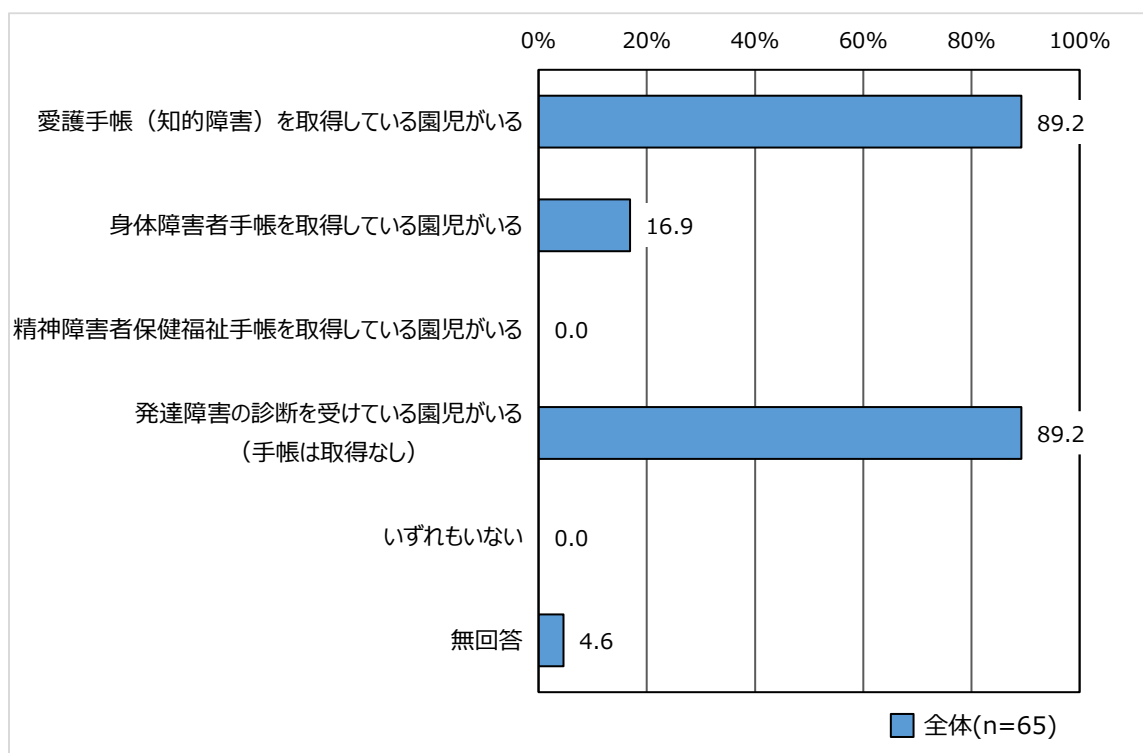


障害に関する手帳保持者等の在園状況

問3 貴園における、障害に関する手帳保持者等の在園状況をお教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

「愛護手帳（知的障害）を取得している園児がいる」「発達障害の診断を受けている園児がいる（手帳は取得なし）」がともに 89.2%、「身体障害者手帳を取得している園児がいる」が 16.9%となっている。

図表 41 障害に関する手帳保持者等の在園状況：複数回答（問3）



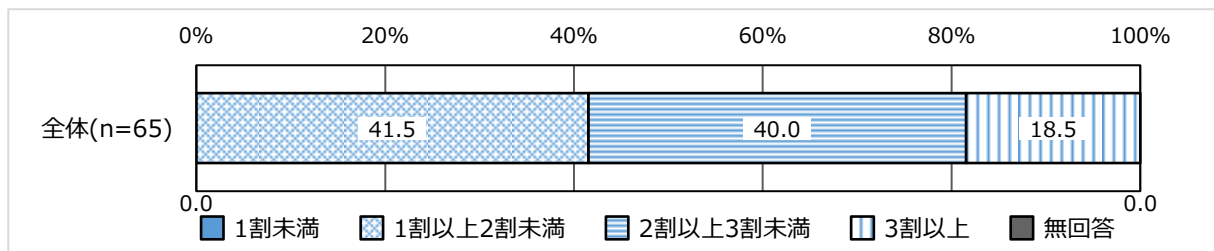
2 発達支援の現状や必要な支援について

発達支援が必要な子どもの在園状況（3～5歳児クラス）

問4 貴園において、発達支援が必要な子どもは、3～5歳児クラスにおいて、現在おおよそ何割くらい在園していますか。

「1割以上2割未満」が41.5%でもっとも割合が高く、次いで「2割以上3割未満」が40.0%、「3割以上」が18.5%となっている。

図表 42 発達支援が必要な子どもの割合（3～5歳児クラス）：単数回答（問4）

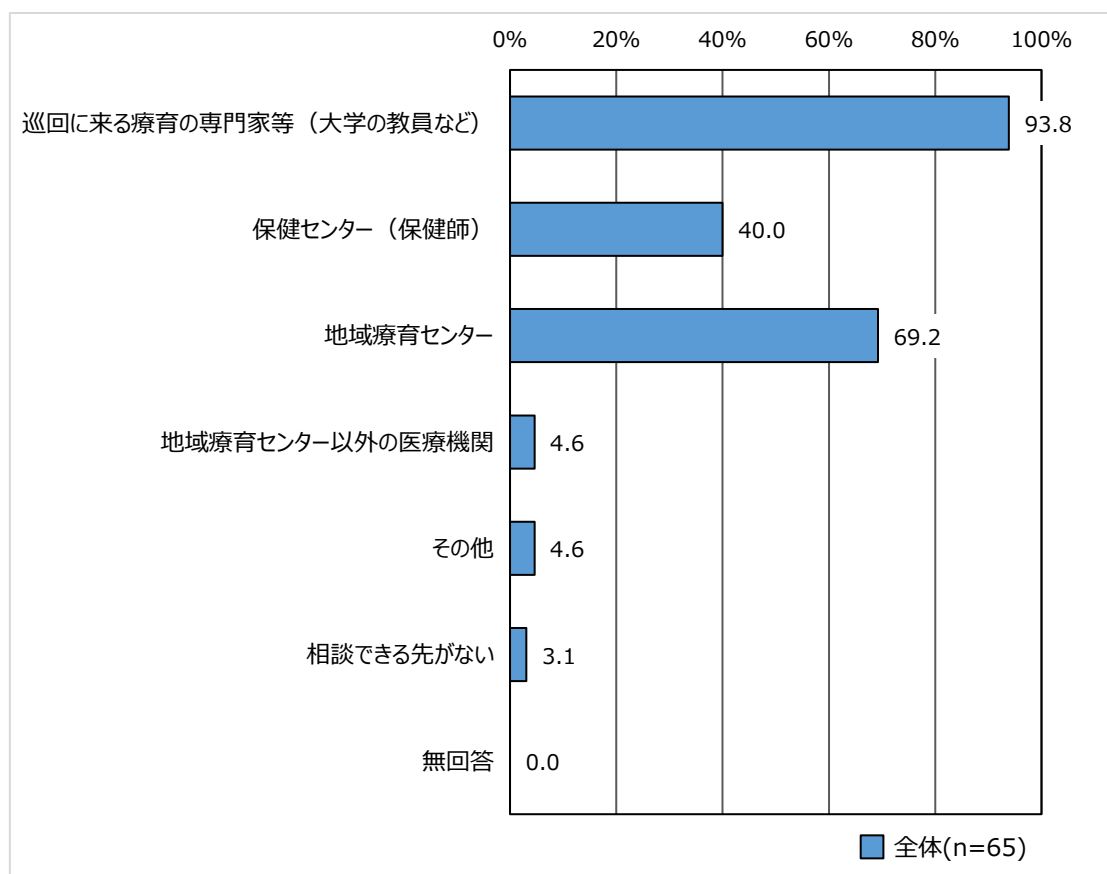


困った際や悩んだ際の相談先

問5 貴園では、発達支援が必要な子どもについて、保育する上で困った際や悩んだ際に誰に相談していますか。(あてはまる番号すべてに○)

「巡回に来る療育の専門家等（大学の教員など）」が93.8%でもっとも割合が高く、次いで「地域療育センター」が69.2%、「保健センター（保健師）」が40.0%となっている。

図表 43 困った際や悩んだ際の相談先：複数回答（問5）



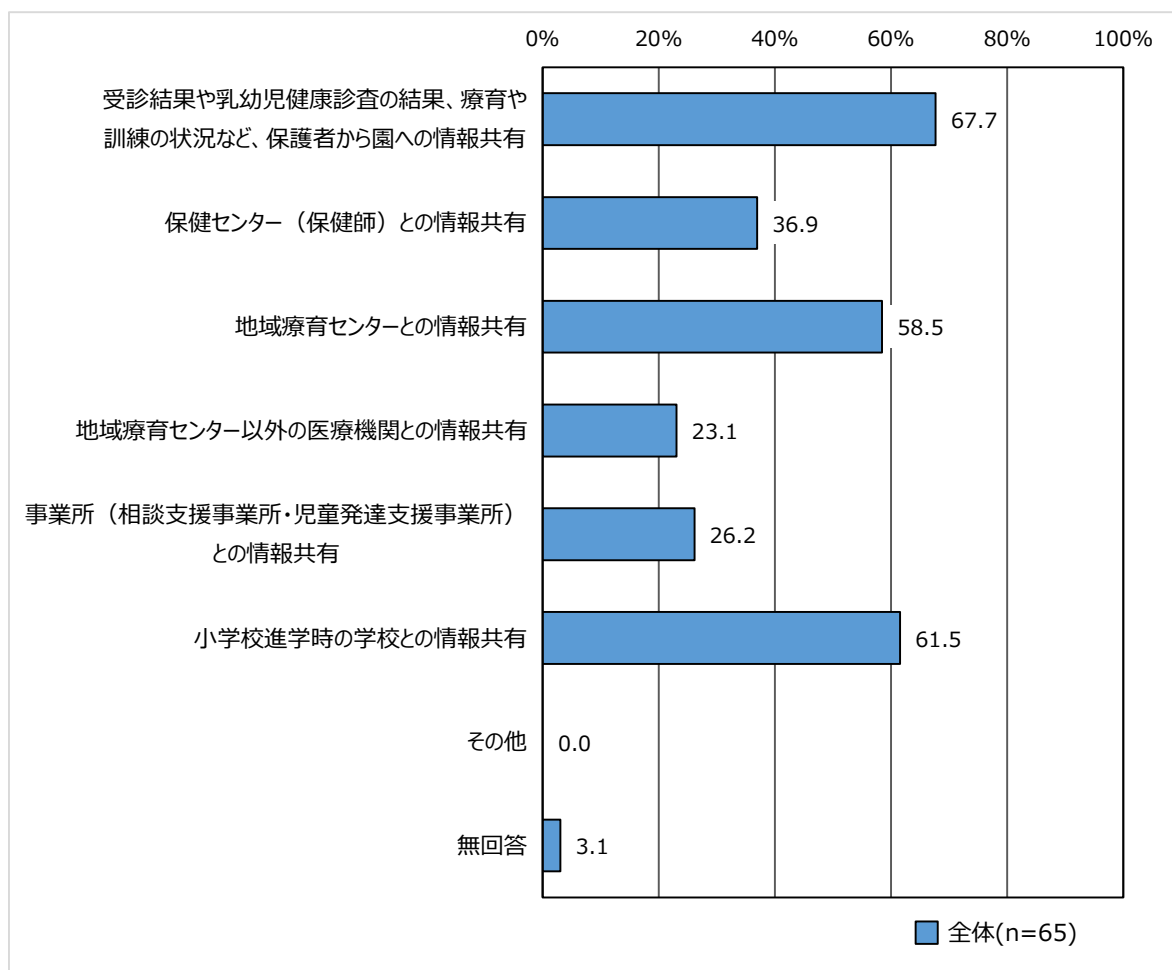
切れ目なく継続的な支援をするにあたり感じている課題

問6 発達支援が必要な子どもに対して、切れ目なく継続的な支援をするにあたり、貴園ではどのような点に課題を感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

切れ目なく継続的な支援をするにあたり感じている課題として、「受診結果や乳幼児健康診査の結果、療育や訓練の状況など、保護者から園への情報共有」(67.7%)、「小学校進学時の学校との情報共有」(61.5%)、「地域療育センターとの情報共有」(58.5%)の割合が高い。

在園児数別にみると、100人未満の園では、「受診結果や乳幼児健康診査の結果、療育や訓練の状況など、保護者から園への情報共有」、「小学校進学時の学校との情報共有」の割合が100人以上の園に比べて高くなっている。また、100人以上の園では、「保健センター(保健師)との共有」の割合が100人未満の園に比べて高くなっている。

図表 44 切れ目なく継続的な支援をするにあたり感じている課題:複数回答(問6)



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	受診結果や乳幼児健康診査の結果、療育や訓練の状況など、保護者から園への情報共有	保健センター（保健師）との情報共有	地域療育センターとの情報共有	地域療育センター以外の医療機関との情報共有	事業所（相談支援事業所・児童発達支援事業所）との情報共有	小学校進学時の学校との情報共有	その他	無回答
全体		65 100.0	44 67.7	24 36.9	38 58.5	15 23.1	17 26.2	40 61.5	0 0.0	2 3.1
在園児数	100 人未満	36 100.0	28 77.8	12 33.3	21 58.3	9 25.0	9 25.0	25 69.4	0 0.0	0 0.0
	100 人以上	29 100.0	16 55.2	12 41.4	17 58.6	6 20.7	8 27.6	15 51.7	0 0.0	2 6.9

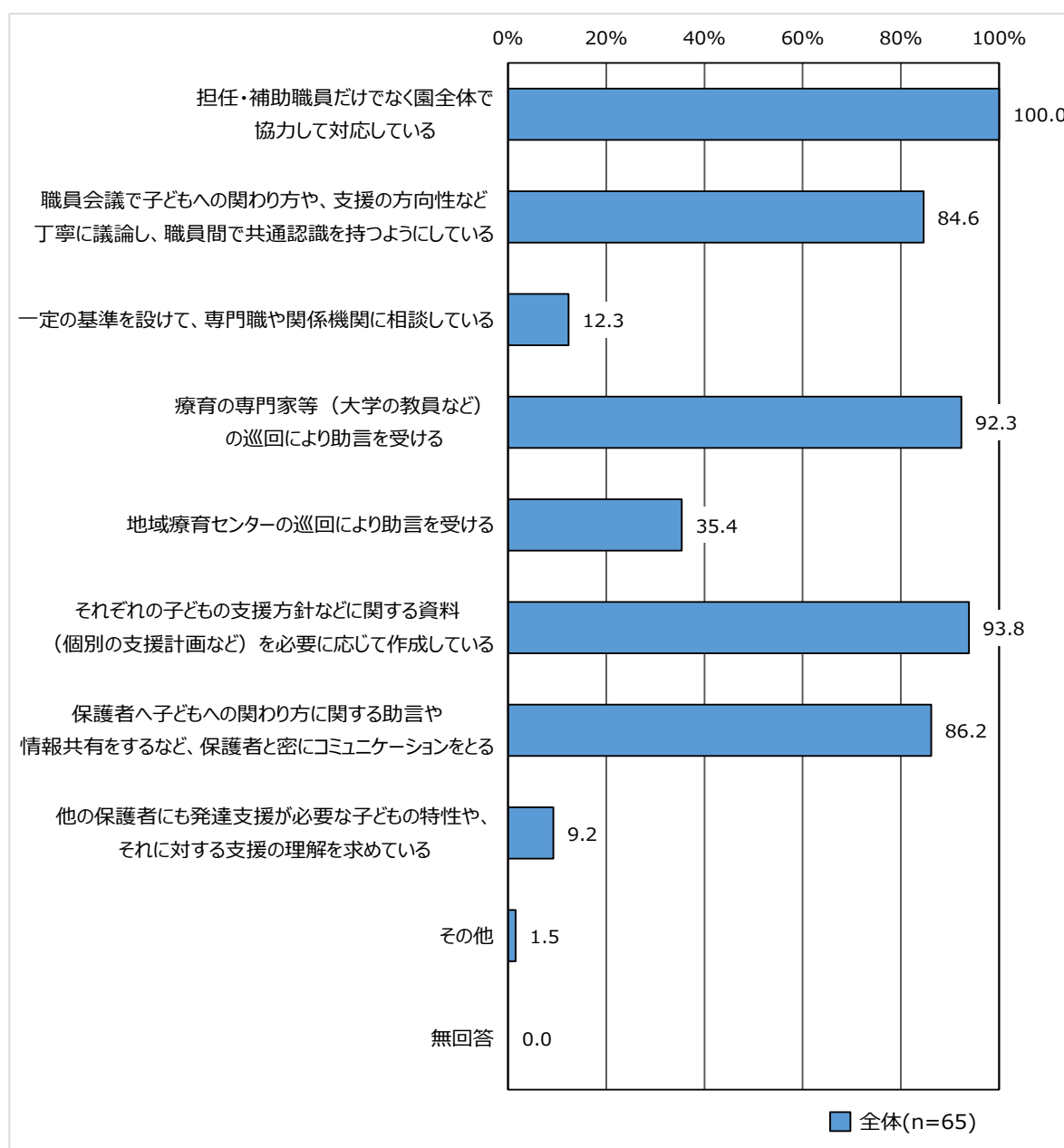
発達支援が必要な子どもへの対応方針や対応で工夫していること

問7 貴園において、発達支援が必要な子どもへの対応方針や、対応において工夫していることについて教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

「担任・補助職員だけでなく園全体で協力して対応している」（100.0%）、「それぞれの子どもへの支援方針などに関する資料（個別の支援計画など）を必要に応じて作成している」（93.8%）、「療育の専門家等（大学の教員など）の巡回により助言を受ける」（92.3%）などをほとんどの園で実施している。なお、「地域療育センターの巡回により助言を受ける」は35.4%となっている。

在園児数別にみると、100人未満の園では、「保護者へ子どもへの関わり方に関する助言や情報共有をするなど、保護者と密にコミュニケーションをとる」の割合が100人以上の園に比べて高くなっている。

図表 45 発達支援が必要な子どもへの対応方針や対応で工夫していること：複数回答（問7）



IV 保育所

(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	担任・補助職員だけでなく園全体で協力して対応している	職員会議で子どもへの関わり方や、支援の方向性など丁寧に議論し、職員間で共通認識を持つようにしている	一定の基準を設けて、専門職や関係機関に相談している	療育の専門家等（大学の教員など）の巡回により助言を受ける	地域の療育センターの巡回により助言を受ける	それぞれの子どもへの支援方針などに関する資料（個別の支援計画など）を必要に応じて作成している	保護者へ子どもへの関わり方に関する助言や情報共有をするなど、保護者と密にコミュニケーションをとる	他の保護者にも発達支援が必要な子どもの特性や、それに対する支援の理解を求めている	その他	無回答
全体		65 100.0	65 100.0	55 84.6	8 12.3	60 92.3	23 35.4	61 93.8	56 86.2	6 9.2	1 1.5	0 0.0
在園児数	100 人未満	36 100.0	36 100.0	31 86.1	3 8.3	34 94.4	14 38.9	33 91.7	33 91.7	1 2.8	1 2.8	0 0.0
	100 人以上	29 100.0	29 100.0	24 82.8	5 17.2	26 89.7	9 31.0	28 96.6	23 79.3	5 17.2	0 0.0	0 0.0

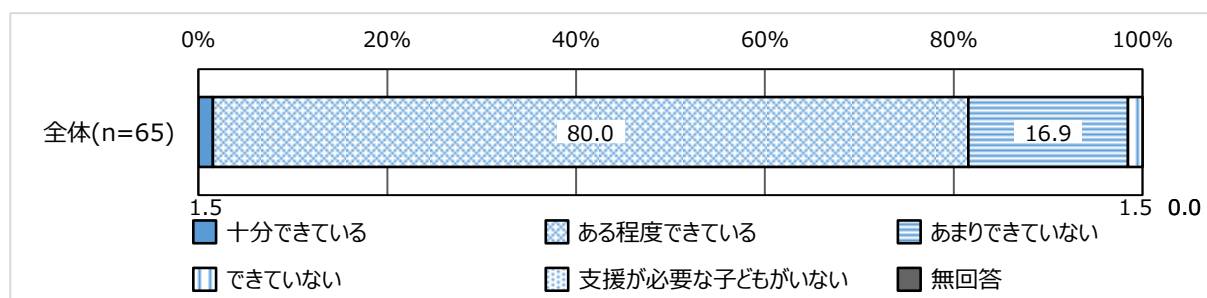
発達支援が必要な子どもへの発達支援の状況

問8 貴園において、発達支援が必要な子どもへの発達支援は、十分にできていると思いますか。（1つに○）

「ある程度できている」が 80.0%でもっとも割合が高く、次いで「あまりできていない」が 16.9%となっている。

在園児数別にみると、100 人以上の園では、100 人未満の園に比べて、「ある程度できている」の割合が低く、「あまりできていない」の割合が高くなっている。

図表 46 発達支援が必要な子どもへの発達支援の状況：単数回答（問8）



（クロス集計）

上段：実数 下段：%		合計	十分 でき ている	ある 程度 でき ている	あ ま り でき て い ない	でき て い ない	支 援 が 必 要 な 子 ど も が い ない	無 回 答
全体		65 100.0	1 1.5	52 80.0	11 16.9	1 1.5	0 0.0	0 0.0
在 園 児 数	100 人未満	36 100.0	0 0.0	31 86.1	5 13.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	100 人以上	29 100.0	1 3.4	21 72.4	6 20.7	1 3.4	0 0.0	0 0.0

現場の負担軽減になる支援や取組

問 10 発達支援が必要な子どもを保育するにあたり、どのような支援や取組があれば現場の負担軽減になると思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

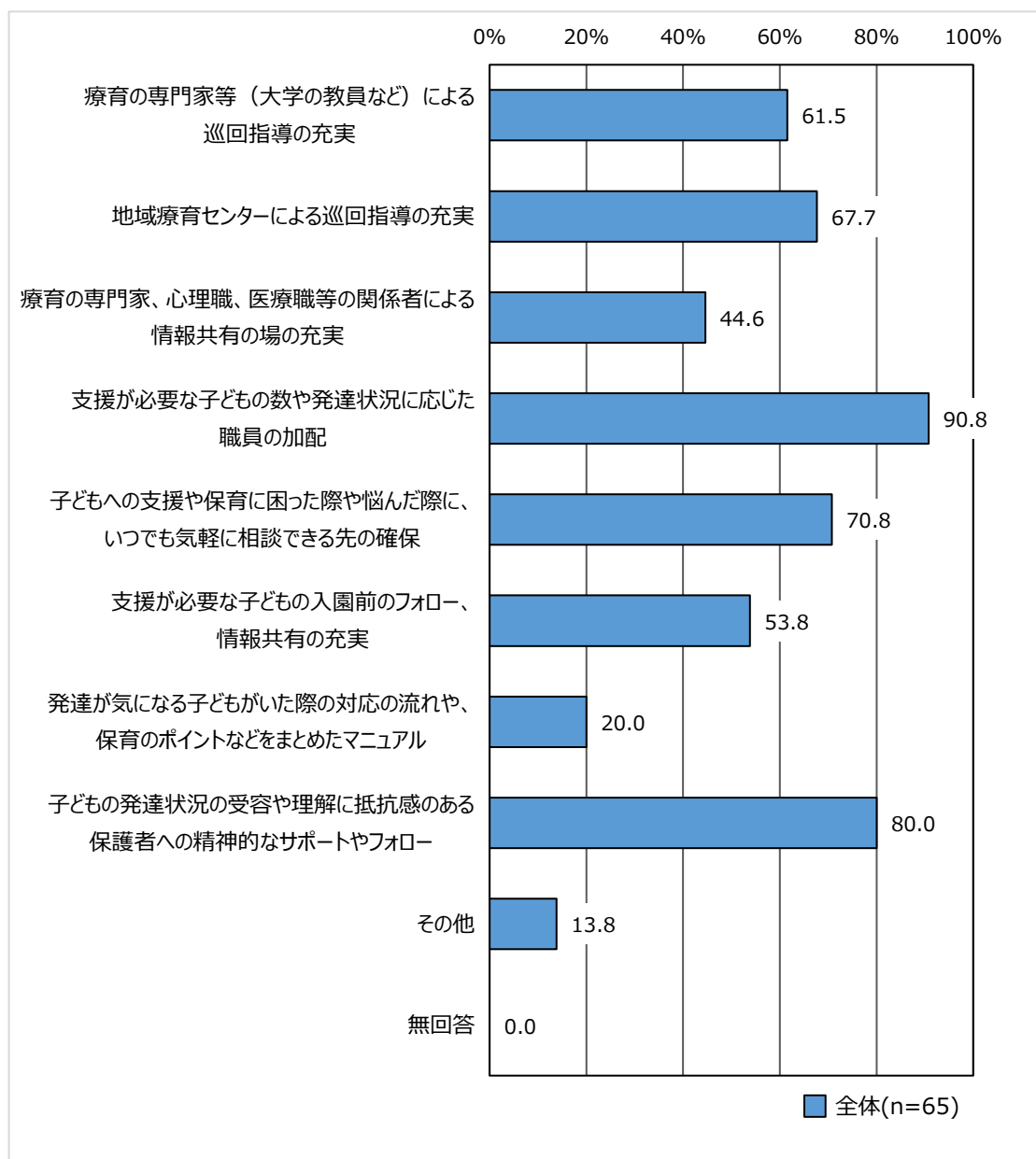
「支援が必要な子どもの数や発達状況に応じた職員の加配」(90.8%)、「子どもの発達状況の受容や理解に抵抗感のある保護者への精神的なサポートやフォロー」(80.0%)、「子どもへの支援や保育に困った際や悩んだ際に、いつでも気軽に相談できる先の確保」(70.8%)の順に割合が高い。

「その他」としては、「室内環境と人的環境(1クラスの人数の多さ改善)。リソースルームがあるとよい」、「補助職員への研修等の強化体制づくり」、「保育園外の専門家による保護者へのアプローチ」などの回答がみられた。

在園児数別にみると、100人未満の園では、「子どもへの支援や保育に困った際や悩んだ際に、いつでも気軽に相談できる先の確保」の割合が100人以上の園に比べて高くなっている。

エリア支援保育所の状況別にみると、保護者からの年間相談件数10件以上の園、区内保育所等からの年間相談件数10件以上の園では、「療育の専門家等(大学の教員など)による巡回指導の充実」の割合が他に比べて高くなっている。また、エリア支援保育所ではない園では、「支援が必要な子どもの入園前のフォロー、情報共有の充実」の割合がエリア支援保育所である園に比べて高くなっている。

図表 47 現場の負担軽減になる支援や取組:複数回答（問 10）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	療育の専門家等 （大学の教員など） による巡回 指導の充実	地域療育センターによる巡回指導の充実	療育の専門家、心理職、 医療職等の関係者によ る情報共有の場の充実	支援が必要な子どもの数や発達状況に応じた職 員の加配	子どもへの支援や保育に困った際や悩んだ際 に、いつでも気軽に相談できる先の確保	支援が必要な子どもの入園前のフォロー、情報 共有の充実	発達が必要な子どもがいた際の対応の流れ や、保育のポイントなどをまとめたマニュアル	子どもの発達状況の受容や理解に抵抗感のある 保護者への精神的なサポートやフォロー	その他	無回答
全体		65 100.0	40 61.5	44 67.7	29 44.6	59 90.8	46 70.8	35 53.8	13 20.0	52 80.0	9 13.8	0 0.0
在園 児数	100 人未満	36 100.0	21 58.3	24 66.7	15 41.7	33 91.7	28 77.8	18 50.0	8 22.2	30 83.3	5 13.9	0 0.0
	100 人以上	29 100.0	19 65.5	20 69.0	14 48.3	26 89.7	18 62.1	17 58.6	5 17.2	22 75.9	4 13.8	0 0.0
エリア の状況① 支援保育所	保護者からの年間相談 件数 10 件未満	17 100.0	10 58.8	13 76.5	7 41.2	16 94.1	14 82.4	8 47.1	4 23.5	14 82.4	0 0.0	0 0.0
	保護者からの年間相談 件数 10 件以上	23 100.0	17 73.9	16 69.6	11 47.8	21 91.3	15 65.2	12 52.2	4 17.4	18 78.3	5 21.7	0 0.0
	エリア支援保育所では ない	24 100.0	13 54.2	15 62.5	10 41.7	21 87.5	16 66.7	15 62.5	5 20.8	20 83.3	4 16.7	0 0.0
エリア の状況② 支援保育所	区内保育所等からの年 間相談件数 10 件未満	27 100.0	18 66.7	22 81.5	13 48.1	24 88.9	19 70.4	13 48.1	7 25.9	21 77.8	4 14.8	0 0.0
	区内保育所等からの年 間相談件数 10 件以上	12 100.0	9 75.0	6 50.0	5 41.7	12 100.0	9 75.0	6 50.0	0 0.0	10 83.3	1 8.3	0 0.0
	エリア支援保育所では ない	24 100.0	13 54.2	15 62.5	10 41.7	21 87.5	16 66.7	15 62.5	5 20.8	20 83.3	4 16.7	0 0.0

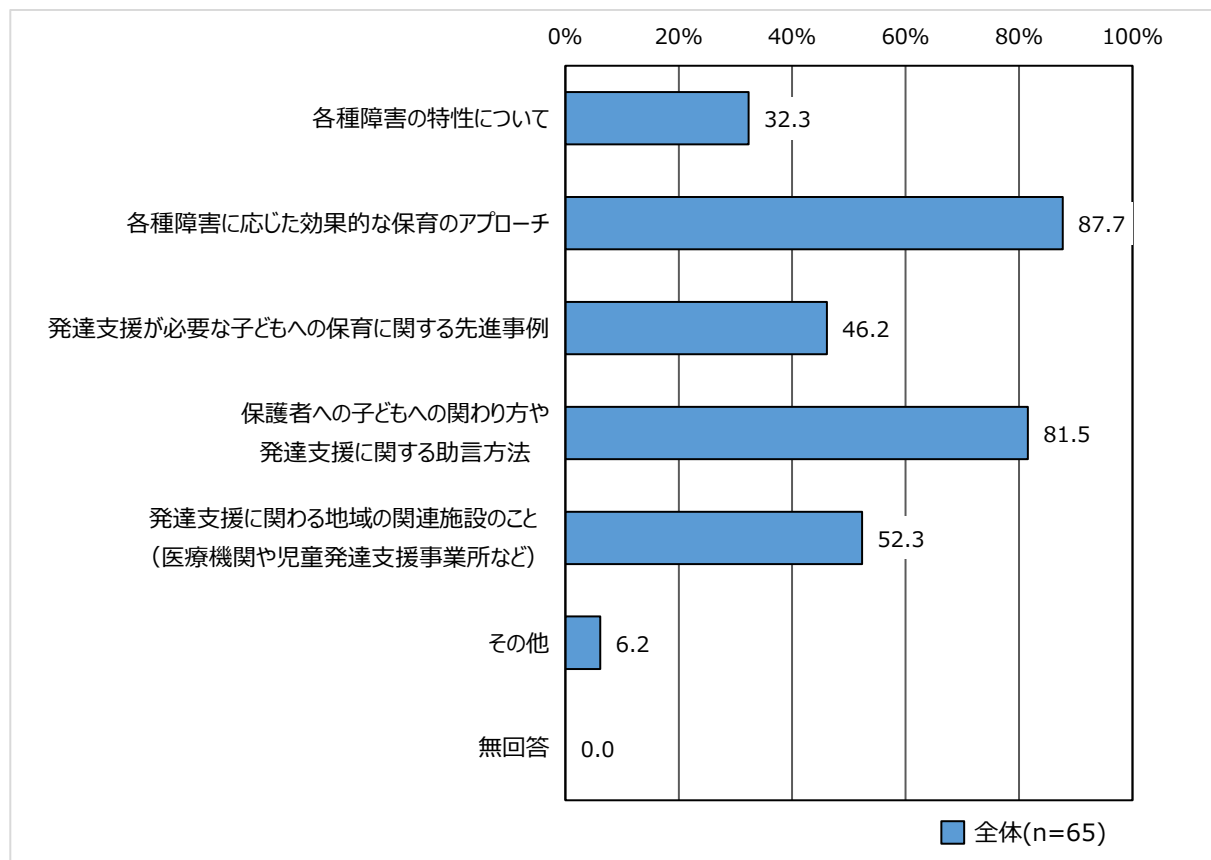
発達支援に関して、今後さらに知りたいこと、学びたいこと

問 1 1 発達支援が必要な子どもの発達支援に関して、貴園として、今後さらに知りたいこと、学びたいことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「各種障害に応じた効果的な保育のアプローチ」（87.7%）、「保護者への子どもへの関わり方や発達支援に関する助言方法」（81.5%）の割合が特に高い。

在園児数別にみると、100 人未満の園では、「保護者への子どもへの関わり方や発達支援に関する助言方法」の割合が、100 人以上の園に比べて高くなっている。

図表 48 発達支援に関して、今後さらに知りたいこと、学びたいこと：複数回答（問 11）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	各種障害の特性について	各種障害に応じた効果的な保育のアプローチ	発達支援が必要な子どもへの保育に関する先進事例	保護者への子どもへの関わり方や発達支援に関する助言方法	発達支援に関わる地域の関連施設のこと（医療機関や児童発達支援事業所など）	その他	無回答
全体		65 100.0	21 32.3	57 87.7	30 46.2	53 81.5	34 52.3	4 6.2	0 0.0
在園児数	100 人未満	36 100.0	14 38.9	31 86.1	15 41.7	31 86.1	18 50.0	1 2.8	0 0.0
	100 人以上	29 100.0	7 24.1	26 89.7	15 51.7	22 75.9	16 55.2	3 10.3	0 0.0
エリア支援保育所の状況①	保護者からの年間相談件数 10 件未満	17 100.0	7 41.2	15 88.2	9 52.9	13 76.5	10 58.8	0 0.0	0 0.0
	保護者からの年間相談件数 10 件以上	23 100.0	5 21.7	21 91.3	11 47.8	18 78.3	12 52.2	3 13.0	0 0.0
	エリア支援保育所ではない	24 100.0	9 37.5	20 83.3	10 41.7	21 87.5	12 50.0	1 4.2	0 0.0
エリア支援保育所の状況②	区内保育所等からの年間相談件数 10 件未満	27 100.0	8 29.6	23 85.2	14 51.9	21 77.8	14 51.9	2 7.4	0 0.0
	区内保育所等からの年間相談件数 10 件以上	12 100.0	3 25.0	12 100.0	5 41.7	9 75.0	7 58.3	1 8.3	0 0.0
	エリア支援保育所ではない	24 100.0	9 37.5	20 83.3	10 41.7	21 87.5	12 50.0	1 4.2	0 0.0

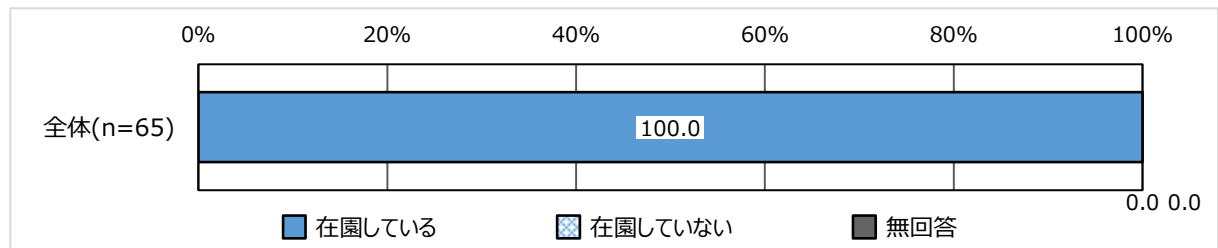
3 「気になる子」の現状と対応の課題について

「気になる子」の在園状況

問 1 2 貴園において、「気になる子」の在園状況をお教えてください。（1つに○）

「在園している」が 100%となっている。

図表 49 「気になる子」の在園状況：単数回答（問 12）



「気になる子」の現在の在園人数（3～5歳児クラス）

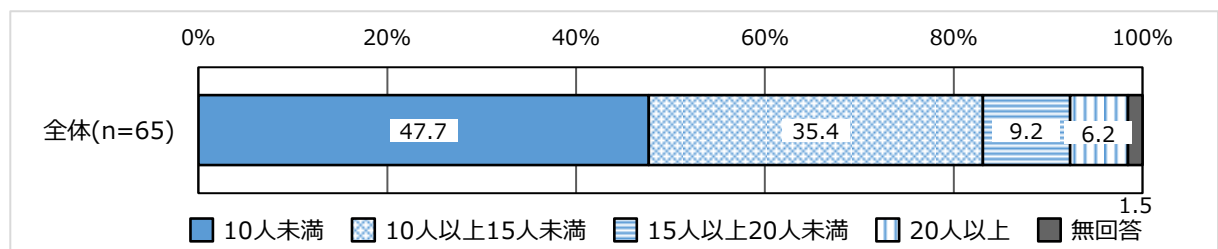
※問 1 2 で「1. 在園している」とお答えの方（その他の方は問 1 5 へ）

問 1 3 「気になる子」は、3～5歳児クラスにおいて、現在何人くらい在園していますか。
正確な人数でなくても、おおよそでも構いません。

※手帳保持者や障害の診断、認定を受けている子どもは除外してお答えください。

「10 人未満」が 47.7%でもっとも割合が高く、次いで「10 人以上 15 人未満」が 35.4%、「15 人以上 20 人未満」が 9.2%となっている。

図表 50 「気になる子」の現在の在園人数（3～5歳児クラス）：単数回答（問 13）

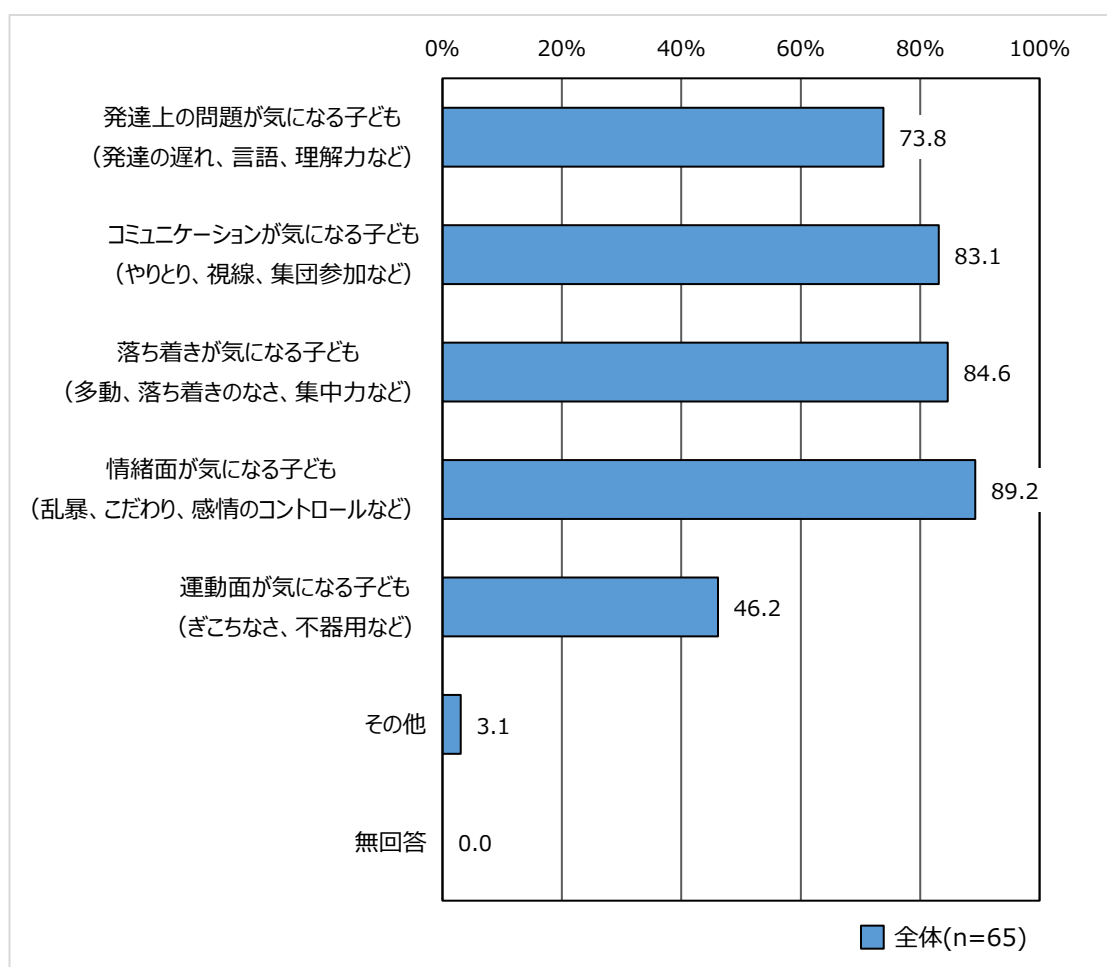


「気になる子」について、特に多いと感じる特性

問 1 4 「気になる子」について、特にどのような子どもが多いと感じますか。(あてはまる番号すべてに○)

「情緒面が気になる子ども（乱暴、こだわり、感情のコントロールなど）」が 89.2%でもっとも割合が高く、次いで「落ち着きが気になる子ども（多動、落ち着きのなさ、集中力など）」が 84.6%、「コミュニケーションが気になる子ども（やりとり、視線、集団参加など）」が 83.1%となっている。

図表 51 「気になる子」について、特に多いと感じる特性：複数回答（問 14）



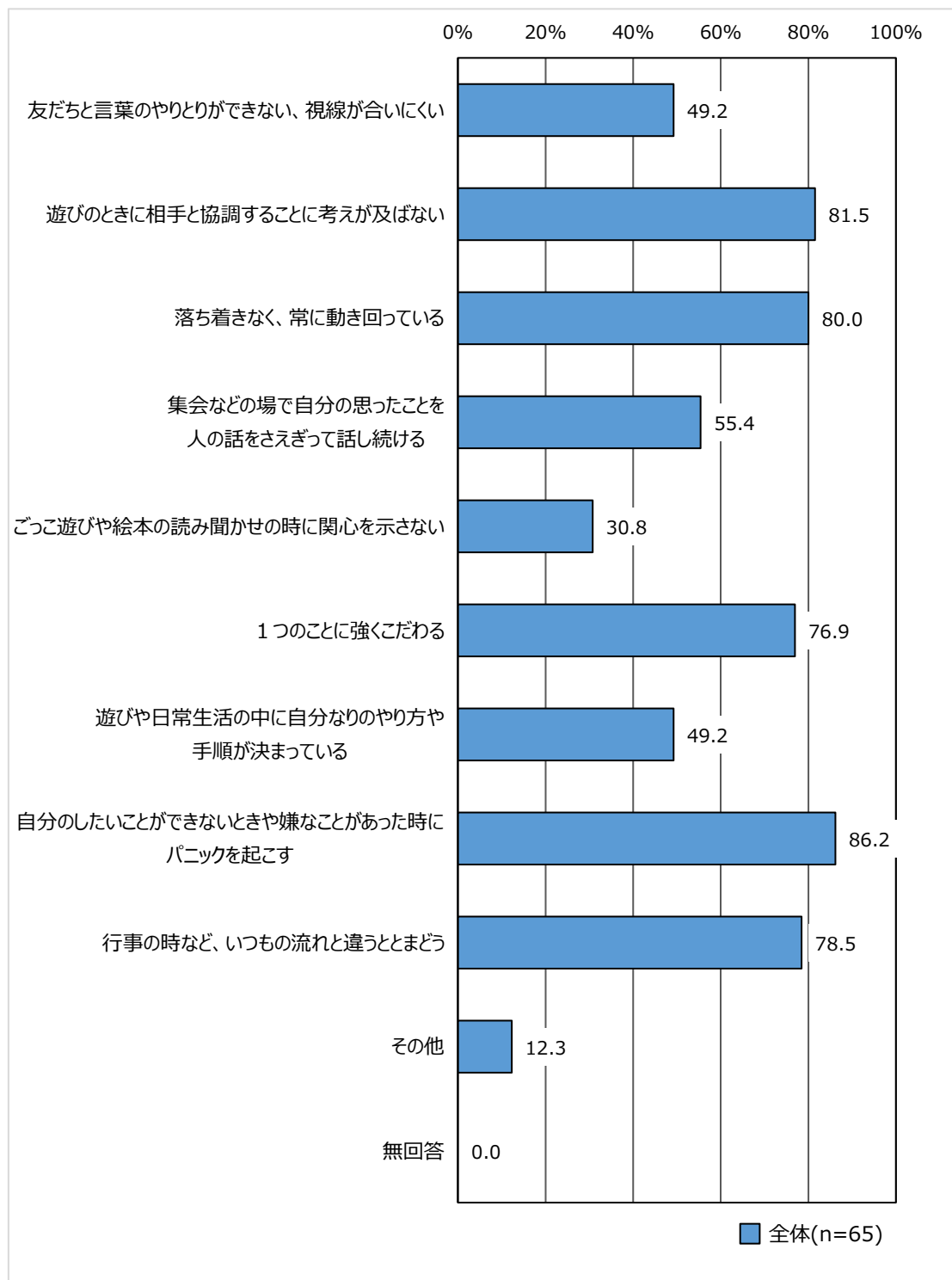
「気になる子」の発達特性に気づく場面やきっかけ

問 1 5 貴園において、どのようなきっかけ・場面で、「気になる子」の発達特性に気づくことが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

「自分のしたいことができないときや嫌なことがあった時にパニックを起こす」が 86.2%でもっとも割合が高く、次いで「遊びのときに相手と協調することに考えが及ばない」が 81.5%、「落ち着きなく、常に動き回っている」が 80.0%となっている。

「その他」としては、「切り替えが上手くできない」、「全体指示で困る姿がある」、「マイペースでまわりと違う動きをしていても平気。衝動的で手を出してしまうことがある」などの回答がみられた。

図表 52 「気になる子」の発達特性に気づく場面やきっかけ:複数回答(問 15)



「気になる子」への支援や対応において感じる課題や難しさ

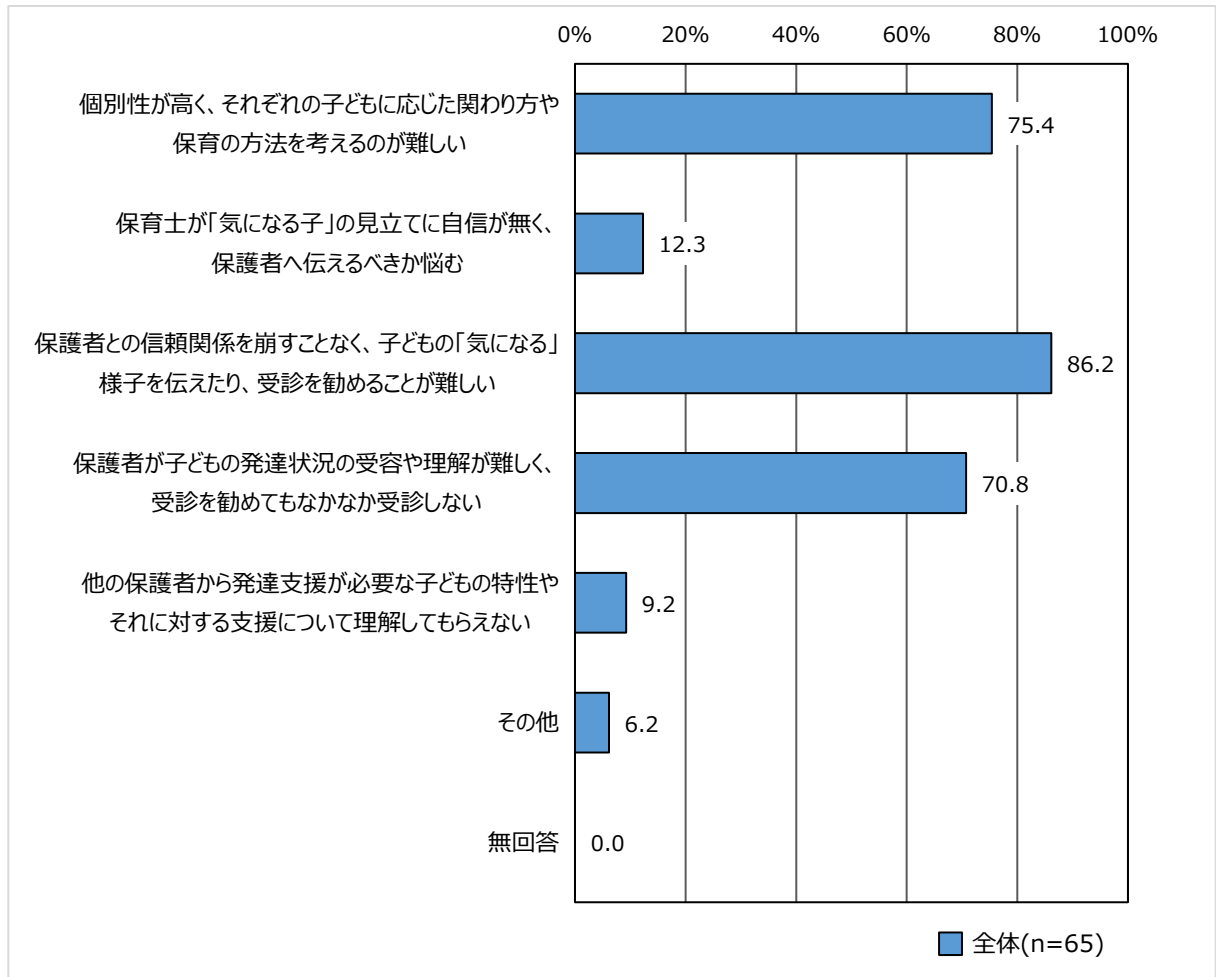
問 16 「気になる子」への支援や対応において、貴園では、どのような課題や難しさを感じられていますか。（あてはまる番号すべてに○）

「保護者との信頼関係を崩すことなく、子どもの「気になる」様子を伝えたり、受診を勧めることが難しい」（86.2%）、「個別性が高く、それぞれの子どもに応じた関わり方や保育の方法を考えるのが難しい」（75.4%）、「保護者が子どもの発達状況の受容や理解が難しく、受診を勧めてもなかなか受診しない」（70.8%）の割合が特に高い。

在園児数別にみると、100人未満の園では、「保護者が子どもの発達状況の受容や理解が難しく、受診を勧めてもなかなか受診しない」の割合が100人以上の園に比べて高くなっている。

エリア支援保育所の状況別にみると、保護者からの年間相談件数が10件以上の園では、「保護者が子どもの発達状況の受容や理解が難しく、受診を勧めてもなかなか受診しない」の割合が他に比べて低くなっている。

図表 53 「気になる子」への支援や対応において感じる課題や難しさ：複数回答（問 16）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	個別性が高く、それぞれの子どもに 応じた関わり方や保育の方法を考 えるのが難しい	保育士が「気になる子」の 見立てに自信が無く、 保護者へ伝えるべきか悩む	保護者との信頼関係を崩す ことなく、子どもの「気 になる」様子を伝えたり、 受診を勧めることが 難しい	保護者が子どもの発達 状況の受容や理解が 難しく、受診を勧めて もなかなか受診しない	他の保護者から発達 支援が必要な子どもの 特性やそれに対する支援に ついて理解してもらえ ない	その他	無回答
全体		65 100.0	49 75.4	8 12.3	56 86.2	46 70.8	6 9.2	4 6.2	0 0.0
在園 児数	100 人未満	36 100.0	27 75.0	5 13.9	31 86.1	29 80.6	4 11.1	3 8.3	0 0.0
	100 人以上	29 100.0	22 75.9	3 10.3	25 86.2	17 58.6	2 6.9	1 3.4	0 0.0
エリア 支援 保育所 の 状況 ①	保護者からの年間相談 件数 10 件未満	17 100.0	14 82.4	3 17.6	12 70.6	14 82.4	2 11.8	0 0.0	0 0.0
	保護者からの年間相談 件数 10 件以上	23 100.0	16 69.6	0 0.0	20 87.0	14 60.9	1 4.3	2 8.7	0 0.0
	エリア支援保育所では ない	24 100.0	18 75.0	5 20.8	23 95.8	17 70.8	3 12.5	2 8.3	0 0.0

4 関係機関との連携について

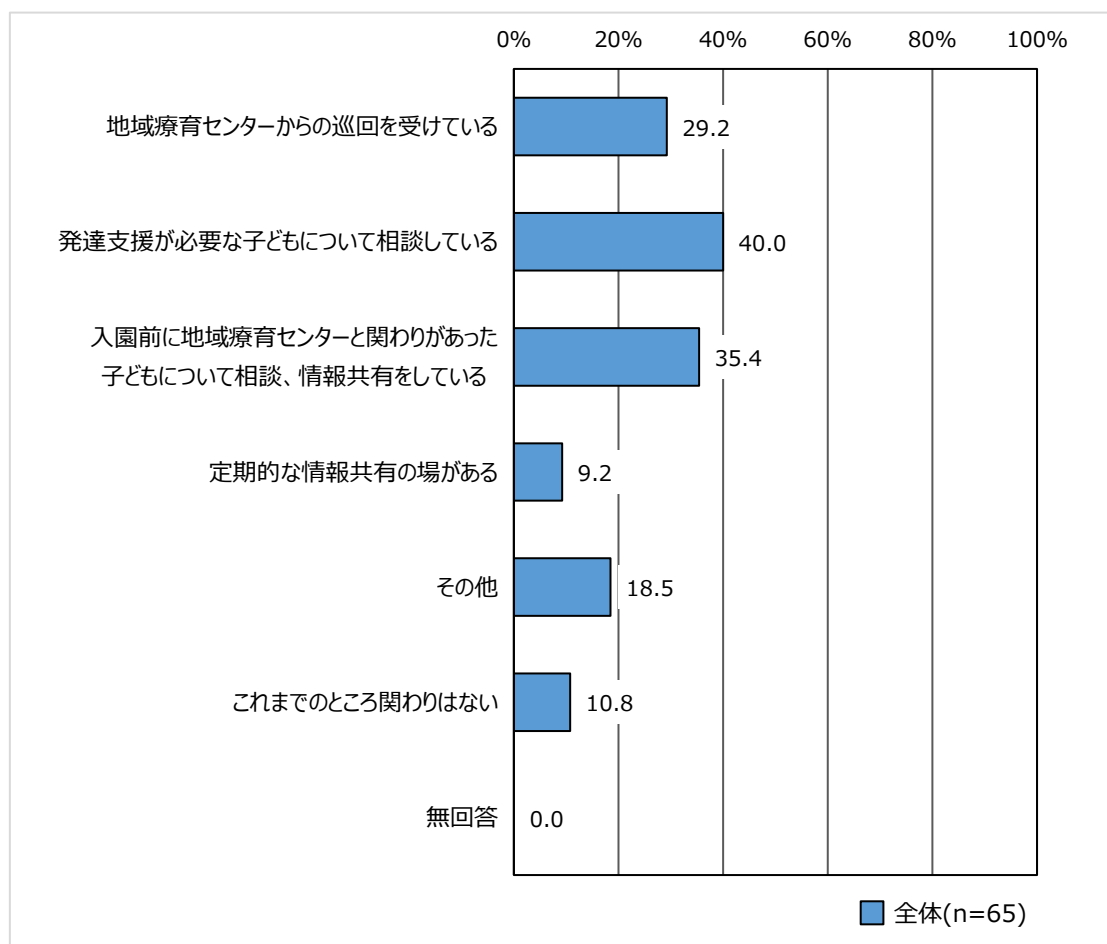
これまでの地域療育センターとの関わり

問 17 これまでの地域療育センターと貴園との関わりについて、お教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

「発達支援が必要な子どもについて相談している」（40.0%）、「入園前に地域療育センターと関わりがあった子どもについて相談、情報共有をしている」（35.4%）、「地域療育センターからの巡回を受けている」（29.2%）など、何らかの関わりを持っている園が 89.2%となっている。

「その他」としては、「受診への同行」、「こちらから情報共有をお願いする電話を入れた」、「困ったときに相談するが少ない」、「療育センターから保育園にきた子に対して訪問」などの回答がみられた。

図表 54 これまでの地域療育センターとの関わり：複数回答（問 17）



地域療育センターと連携する上での課題

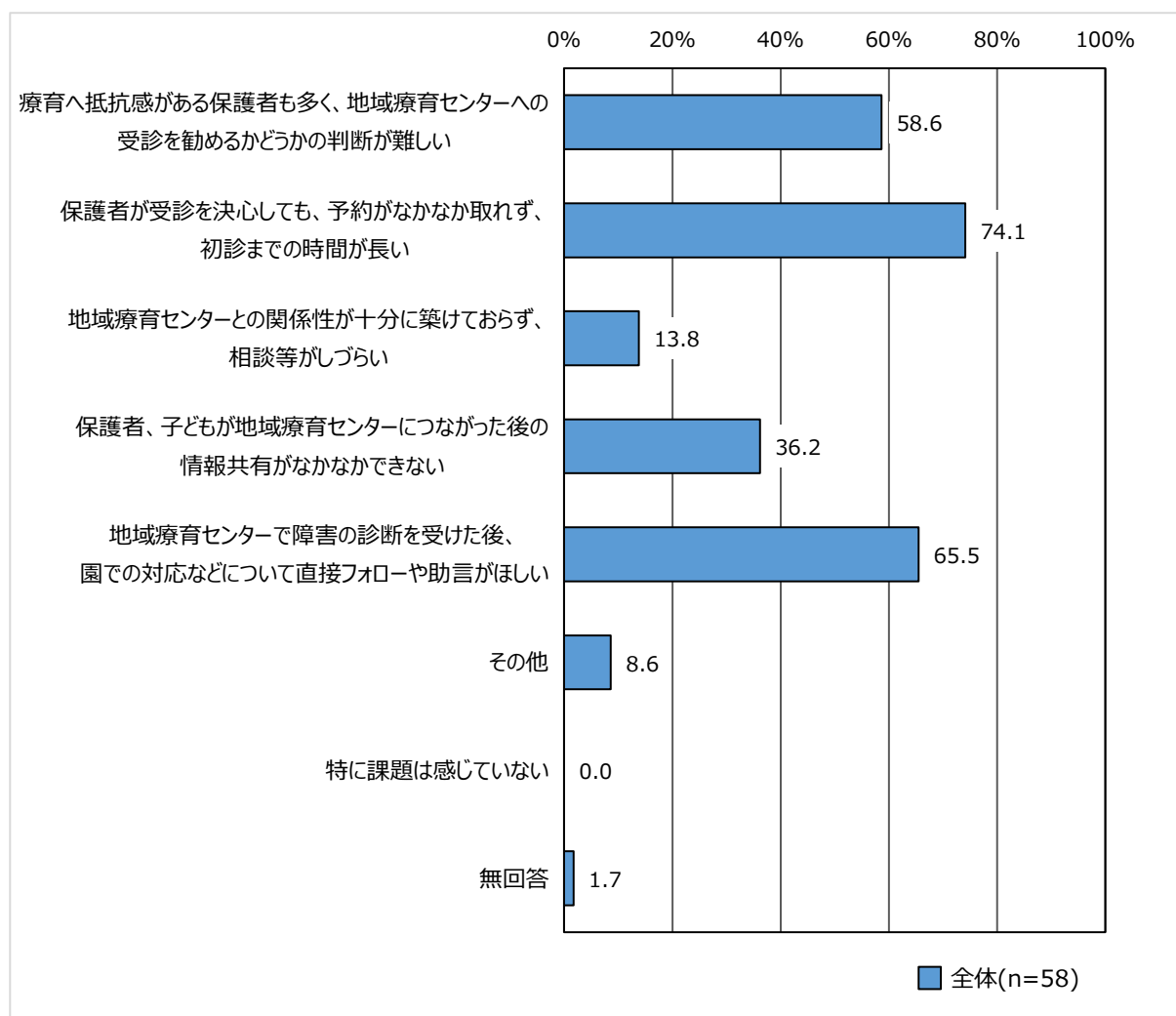
※問17で地域療育センターと関わりがあると答えの方（1～5と答えの方）

問18 地域療育センターと連携する上で、どのような課題を感じていますか。（あてはまる番号すべてに○）

「保護者が受診を決心しても、予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い」が74.1%でもっとも割合が高く、次いで「地域療育センターで障害の診断を受けた後、園での対応などについて直接フォローや助言がほしい」が65.5%、「療育へ抵抗感がある保護者も多く、地域療育センターへの受診を勧めるかどうかの判断が難しい」が58.6%となっている。

エリア支援保育所の状況別にみると、保護者からの年間相談件数が10件以上の園では、「保護者、子どもが地域療育センターにつながった後の情報共有がなかなかできない」の割合が他に比べて高くなっている。

図表 55 地域療育センターと連携する上での課題：複数回答（問18）



(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	療育へ抵抗感がある保護者も多く、地域療育センターへの受診を勧めるかどうかの判断が難しい	保護者が受診を決心しても、予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い	地域療育センターとの関係性が十分に築けておらず、相談等がしづらい	保護者、子どもが地域療育センターにつながつた後の情報共有がなかなかできない	地域療育センターで障害の診断を受けた後、園での対応などについて直接フォローや助言がほしい	その他	特に課題は感じていない	無回答
全体		58 100.0	34 58.6	43 74.1	8 13.8	21 36.2	38 65.5	5 8.6	0 0.0	1 1.7
在園児数	100 人未満	34 100.0	20 58.8	26 76.5	5 14.7	13 38.2	21 61.8	2 5.9	0 0.0	1 2.9
	100 人以上	24 100.0	14 58.3	17 70.8	3 12.5	8 33.3	17 70.8	3 12.5	0 0.0	0 0.0
エリア支援保育所の状況①	保護者からの年間相談件数 10 件未満	15 100.0	8 53.3	11 73.3	4 26.7	5 33.3	11 73.3	1 6.7	0 0.0	1 6.7
	保護者からの年間相談件数 10 件以上	19 100.0	10 52.6	14 73.7	2 10.5	10 52.6	13 68.4	4 21.1	0 0.0	0 0.0
	エリア支援保育所ではない	23 100.0	15 65.2	17 73.9	2 8.7	6 26.1	14 60.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0

地域療育センターと関わりがない理由

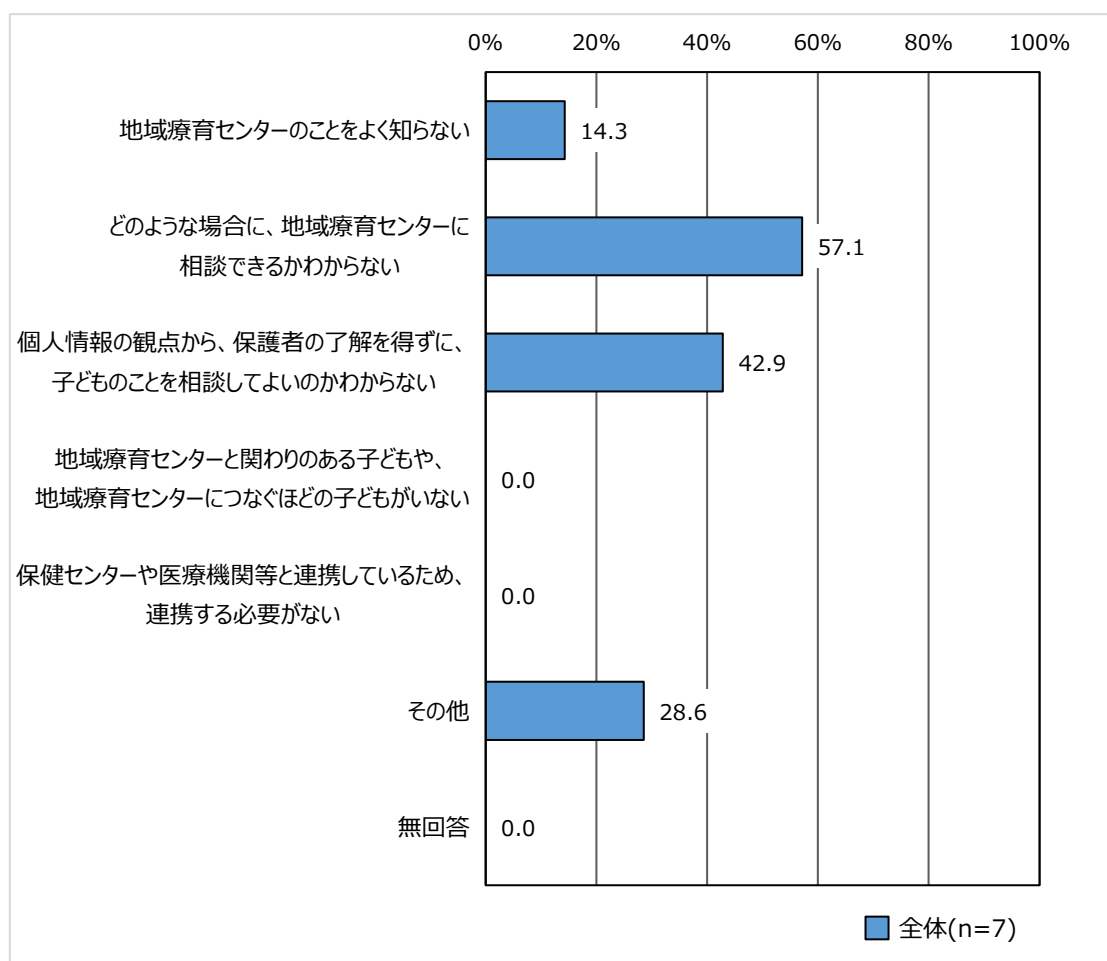
※問１７で「６．これまでのところ関わりはない」とお答えの方（その他の方は問２０へ）

問１９ 地域療育センターと関わりがない理由は何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「どのような場合に、地域療育センターに相談できるかわからない」が57.1%でもっとも割合が高く、次いで「個人情報の観点から、保護者の了解を得ずに、子どものことを相談してよいのかわからない」が42.9%となっている。

「その他」としては、「これまで定期的、定例として相談会や情報共有の機会がなかったから」などの回答がみられた。

図表 56 地域療育センターと関わりがない理由：複数回答（問 19）



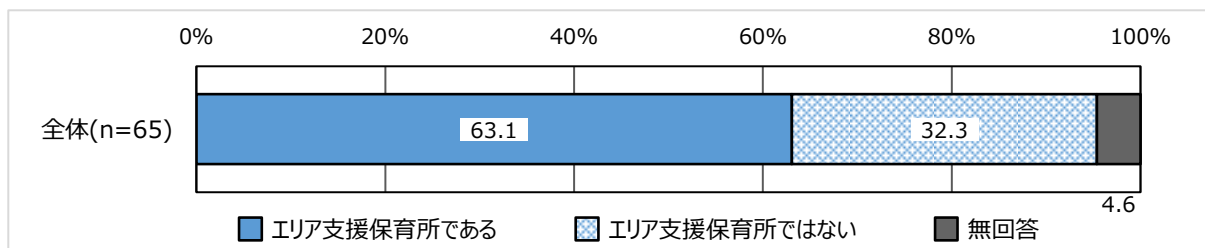
5 エリア支援保育所について

エリア支援保育所かどうか

問 2 1 貴園は、エリア支援保育所ですか。（1 つに○）

「エリア支援保育所である」が 63.1%、「エリア支援保育所ではない」が 32.3%となっている。

図表 57 エリア支援保育所かどうか:単数回答（問 21）



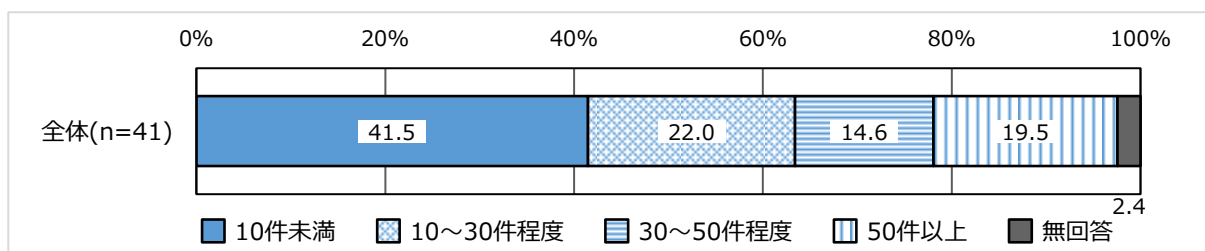
子どもの発達に関する年間相談件数

※問 2 1 で「1. エリア支援保育所である」とお答えの方

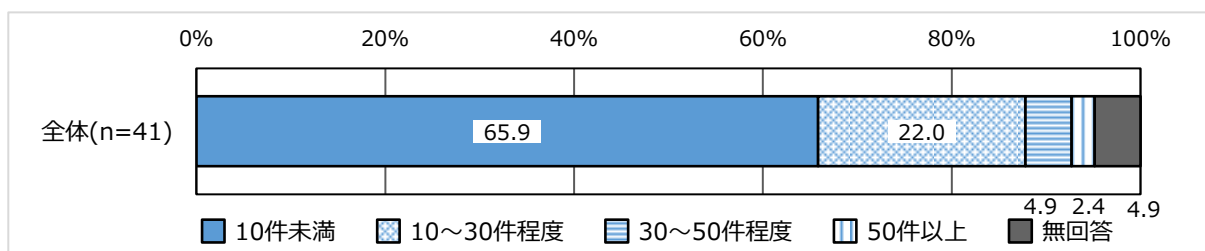
問 2 2 保護者、及び区内の保育所等より、子どもの発達に関する相談は年間何件程度ありますか。（それぞれあてはまるもの 1 つ）

1 年間で「10 件以上」の相談状況をみると、保護者からは 56.1%、区内の保育所からは 29.3%となっている。

図表 58 子どもの発達に関する年間相談件数（①保護者から）:単数回答（問 22）



図表 59 子どもの発達に関する年間相談件数（②区内の保育所等から）:単数回答（問 22）



相談対応をする中で、困っていることや課題に感じていること

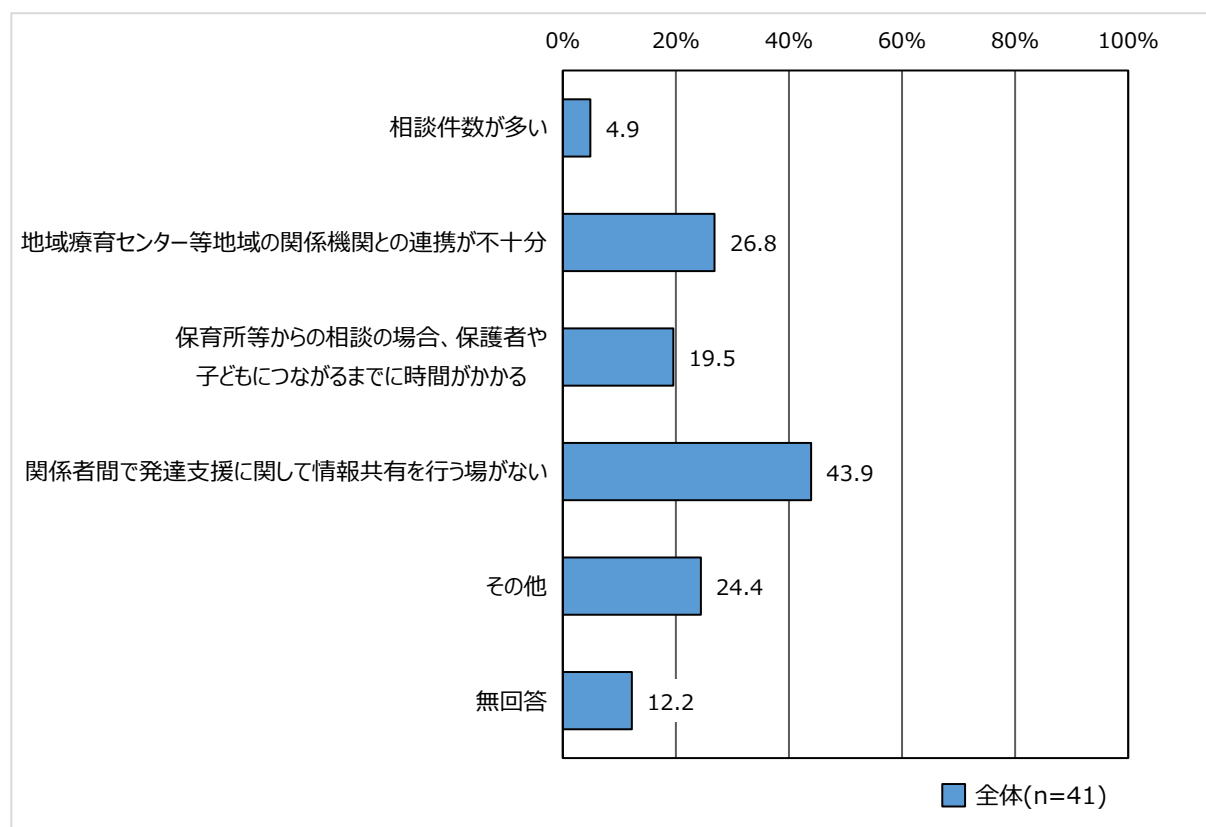
※問21で「1. エリア支援保育所である」とお答えの方

問23 貴園において、保護者や区内保育所等からの子どもの発達に関する相談対応をする中で、困っていることや課題に感じていることは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「関係者間で発達支援に関して情報共有を行う場がない」が43.9%でもっとも割合が高く、次いで「地域療育センター等地域の関係機関との連携が不十分」が26.8%となっている。

「その他」としては、「相談件数が少ない」、「子育て相談としてはたくさん相談を受けているが発達相談に関しては直接相談を受けるのではなく、関係機関につないでいる」、「0才～1才半ころまでの保護者は些細なことで不安を話すが逆に、1才以上になると保護者の口から『発達が心配』とはっきりとした相談が減るのでこちらからのアプローチがしづらい面もある」、「関係者間で発達支援に関して情報共有を行う場はあるが回数が少ない」などの回答がみられた。

図表 60 相談対応をする中で、困っていることや課題に感じていること：複数回答（問23）



V 子育て支援拠点アンケート

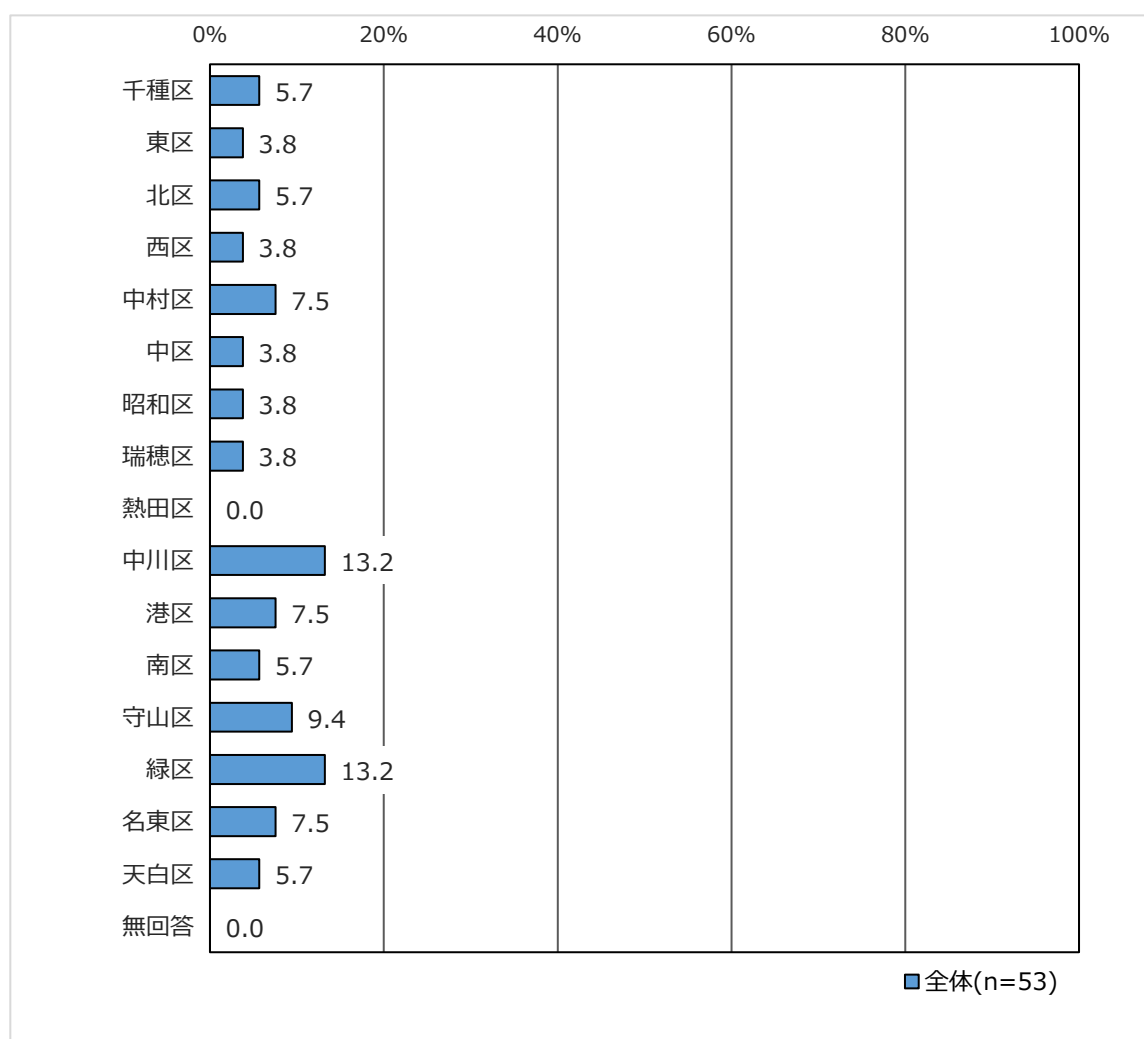
1 拠点について

拠点の所在地

問1 拠点の所在地（1つに○）

「中川区」「緑区」が13.2%、「守山区」が9.4%、「中村区」「港区」「名東区」が7.5%となっている。

図表 61 拠点の所在地:単数回答（問1）

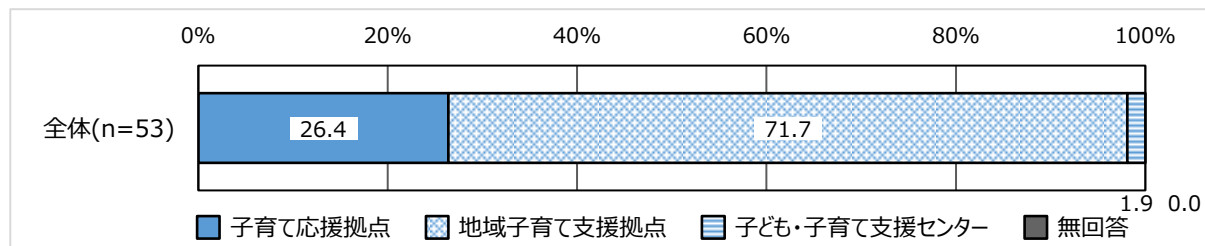


拠点の種類

問2 拠点の種類（1つに○）

「地域子育て支援拠点」が71.7%、「子育て応援拠点」が26.4%、「子ども・子育て支援センター」が1.9%となっている。

図表 62 拠点の種類：単数回答（問2）



2 拠点の利用者について

「気になる子」について

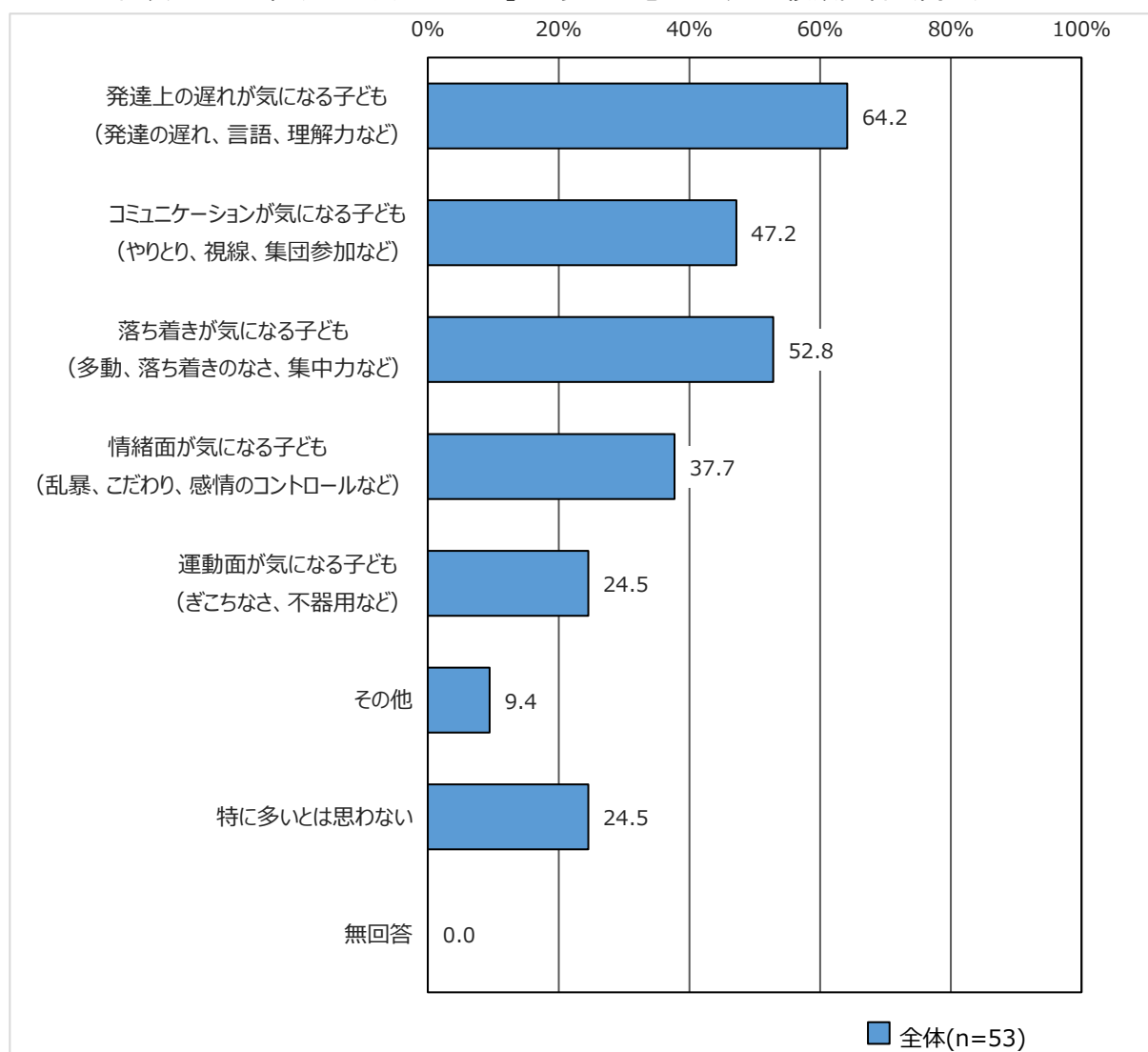
※「小学校に行く前（就学前）の子ども」の発達支援について対象としています。

問3 拠点を訪れる子どもをみて、次のような子ども（発達支援が必要と思われる子ども、いわゆる「気になる子」）が多いと感じますか。（あてはまる番号すべてに○）

「発達上の遅れが気になる子ども（発達の遅れ、言語、理解力など）」が64.2%でもっとも割合が高く、次いで「落ち着きが気になる子ども（多動、落ち着きのなさ、集中力など）」が52.8%、「コミュニケーションが気になる子ども（やりとり、視線、集団参加など）」が47.2%となっている。

「その他」としては、「食事」や「食の乱れ」などの回答がみられた。

図表 63 いわゆる「気になる子」が多いと感じますか:複数回答（問3）

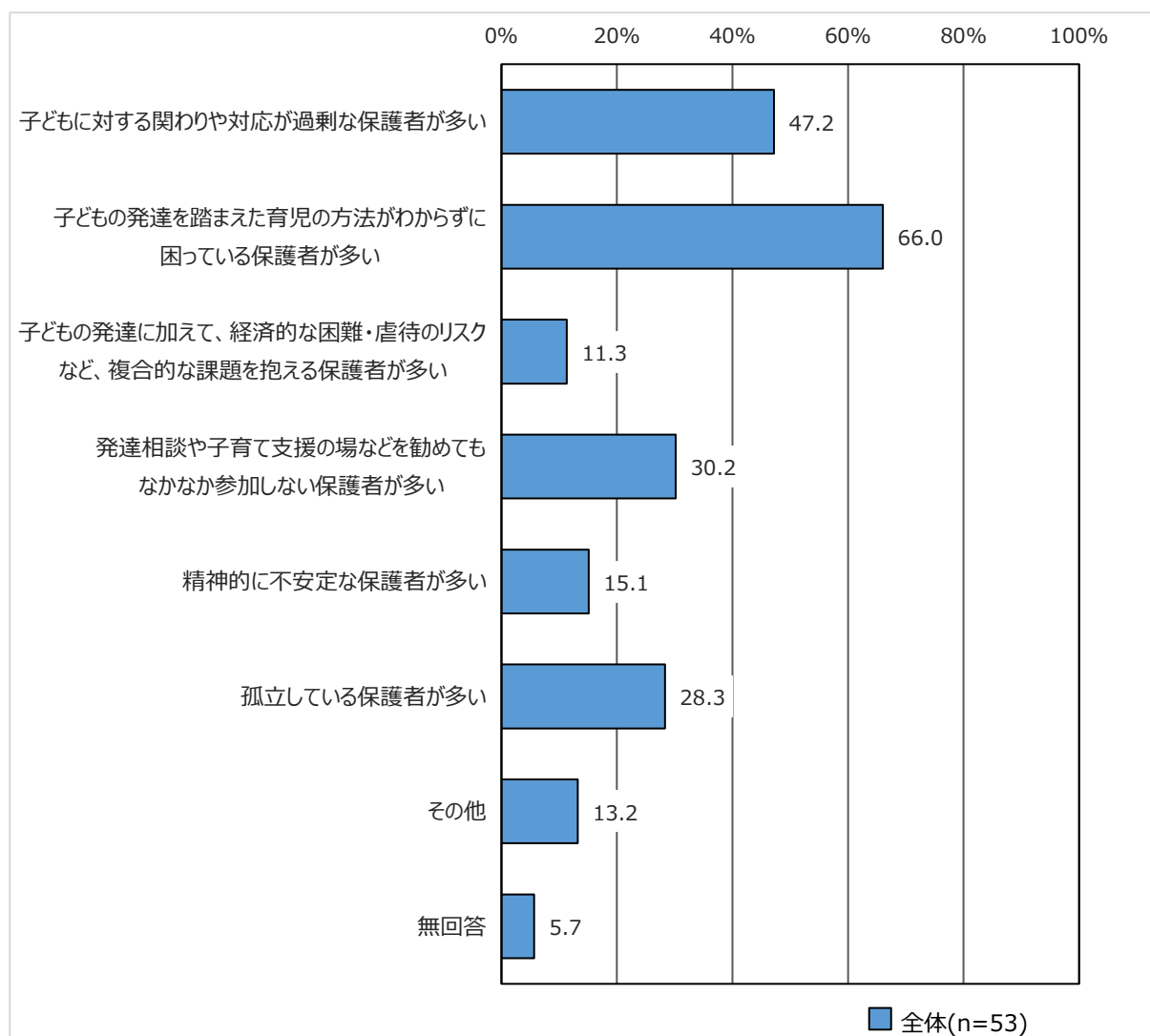


拠点を訪れる保護者について気になること

問4 拠点を訪れる保護者について気になることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

「子どもの発達を踏まえた育児の方法がわからずに困っている保護者が多い」が66.0%でもっとも割合が高く、次いで「子どもに対する関わりや対応が過剰な保護者が多い」が47.2%となっている。

図表 64 拠点を訪れる保護者について気になること：複数回答（問4）

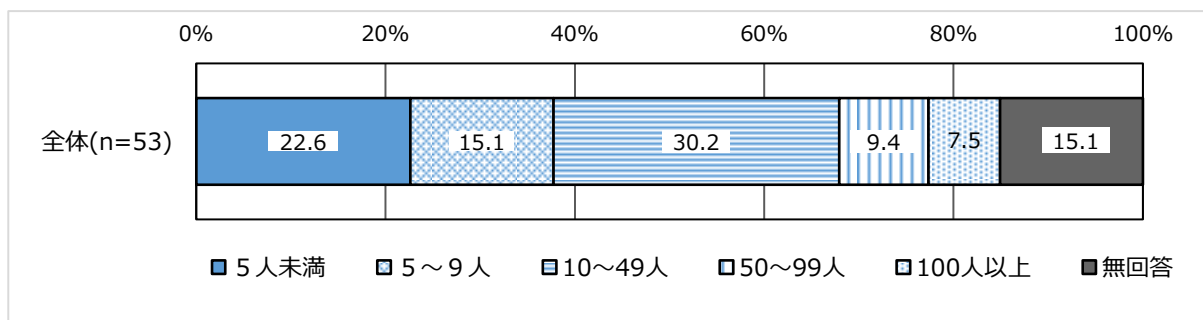


発達に関する相談

問5 問3の項目をはじめ、子どもの発達について、1年間に、どれぐらいの来所や相談がありますか。(数字を記入)

「5人未満」(22.6%)から「100人以上」(7.5%)まで多様である。

図表 65 発達に関する相談人数：単数回答（問5）



3 発達支援に関する取組状況について

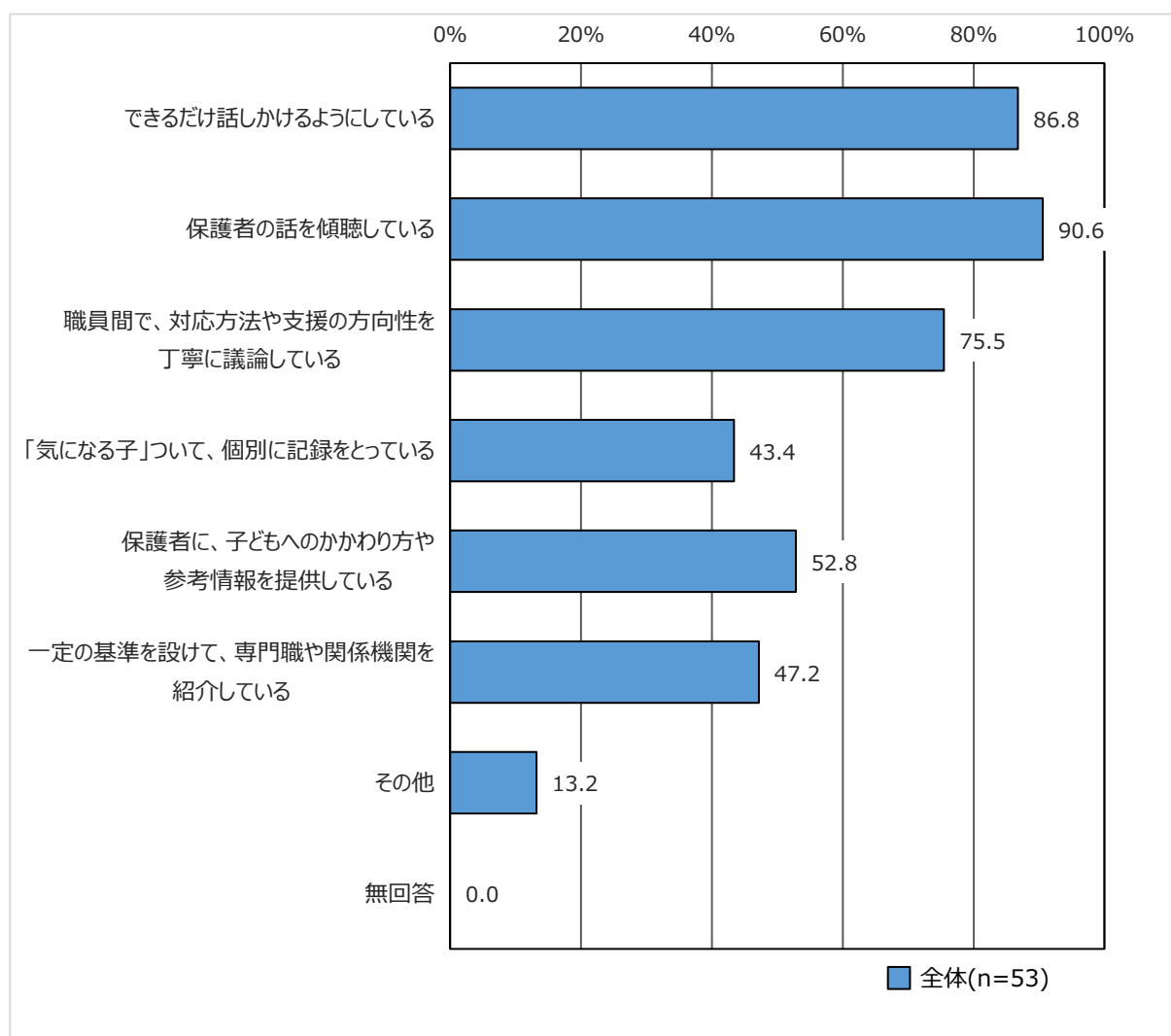
「気になる子や親」の対応において工夫していること

問6 貴拠点において、「気になる子や親」の対応において工夫していることについてお教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

「保護者の話を傾聴している」（90.6%）、「できるだけ話しかけるようにしている」（86.8%）、「職員間で、対応方法や支援の方向性を丁寧に議論している」（75.5%）の割合が特に高い。

「その他」としては、「スタッフ間で共有している」「他の利用者さんと比べないように個人差であることを意識してもらう語りかけをしている」などの回答がみられた。

図表 66 「気になる子や親」の対応において工夫していること：複数回答（問6）



拠点の種類で比較すると、子育て応援拠点は「職員間で、対応方法や支援の方向性を丁寧に議論している」「一定の基準を設けて、専門職や関係機関を紹介している」をはじめ総じて割合が高い。

(クロス集計)

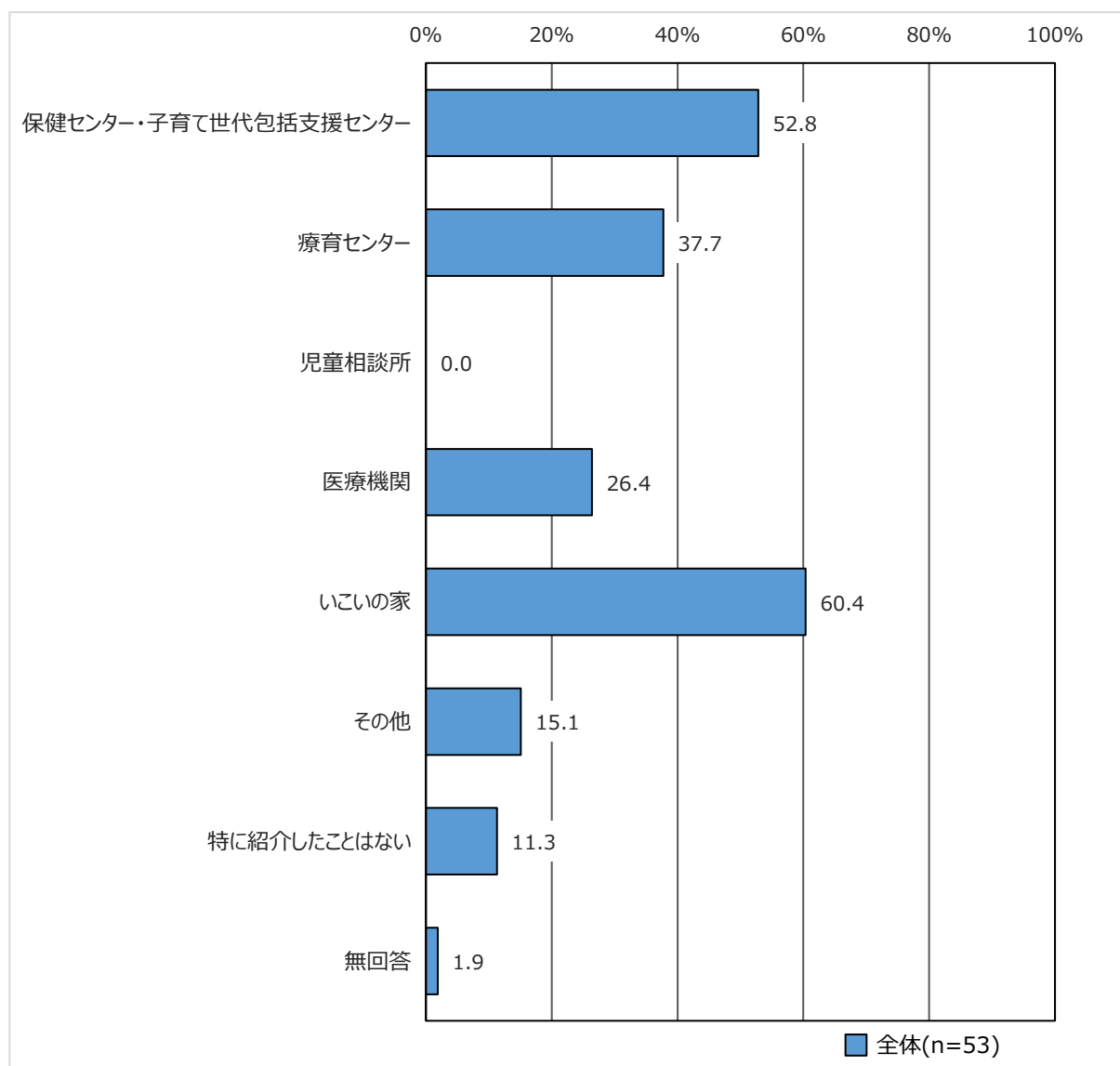
上段：実数 下段：%		合計	できるだけ話しかけるようにしている	保護者の話を傾聴している	職員間で、対応方法や支援の方向性を丁寧に議論している	「気になる子」について、個別に記録をとっている	保護者に、子どもへのかかわり方や参考情報を提供している	一定の基準を設けて、専門職や関係機関を紹介している	その他	無回答
全体		53 100.0	46 86.8	48 90.6	40 75.5	23 43.4	28 52.8	25 47.2	7 13.2	0 0.0
種類	子育て応援拠点	14 100.0	14 100.0	14 100.0	13 92.9	9 64.3	9 64.3	12 85.7	1 7.1	0 0.0
	地域子育て支援拠点	38 100.0	31 81.6	33 86.8	26 68.4	13 34.2	18 47.4	12 31.6	6 15.8	0 0.0

支援機関の保護者への紹介

問7 発達や障害に関して、この1年間に次の支援機関を保護者に紹介したことがありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「いこいの家」が60.4%でもっとも割合が高く、次いで「保健センター・子育て世代包括支援センター」が52.8%、「療育センター」が37.7%となっている。

図表 67 保護者へ紹介した支援機関：複数回答（問7）



拠点の種類で比較すると、子育て応援拠点は「保健センター・子育て世代包括支援センター」「療育センター」「いこいの家」をはじめ総じて紹介先を回答する割合が高くなっている。

(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	保健センター・子育て世代包括支援センター	療育センター（中央療育センター・地域療育センター）	児童相談所	医療機関	いこいの家	その他	特に紹介したことはない	無回答
全体		53 100.0	28 52.8	20 37.7	0 0.0	14 26.4	32 60.4	8 15.1	6 11.3	1 1.9
種類	子育て応援拠点	14 100.0	11 78.6	7 50.0	0 0.0	5 35.7	11 78.6	3 21.4	1 7.1	0 0.0
	地域子育て支援拠点	38 100.0	16 42.1	13 34.2	0 0.0	8 21.1	20 52.6	5 13.2	5 13.2	1 2.6

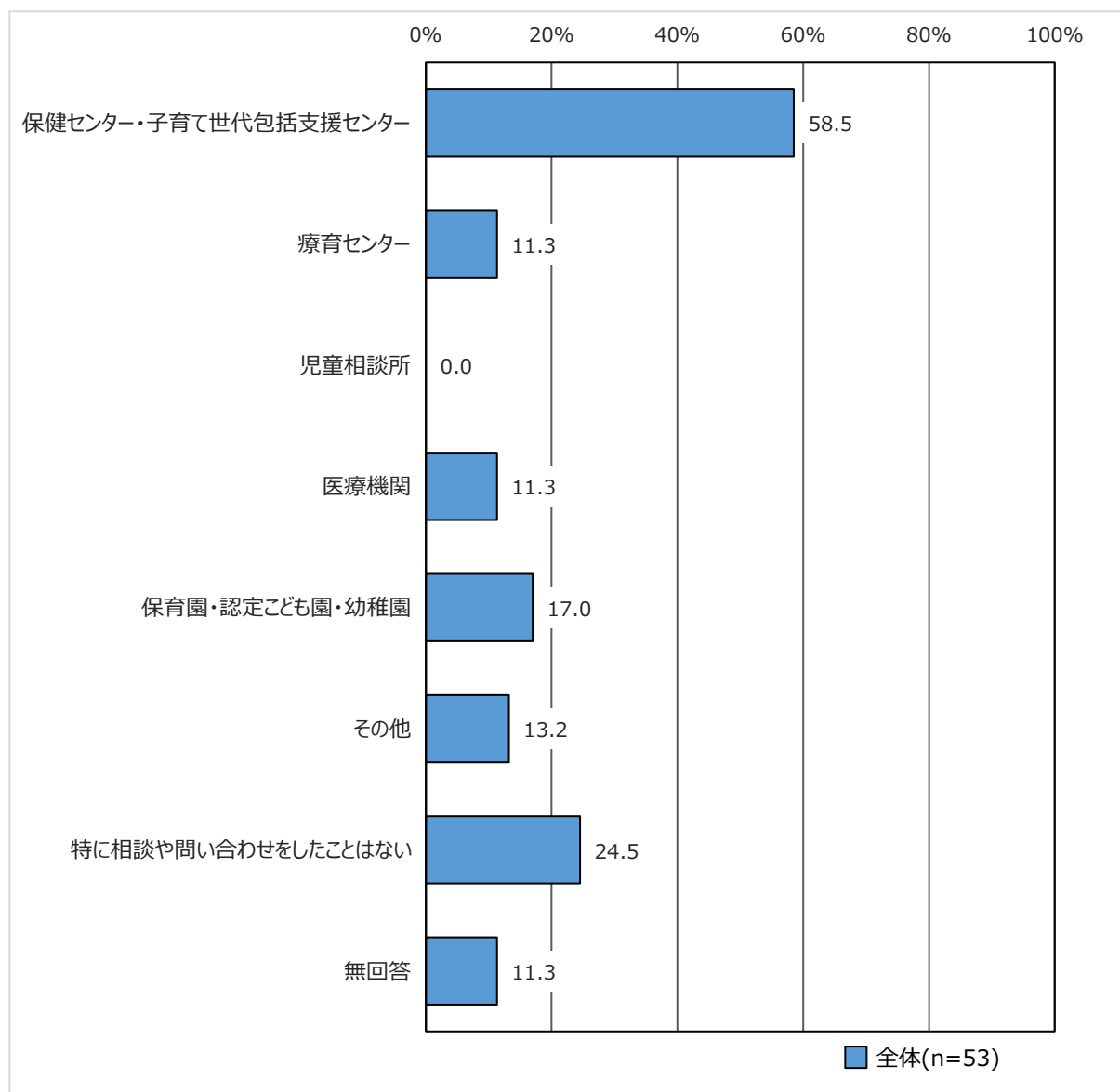
支援機関への相談や問い合わせ

問8 発達や障害に関して、この1年間に次の支援機関に、貴拠点の職員が相談や問い合わせをしたことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

「保健センター・子育て世代包括支援センター」が58.5%でもっとも割合が高く、次いで「特に相談や問い合わせをしたことはない」が24.5%、「保育園・認定こども園・幼稚園」が17.0%となっている。

「その他」としては、「区役所」「他の拠点」「児童発達支援事業所」などの回答がみられた。

図表 68 相談や問い合わせをした支援機関:複数回答(問8)



拠点の種類で比較すると、子育て応援拠点は「保健センター・子育て世代包括支援センター」、地域子育て支援拠点は「特に相談や問い合わせをしたことはない」の割合が高い。

(クロス集計)

上段：実数 下段：％		合計	保健センター・子育て世代包括支援センター	療育センター（中央療育センター・地域療育センター）	児童相談所	医療機関	保育園・認定こども園・幼稚園	その他	特に相談や問い合わせをしたことはない	無回答
全体		53 100.0	31 58.5	6 11.3	0 0.0	6 11.3	9 17.0	7 13.2	13 24.5	6 11.3
種類	子育て応援拠点	14 100.0	13 92.9	3 21.4	0 0.0	4 28.6	4 28.6	2 14.3	1 7.1	0 0.0
	地域子育て支援拠点	38 100.0	17 44.7	3 7.9	0 0.0	2 5.3	5 13.2	5 13.2	12 31.6	6 15.8

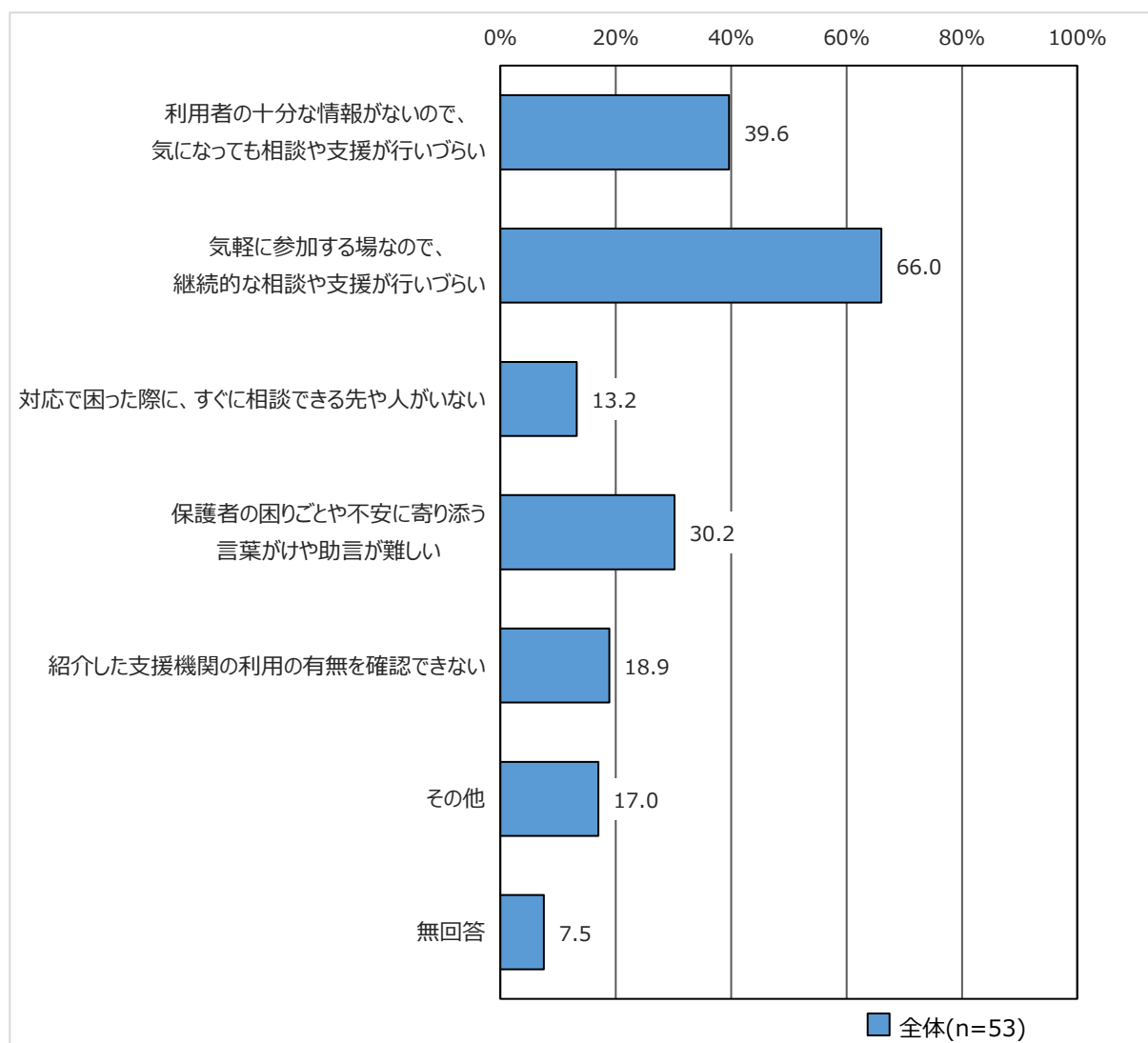
「気になる子」への支援の課題

問9 貴拠点において、「気になる子」への支援に、どのような課題があるとお考えですか。（あてはまる番号すべてに○）

「気軽に参加する場なので、継続的な相談や支援が行いづらい」が66.0%でもっとも割合が高く、次いで「利用者の十分な情報がないので、気になっても相談や支援が行いづらい」が39.6%、「保護者の困りごとや不安に寄り添う言葉がけや助言が難しい」が30.2%となっている。

「その他」としては、「保護者からアプローチがないとこちらからは切り出せないのも、難しい」「普段の広場では話せないのも、休所日に“サロン”として気になる子を集めている」「紹介したケースについて、フィードバックをいただき、多機関で親子を見守りたい。この中へ応援拠点も入れてほしい」などの回答がみられた。

図表 69 「気になる子」への支援の課題：複数回答（問9）



拠点の種類で比較すると、地域子育て支援拠点は「保護者の困りごとや不安に寄り添う言葉がけや助言が難しい」の割合が高くなっている。

(クロス集計)

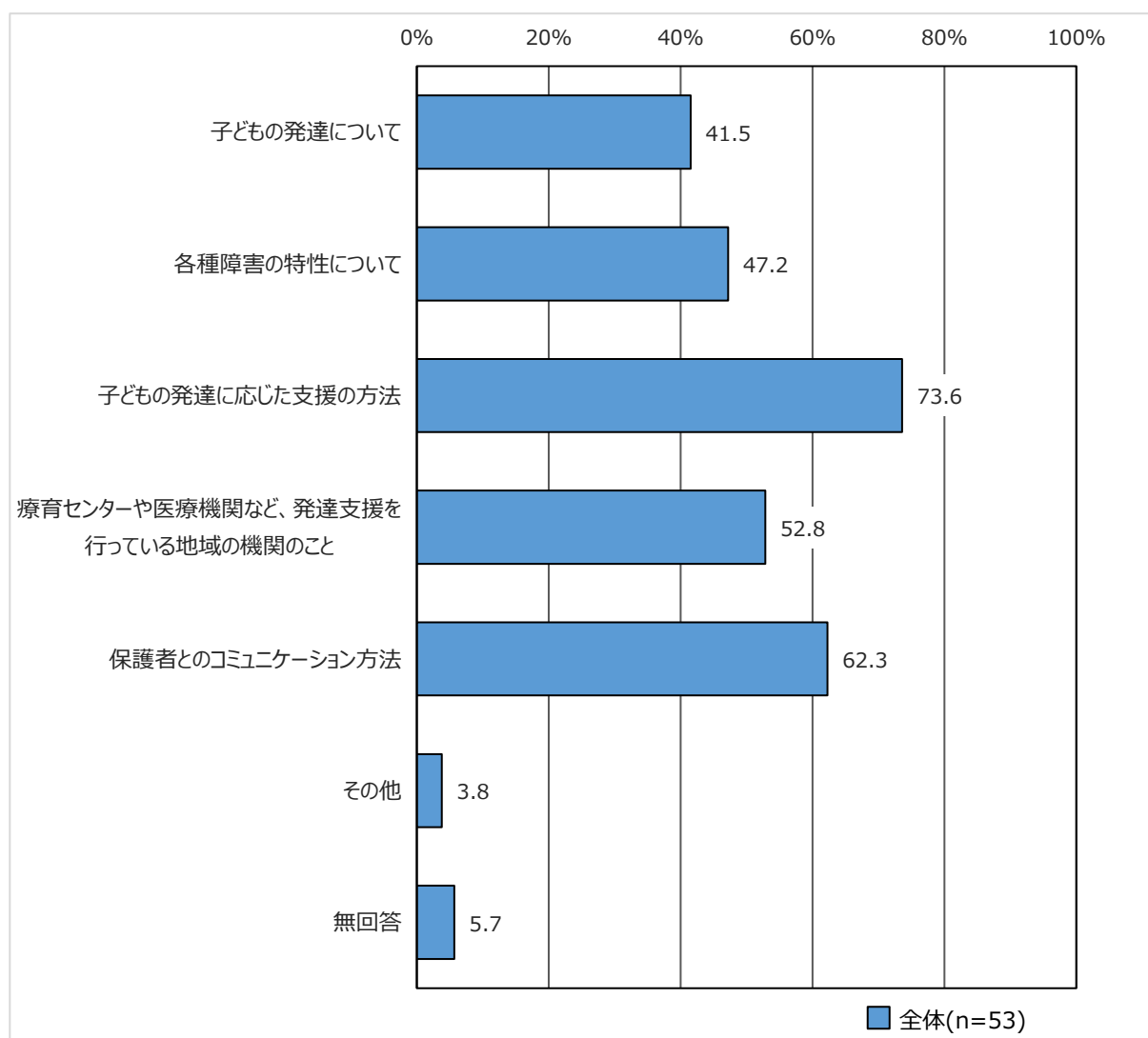
上段：実数 下段：%		合計	利用者の十分な情報がないので、気になっても相談や支援が行いづらい	気軽に参加する場なので、継続的な相談や支援が行いづらい	対応で困った際に、すぐに相談できる先や人がいない	保護者の困りごとや不安に寄り添う言葉がけや助言が難しい	紹介した支援機関の利用の有無を確認できない	その他	無回答
全体		53 100.0	21 39.6	35 66.0	7 13.2	16 30.2	10 18.9	9 17.0	4 7.5
種類	子育て応援拠点	14 100.0	6 42.9	7 50.0	4 28.6	9 64.3	4 28.6	3 21.4	1 7.1
	地域子育て支援拠点	38 100.0	14 36.8	27 71.1	2 5.3	7 18.4	5 13.2	6 15.8	3 7.9

発達支援に関して、知りたいこと、学びたいこと

問10 発達支援に関して、今後さらに知りたいこと、学びたいことは何ですか。（あてはまる番号すべてに○）

「子どもの発達に応じた支援の方法」が73.6%でもっとも割合が高く、次いで「保護者とのコミュニケーション方法」が62.3%、「療育センターや医療機関など、発達支援を行っている地域の機関のこと」が52.8%となっている。

図表 70 発達支援に関して、知りたいこと、学びたいこと：複数回答（問10）



拠点の種類で比較すると、子育て応援拠点は「子どもの発達について」「各種障害の特性について」「療育センターや医療機関など、発達支援を行っている地域の機関のこと」「保護者とのコミュニケーション方法」の割合が高くなっている。

(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	子どもの発達について	各種障害の特性について	子どもの発達に応じた支援の方法	療育センターや医療機関など、発達支援を行っている地域の機関のこと	保護者とのコミュニケーション方法	その他	無回答
全体		53 100.0	22 41.5	25 47.2	39 73.6	28 52.8	33 62.3	2 3.8	3 5.7
種類	子育て応援拠点	14 100.0	11 78.6	11 78.6	11 78.6	12 85.7	12 85.7	2 14.3	0 0.0
	地域子育て支援拠点	38 100.0	11 28.9	14 36.8	27 71.1	15 39.5	21 55.3	0 0.0	3 7.9

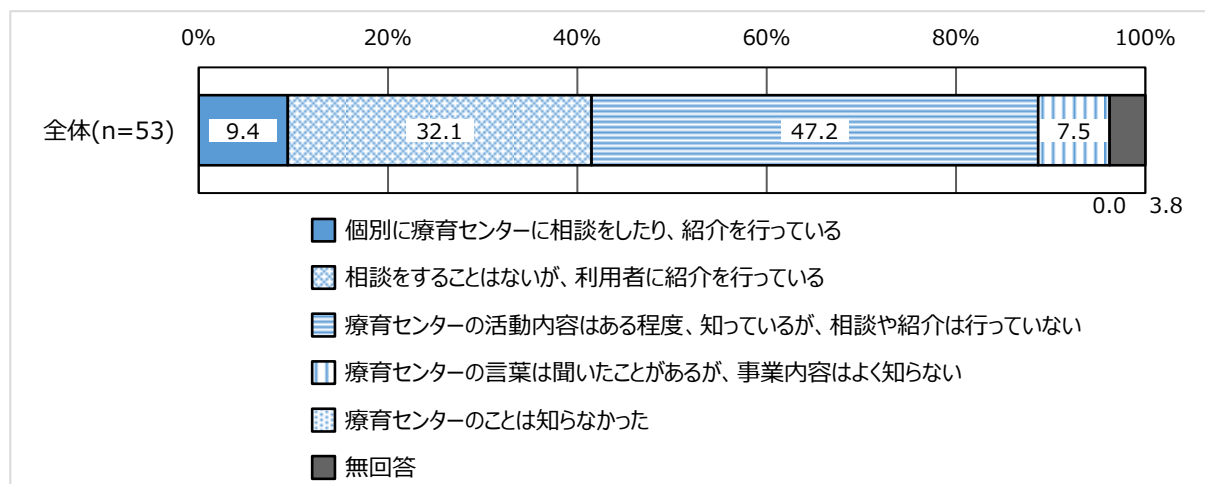
4 地域療育センターについて

療育センターとの関係について

問 1 1 貴拠点と療育センターの関係について、お教えてください。(最も近いもの1つに○)

「個別に療育センターに相談をしたり、紹介を行っている」が9.4%、「相談をすることはないが、利用者に紹介を行っている」が32.1%となっている。

図表 71 療育センターとの関係について:単数回答(問11)



※問11で「1」「2」とお答えの方にお尋ねします。

問 1 2 療育センターには、どのような時に相談や紹介等をしていますか。

(主な回答)

- ・利用者(親)が育ちについてとても気にしていて、スタッフも子の行動が気になるとき。
- ・保護者から子供の言葉の発達のおくれを相談された時や、子供が多動であったり、発達障害の症状が見られると相談された時など
- ・保護者の気持ちをスタッフとの信頼関係を深めた上で、確認してからセンターを紹介している
- ・基本は、まず保健センターへつなぎ、そこからの紹介の形が多いが、療育センターで専門の先生に診てもらえること、助言や対応の伝言も聞けるといいネ、といった方向ですすすめることがあります。
- ・乳幼児健康診断の際に指摘された方が多く、センターの存在を紹介する。モヤモヤするより、行くと教えてもらうことも多いので、保護者の精神的安定のために行くことをすすめています。
- ・保健センターで実施している子育て広場に、拠点スタッフが地域へつなぐ役割として参加、そちらに療育センター職員も参加していることがあり、情報を共有している。必要があれば電話にて問うている。
- ・言葉の遅れ、立たない、歩かないなど月齢より遅く不安に感じている方に、医療機関以外にも行く場所がある事などをお伝えします。
- ・心身に問題のある子どもたちだけに行くのではなく、成長がゆっくりで手助けが必要な子どもたちも行く場所である事を説明し、一度問い合わせをし、予約をとる事をお勧めしています。

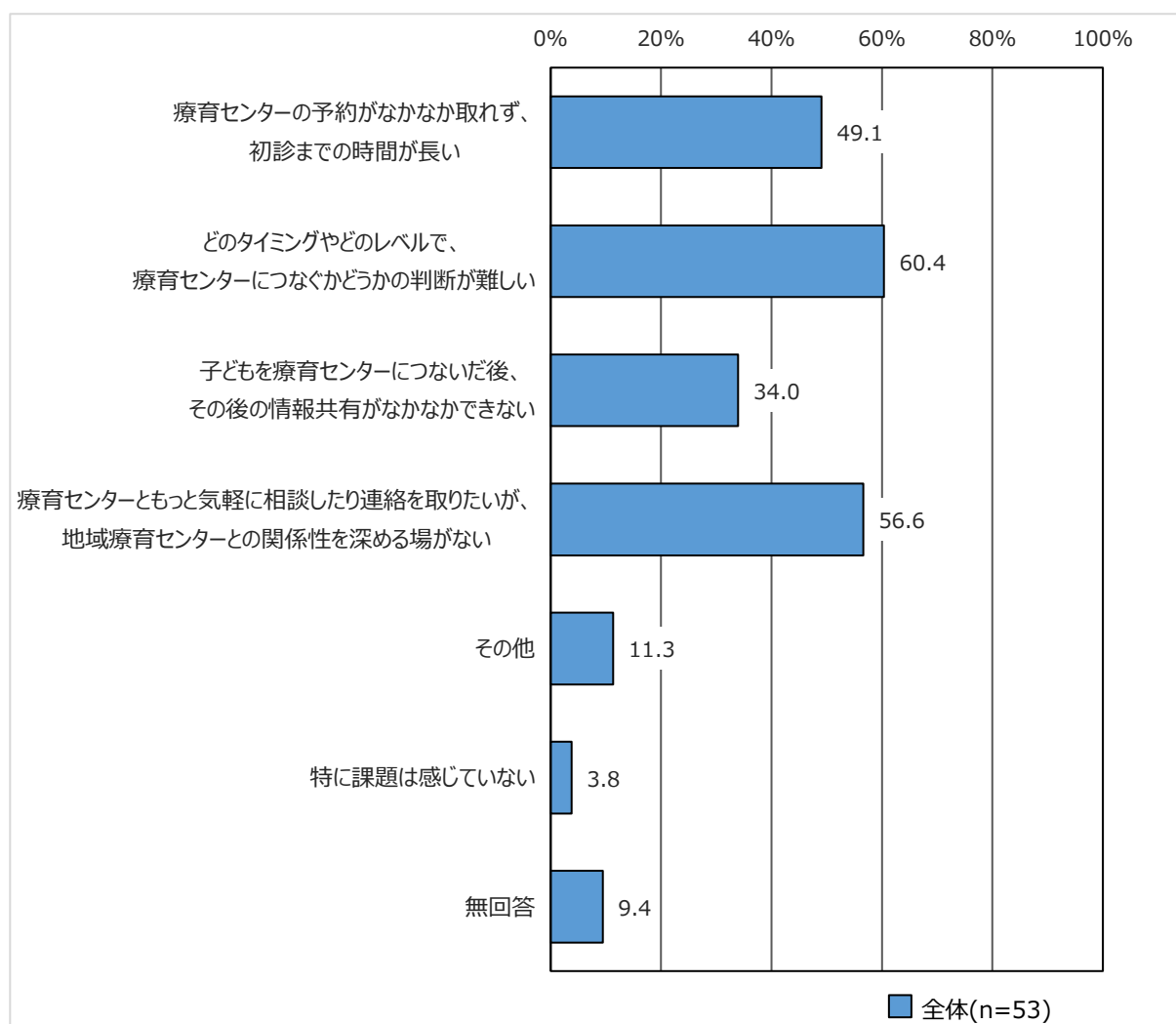
療育センターと連携する上での課題

問 13 療育センターと連携する上で、どのような課題を感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「どのタイミングやどのレベルで、療育センターにつなぐかどうかの判断が難しい」が 60.4%でもっとも割合が高く、次いで「療育センターともっと気軽に相談したり連絡を取りたいが、地域療育センターとの関係性を深める場がない」が 56.6%、「療育センターの予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い」が 49.1%となっている。

「その他」としては、「療育センターへ直接紹介するのは敷居が高いので、保健センターやいいの家からの方が紹介がしやすい」などの回答がみられた。

図表 72 療育センターと連携する上での課題:複数回答(問 13)



拠点の種類で比較すると、子育て応援拠点は「子どもを療育センターにつないだ後、その後の情報共有がなかなかできない」「療育センターともっと気軽に相談したり連絡を取りたいが、地域療育センターとの関係性を深める場がない」の割合が高くなっている。

(クロス集計)

上段：実数 下段：%		合計	療育センターの予約がなかなか取れず、初診までの時間が長い	どのタイミングやどのレベルで、療育センターにつなぐかどうかの判断が難しい	子どもを療育センターにつないだ後、その後の情報共有がなかなかできない	療育センターともっと気軽に相談したり連絡を取りたいが、地域療育センターとの関係性を深める場がない	その他	特に課題は感じていない	無回答
全体		53 100.0	26 49.1	32 60.4	18 34.0	30 56.6	6 11.3	2 3.8	5 9.4
種類	子育て応援拠点	14 100.0	7 50.0	7 50.0	8 57.1	10 71.4	2 14.3	0 0.0	2 14.3
	地域子育て支援拠点	38 100.0	19 50.0	24 63.2	9 23.7	19 50.0	4 10.5	2 5.3	3 7.9

VI 医療機関アンケート

1 発達に遅れや不安のある子どもや障害児等の診療の状況について

受診者数

問1 貴医療機関で発達に遅れや不安のある子どもや障害児等の診療を1年間に何人程度、行っていますか。(小学生以下の子どもを実人数でご記入ください。)

アンケートに回答のあった14医療機関について、発達に遅れや不安のある子どもや障がい児等の診療者数は、1年間で就学前児童が1,363人、小学生児童が1,593人である。ただし、一部の医療機関に集中する傾向がみられる。

1医療機関あたりの就学前児童の受診者数については、20人以上を受け入れている機関は5機関にとどまっている。

図表 73 受診者数:数量回答(問1)

・回答医療機関全体 (n=14)

(実人数)	合計	軽度の発達の遅れ、 育児不安	発達障害・ 精神障害児	知的障害児	身体障害児	重症心身 障害児
就学前児童	1,363	707	499	107	38	12
小学生児童	1,593	376	1,001	169	39	8
中学生～ 18歳未満	953	144	677	113	10	9

* 合計について、就学前児童は上位3機関で1,251人、小学生児童は上位4機関で1,429人

* 合計に加えなかった回答

発達障害・精神障害児は就学前児童で延100人、小学生児童で延250人、中学生～18歳未満で延100人

・1医療機関あたりの受診者数 (n=14)

(医療機関数)	100人以上	20～99人	1～19人	0人	その他	平均	中央値
就学前児童	3	2	5	2	2	114人	8.5人
小学生児童	5	0	5	2	2	133人	15人
中学生～ 18歳未満	5	1	5	1	2	79人	29.5人

*「その他」は、延人数回答と無回答

受診の経緯

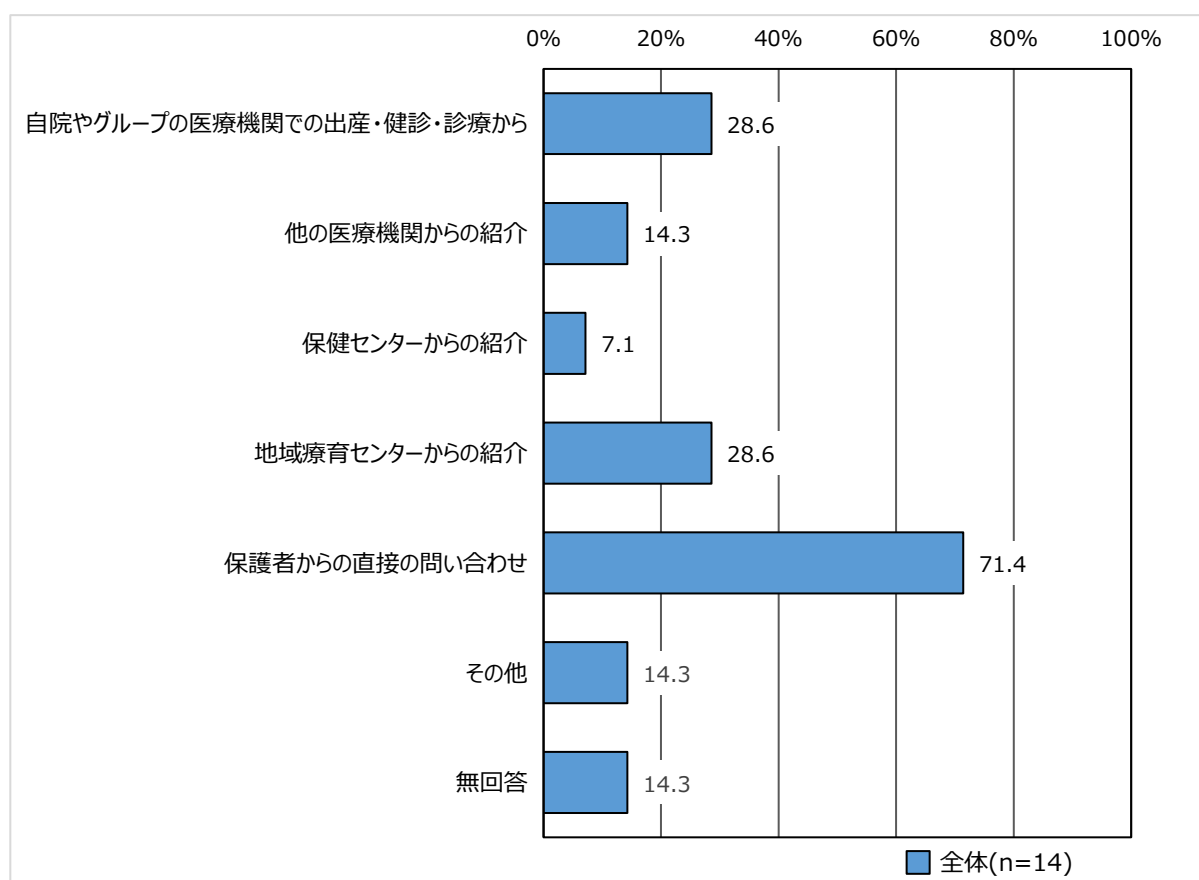
※問2～問7までは、発達に遅れや不安のある子ども、発達障害児、知的障害児等の「就学前児童」を対象にお答えください。

問2 受診の経緯（主なもの2つまで○）

「保護者からの直接の問い合わせ」が71.4%でもっとも割合が高く、次いで「自院やグループの医療機関での出産・健診・診療から」「地域療育センターからの紹介」が28.6%となっている。

その他としては、保育園や学校の紹介、児童相談所の回答がみられた。

図表 74 受診の経緯：複数回答（問2）



診療の頻度

問3 診療の頻度（数字を記入）

1年間に1～2回	割程度	} 合計で10割に
1年間に3～9回	割程度	
1年間に10回以上	割程度	

1人あたりの1年間の診療の頻度について、「1～2回」「3～9回」「10回以上」に分散している。すべての患者が「10回以上」（10割以上）との回答もあれば、8割の患者が「1～2回」との回答もあり、医療機関によって違いがみられる。

図表 75 1年間の診療の頻度（問3）

n=11（無回答を除く）

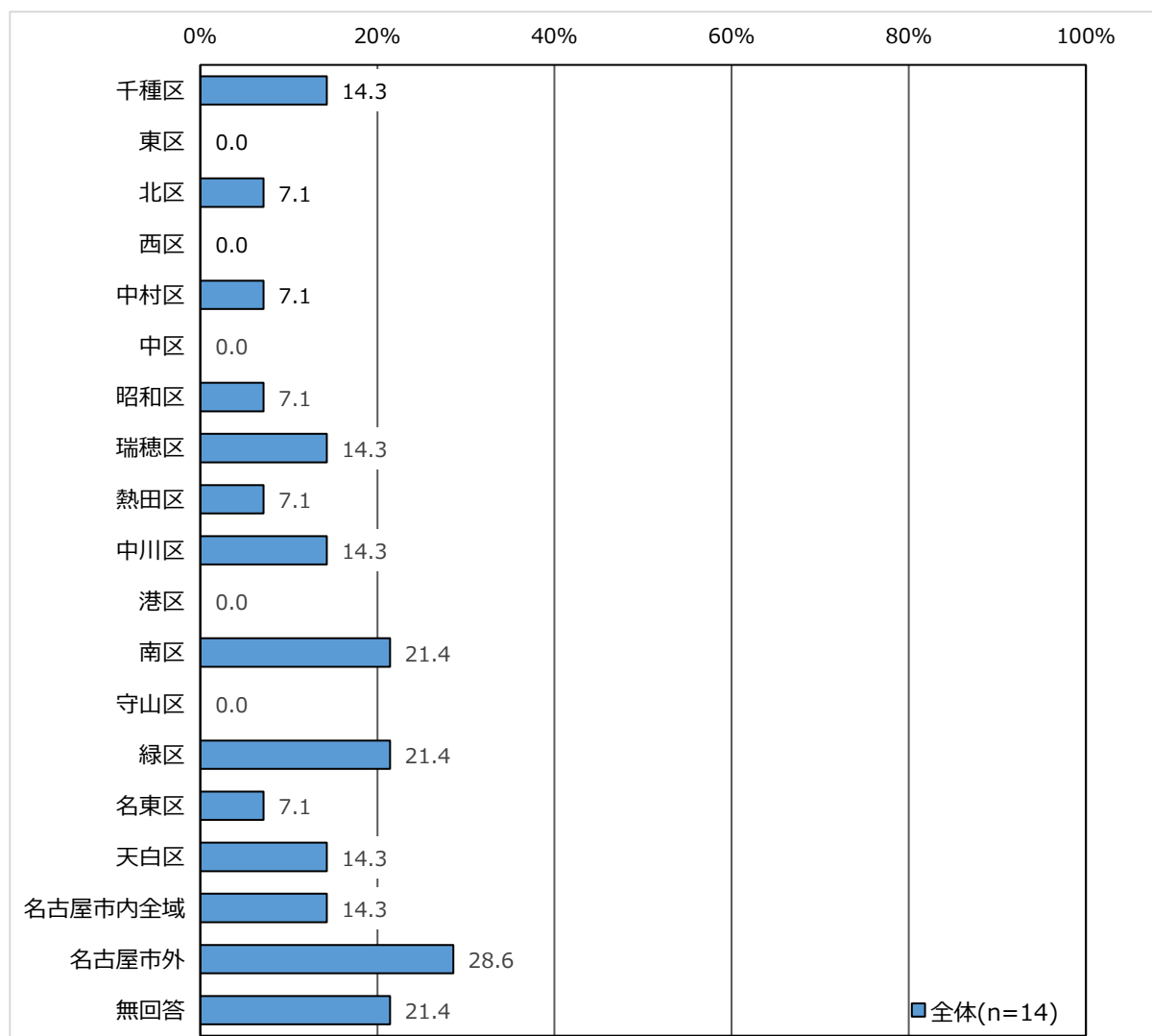
	1～2回	3～9回	10回以上
平均	3割	3.8割	3.2割
中央値	2割	3割	2割
最大	8割	8割	10割
最小	0割	0割	0割

受診者の住まい

問 4 受診者のお住まい（主なもの3つまで○）

比較的各区に分散しており、「名古屋市内全域」「名古屋市外」など広域にわたる医療機関もみられる。なお、主な住まいとして「東区」「西区」「中区」「港区」「守山区」をあげる医療機関はみられなかった。

図表 76 受診者の住まい:複数回答（問 4）



医師の人数

問 5 ご担当する医師の人数（数字を記入）

回答医療機関の合計で 39 人、うち専任常勤は 9 人である。一部の医療機関に集中しており、その他の医療機関における医師数は限られている。

図表 77 医師の人数：数量回答（問 5）

n=11（無回答を除く）

（人）	医師数合計	専任常勤	兼任常勤	非常勤
平均	3.5	0.8	2.2	0.5
中央値	1	1	0	0
最大	22	2	19	3
最小	1	0	0	0
合計	39	9	24	6

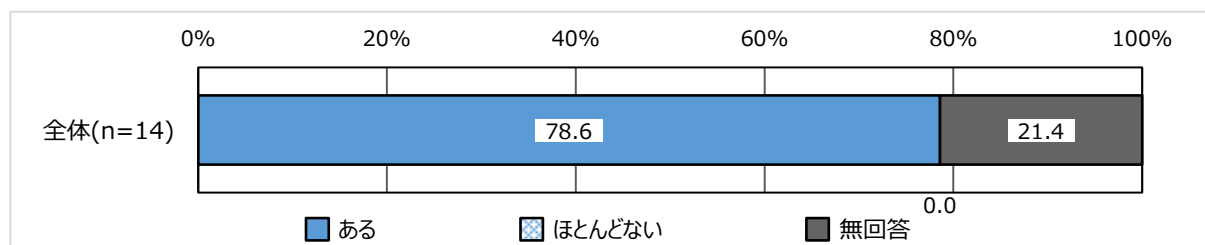
*医師数合計について、1 機関で 22 人（兼任常勤 19 人）の医療機関あり

子どもにとって初めての診断の実施状況

問6 障害について、その子どもにとって初めてとなる診断を行うことは、ありますか。
(1つに○)

「ある」が78.6%である。

図表 78 子どもにとって初めての診断の実施状況：単数回答（問6）



問6-1 初めてとなる診断を行う子どもは、1年間に何人ぐらいですか。（数字を記入）

初めてとなる診断を行う就学前児童数は、年間456人（うち3～5歳児が341人）となっている。

図表 79 診断の人数：数量回答（問6-1）

n=10（問6で「ある」かつ問6-1で回答のあった医療機関）

(人)	子ども合計	0～2歳児	3～5歳児
平均	46	12	34
中央値	14	3	12
最大	180	60	150
最小	1	0	1
合計	456	115	341

*子ども合計について、上位2機関で350人

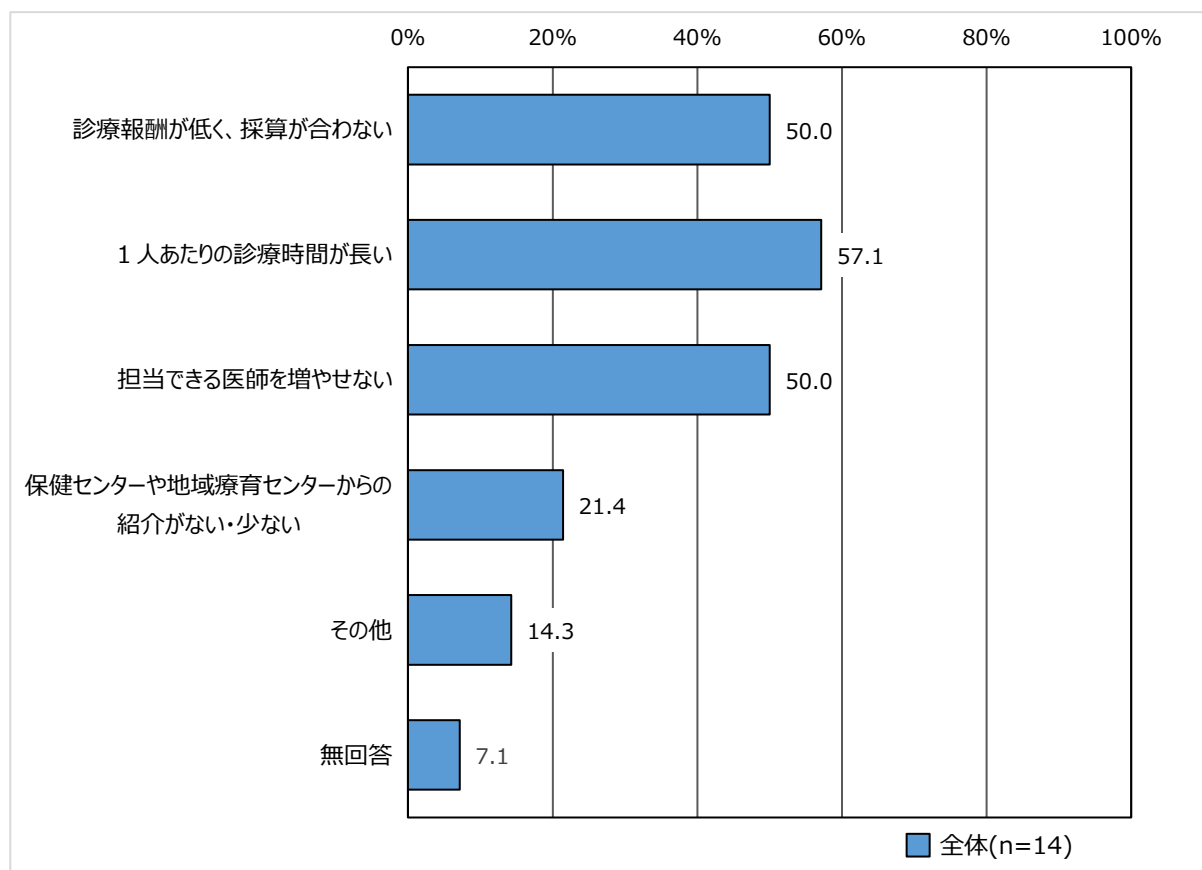
受診者を増やすことについての課題

※すべての方にお尋ねします

問7 受診者を増やすことについて、どのような課題がありますか。(あてはまるものすべてに○)

「1人あたりの診療時間が長い」(57.1%)、「診療報酬が低く、採算が合わない」(50.0%)、「担当できる医師を増やせない」(50.0%)の割合が特に高い。

図表 80 受診者を増やすことについての課題:複数回答(問7)

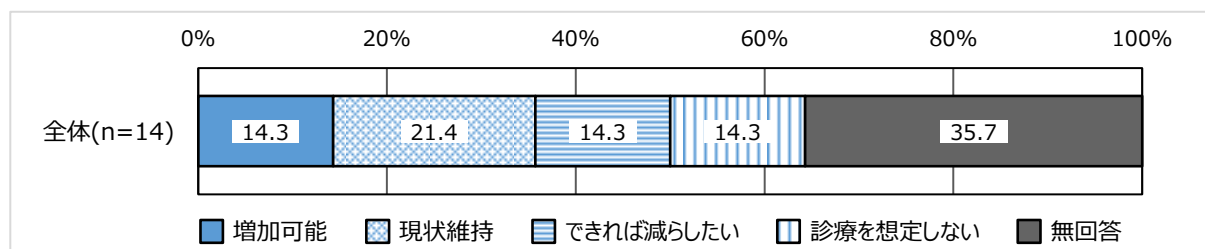


受診者対応の意向（就学前児童）

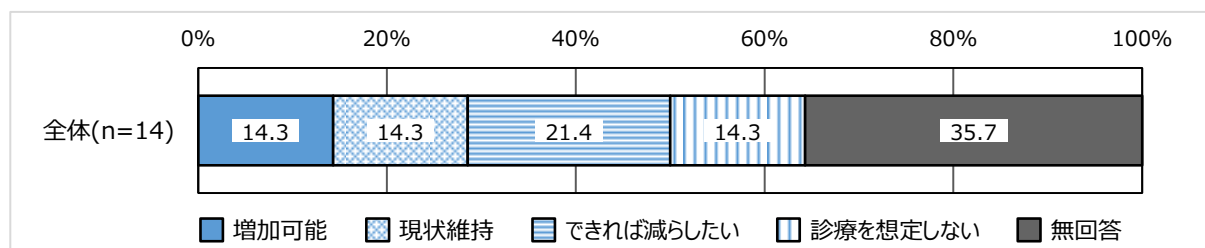
問 8 発達に遅れや不安のある子ども、発達障害児、知的障害児等の診療を年間で、何人程度、担当することが可能ですか。（数字を記入）

就学前児童・小学生児童ともに「増加可能」の回答は2医療機関にとどまっている。

図表 81 受診者対応の意向（就学前児童）：単数回答（問 8-1）



図表 82 受診者対応の意向（小学生児童）：単数回答（問 8-2）



n=14

(医療機関数)	増加可能	現状程度	できれば減らしたい	診療を想定しない	無効回答 無回答
就学前児童	2	3	2	2	5
小学生児童	2	2	3	2	5

*「増加可能」は、現状と比べて5人以上、増加が可能な場合

「現状維持」は、現状と比べて5人未満の変化

「できれば減らしたい」は、現状と比べて5人以上、減少している場合

「診療を想定しない」は、現状・診療可能ともに0人を回答

現状と診療可能人数の乖離が大きい3医療機関は無効回答とした

2 リハビリテーションについて

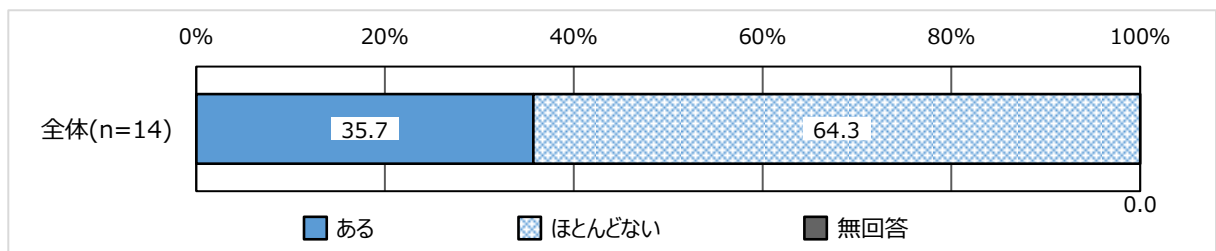
リハビリテーションの実施状況

※すべての方にお尋ねします

問9 貴医療機関で障害児について、リハビリテーションを実施することはありますか。
(1つに○)

「ある」が35.7%、「ほとんどない」が64.3%となっている。

図表 83 リハビリテーションの実施状況:単数回答(問9)



問9-1 リハビリテーションの受療者数(1年間)

就学前児童を対象としたリハビリテーションを行うのは、4機関で、人数は295人である。

図表 84 リハビリテーションの受療者数:数量回答(問9-1)

・就学前児童

	発達障害・ 精神障害児 知的障害児	身体障害児 ・重症心身 障害児
医療機関数	4	1
合計人数	285	10

・小学生児童

	発達障害・ 精神障害児 知的障害児	身体障害児 ・重症心身 障害児
医療機関数	3	1
合計人数	190	6

*就学前児童・小学生児童ともに「発達障害・精神障害児・知的障害児」「身体障害児・重症心身障害児」の区分が未回答の医療機関が1つあり

問 9-2 リハビリテーションの内容（1 年間の実人数）

就学前児童について、理学療法が 3 機関で 44 人、作業療法が 2 機関で 59 人、言語聴覚療法が 2 機関で 219 人にリハビリテーションを行っている。

図表 85 リハビリテーションの内容:数量回答（問 9-1）

・ 就学前児童

	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
実施医療機関数	3	2	2
合計人数	44	59	219

・ 小学生児童

	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
実施医療機関数	2	2	2
合計人数	27	71	112

3 地域療育センター・関連機関との連携について

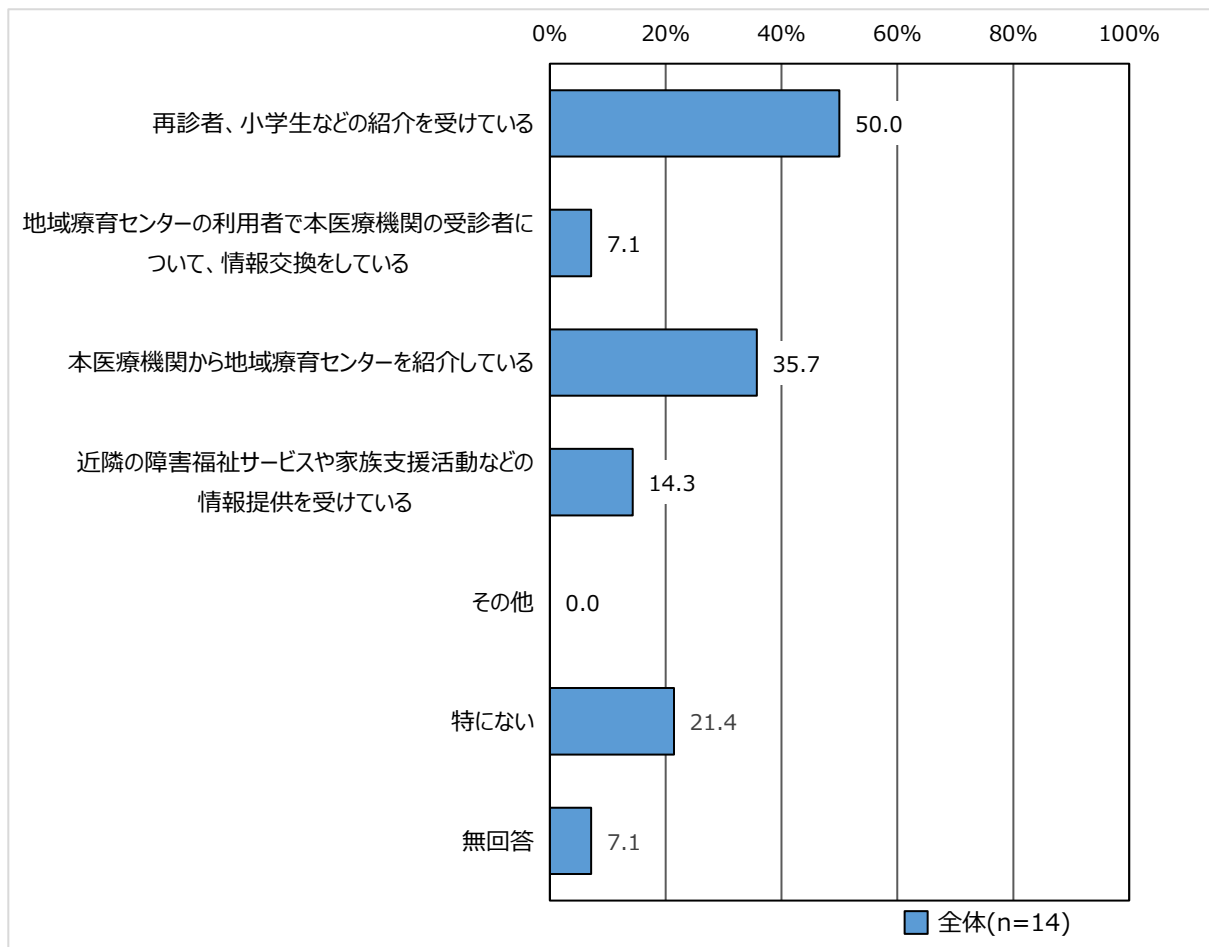
地域療育センターとの連携状況

※すべての方にお尋ねします

問10 名古屋市の地域療育センターについて、現在、どのような連携をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「再診者、小学生などの紹介を受けている」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「本医療機関から地域療育センターを紹介している」が35.7%となっている。

図表 86 地域療育センターとの連携状況：複数回答（問10）

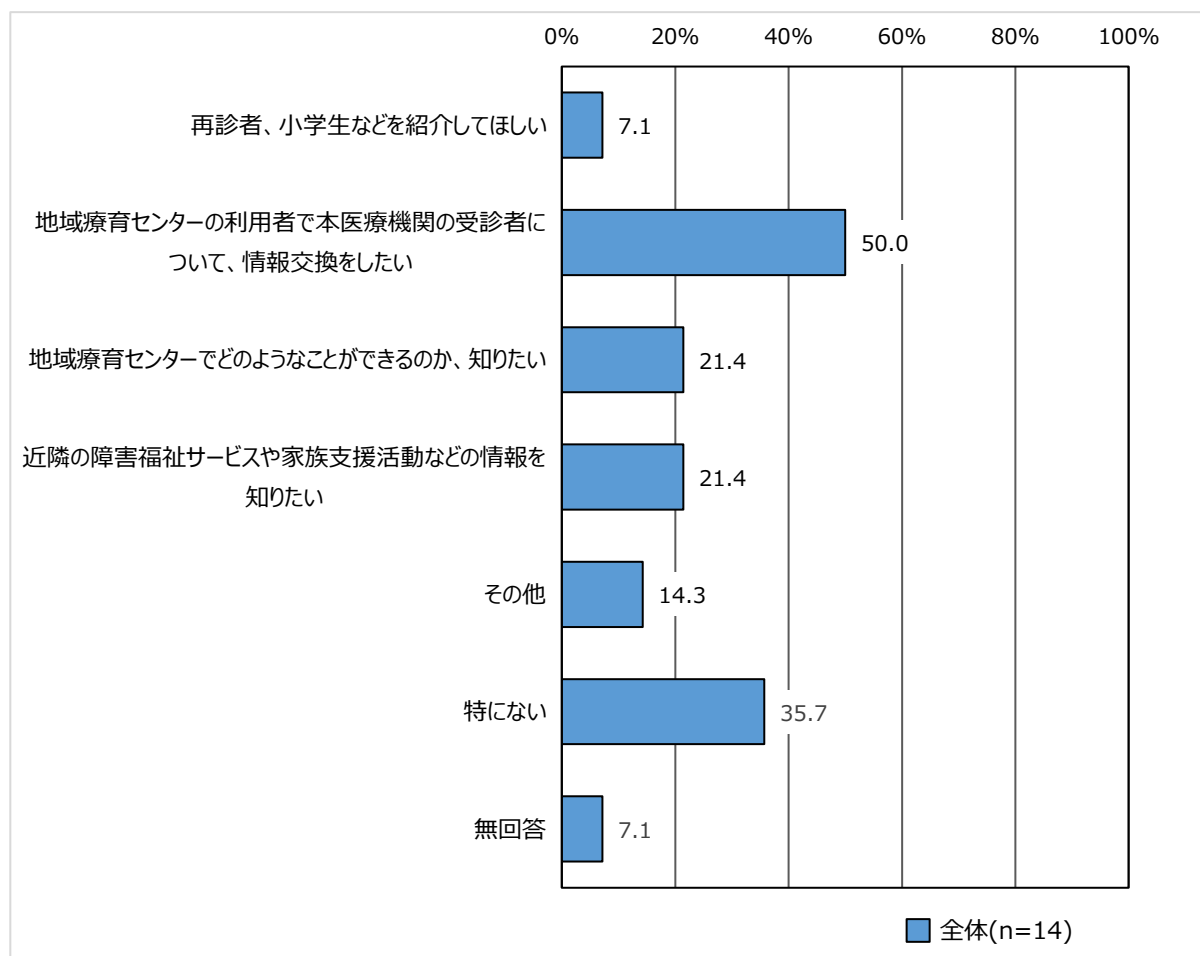


地域療育センターとの連携で希望すること

問 1 1 名古屋市の地域療育センターについて、どのような連携を希望されますか。(あてはまるものすべてに○)

「地域療育センターの利用者で本医療機関の受診者について、情報交換をしたい」が 50.0%で最も割合が高く、「地域療育センターでどのようなことができるのか、知りたい」「近隣の障害福祉サービスや家族支援活動などの情報を知りたい」が 21.4%となっている。

図表 87 地域療育センターとの連携で希望すること：複数回答（問 11）

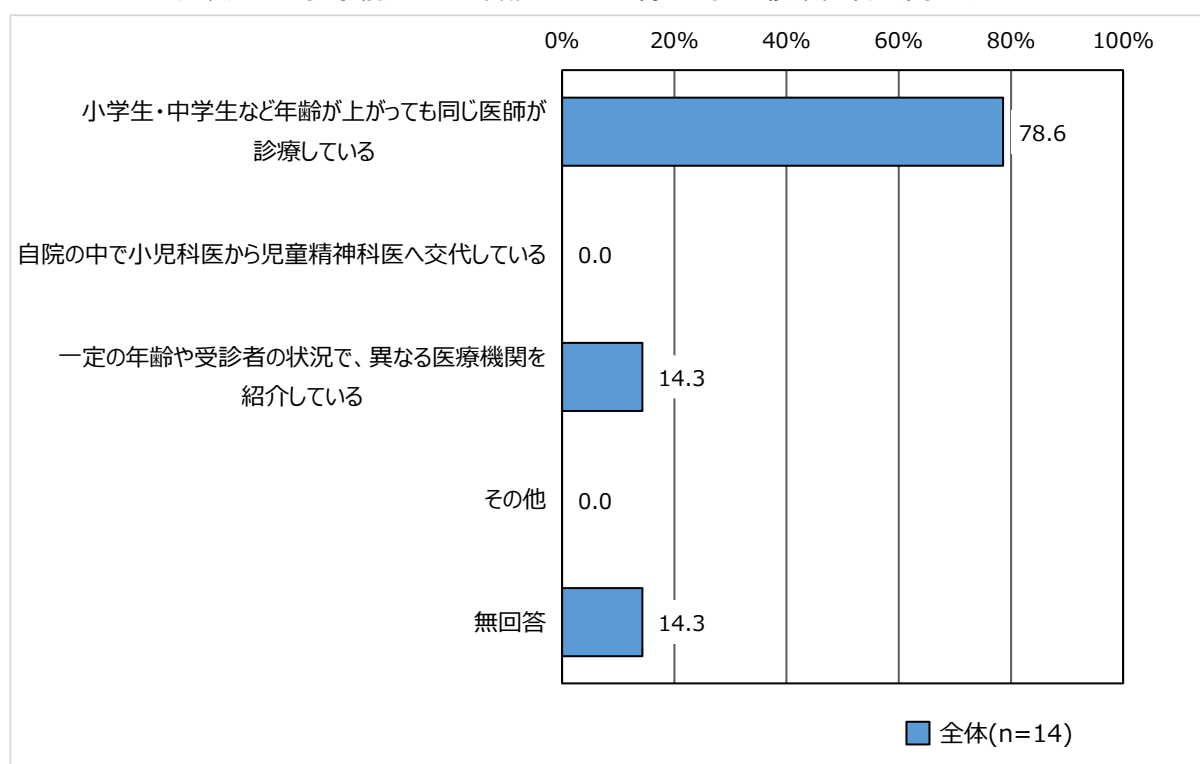


就学前児童の年齢が上がる際の対応

問 13 貴医療機関では、就学前児童の年齢が小学生、中学生など上がっていく場合、どのように対応していますか。（あてはまるものすべてに○）

「小学生・中学生など年齢が上がっても同じ医師が診療している」が 78.6%、「一定の年齢や受診者の状況で、異なる医療機関を紹介している」が 14.3%となっている。

図表 88 就学前児童の年齢が上がる際の対応：複数回答（問 13）



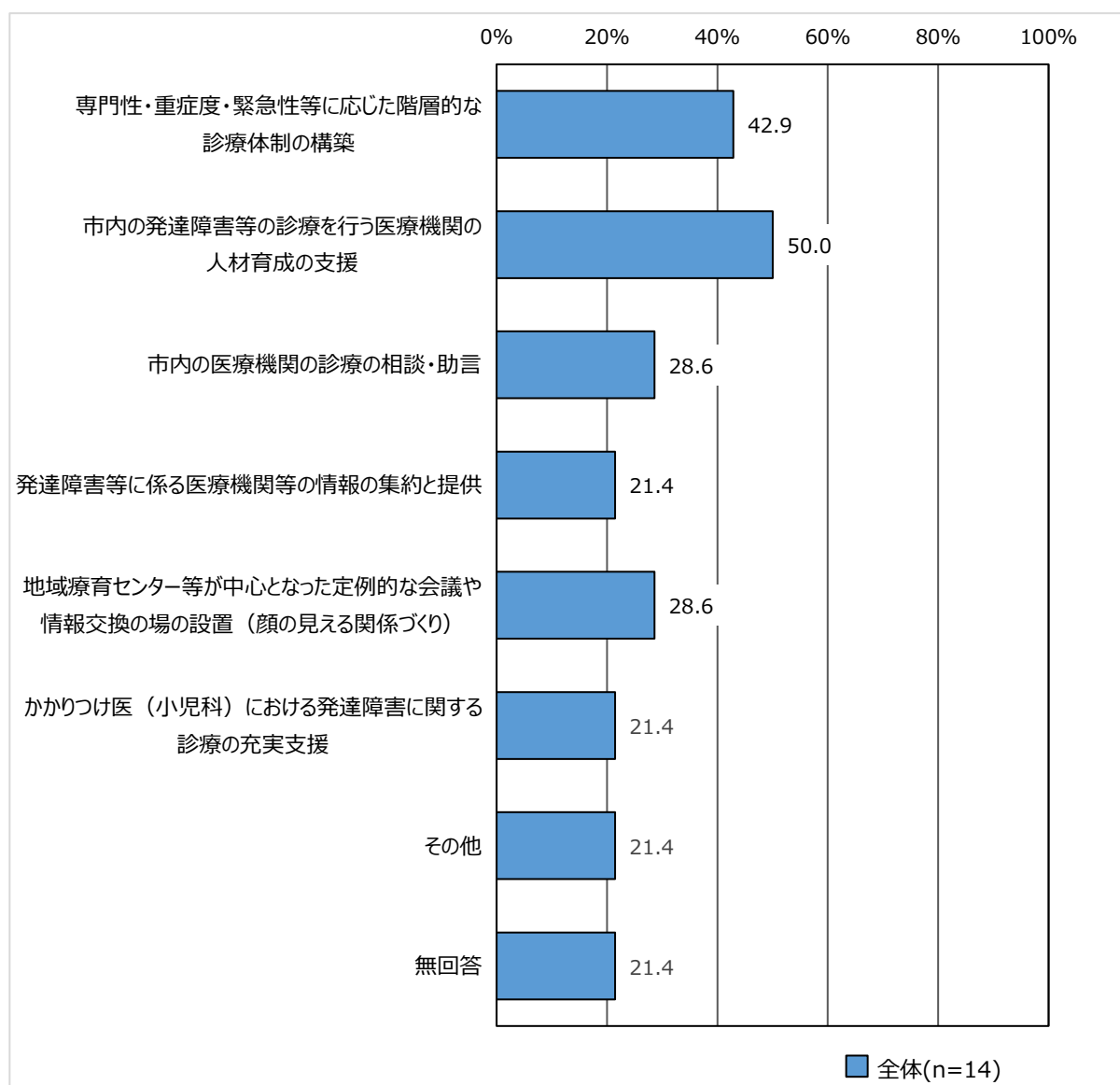
発達障害児等の診療の充実に向けて

※すべての方にお尋ねします

問 14 名古屋市内的における発達障害児等の診療の充実に向けて、どのような取り組みがあると良いと思われますか。（あてはまるものすべてに○）

「市内の発達障害等の診療を行う医療機関の人材育成の支援」が 50.0%でもっとも割合が高く、次いで「専門性・重症度・緊急性等に応じた階層的な診療体制の構築」が 42.9%、「市内の医療機関の診療の相談・助言」「地域療育センター等が中心となった定例的な会議や情報交換の場の設置（顔の見える関係づくり）」が 28.6%となっている。

図表 89 発達障害児等の診療の充実に向けて：複数回答（問 14）



VII 児童発達支援指定事業所利用者アンケート

- ・指定事業所（児童支援給付）を利用している児童の保護者に対して、事業所運営に関する評価が行われている。この保護者による回答について集計・分析した。
- ・「はい」の割合をみると、「事業所の支援に満足しているか」で95.2%、「子どもは通所を楽しみにしているか」で91.4%など、保護者からの評価は高い。「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか」で94.2%、「児童発達支援計画に沿った支援が行われているか」で92.6%、「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか」で91.5%など、支援に関する項目の評価も高い傾向がみられる。
- ・一方、「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」(24.4%)、「父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか」(25.9%)、「保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか」(52.1%)、など保護者間や関係機関との交流について「はい」の割合が低い。
- ・また、「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」(56.7%)、「緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか」(68.3%)、など、緊急時の対応について「はい」の割合が他の項目と比べて低い。

設問	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	無回答	合計
子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	91.7%	5.1%	0.2%	2.7%	0.3%	100.0%
職員の配置数や専門性は適切であるか	86.3%	5.1%	0.4%	7.9%	0.3%	100.0%
生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	85.9%	5.8%	0.6%	7.3%	0.4%	100.0%
生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	93.6%	2.8%	0.3%	2.8%	0.5%	100.0%
子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	94.2%	2.3%	0.2%	3.0%	0.3%	100.0%
児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	86.1%	3.5%	0.3%	9.4%	0.8%	100.0%
児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	92.6%	2.6%	0.1%	4.2%	0.7%	100.0%
活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	89.5%	5.0%	0.4%	4.7%	0.4%	100.0%
保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	24.4%	11.2%	24.6%	38.9%	0.8%	100.0%
運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	96.1%	2.2%	0.3%	1.0%	0.3%	100.0%
児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	89.3%	3.3%	1.2%	5.6%	0.6%	100.0%
保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	52.1%	13.3%	10.3%	23.3%	1.0%	100.0%
日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	91.5%	5.0%	0.4%	1.4%	1.6%	100.0%
定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	81.0%	9.9%	3.5%	4.8%	0.8%	100.0%
父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	25.9%	12.9%	28.3%	31.9%	1.0%	100.0%
子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	85.7%	6.6%	0.6%	6.7%	0.4%	100.0%
子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	91.3%	3.7%	0.9%	3.4%	0.6%	100.0%
定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	73.3%	8.9%	2.1%	14.9%	0.9%	100.0%
個人情報の取扱いに十分注意されているか	90.7%	2.6%	0.3%	5.7%	0.7%	100.0%
緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	68.3%	8.8%	2.4%	19.5%	1.0%	100.0%
非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	56.7%	8.1%	4.2%	30.1%	0.9%	100.0%
子どもは通所を楽しみにしているか	91.4%	5.3%	0.4%	2.1%	0.7%	100.0%
事業所の支援に満足しているか	95.2%	3.4%	0.2%	0.5%	0.7%	100.0%
総計	80.0%	5.9%	3.5%	9.9%	0.7%	100.0%

